

任ヲ竭サムコトヲ望ム

第三十二回(臨時)議會 (大正三年五月五日)

朕茲ニ帝國議會開院ノ式ヲ行ヒ貴族院及衆議院ノ各員ニ告ク

朕今皇妣大喪ノ議ヲ行ハムトスルニ方リ國務大臣ニ命シテ之ニ關スル豫算案ヲ提出セシム卿等
審議以テ協贊ノ任ヲ竭サムコトヲ望ム

第三十三回(臨時)議會 (大正三年六月二十二日)

朕茲ニ帝國議會開院ノ式ヲ行ヒ貴族院及衆議院ノ各員ニ告ク

朕ハ國務大臣ニ命シ海軍軍備補充ニ必要ナル大正三年度追加豫算案ヲ提出セシム卿等慎重審議
以テ協贊ノ任ヲ竭サムコトヲ望ム

第三十四回(臨時)議會 (大正三年九月四日)

朕茲ニ帝國議會開院ノ式ヲ行ヒ貴族院及衆議院ノ各員ニ告ク

歐洲戰亂ノ殃禍今ヤ東洋ニ波及シ朕ハ東洋永遠ノ平和ヲ保持セムカ爲終ニ獨逸國ニ對シ戰ヲ宣
スルノ已ムヲ得サルニ至レリ

朕ハ帝國臣民カ義勇克ク公ニ奉シ一致和協速ニ交戰ノ目的ヲ達シ以テ國光ヲ宣揚セムコトヲ
期ス

朕ハ國務大臣ニ命シテ時局ニ關シ特ニ緊急ナル豫算案及法律案ヲ提出セシム卿等克ク朕カ意ヲ
體シ和衷協贊ノ任ヲ竭サムコトヲ望ム

第三十五回議會 (大正三年十二月七日)

朕茲ニ帝國議會開院ノ式ヲ行ヒ貴族院及衆議院ノ各員ニ告ク

帝國ト締盟列國トノ交際ハ益々親厚ヲ加ヘ英國トノ同盟及佛露兩國トノ協商ハ今次ノ危局ニ際
シ愈々其ノ鞏固ナルコトヲ昭ニシタリ朕深ク之ヲ欣フ

朕カ外征ノ師ハ聯合國軍ト共ニ敵ノ勢力ヲ摧キ東洋爲ニ漸ク其ノ安ヲ保タムトス然レトモ戰局
猶未タ收マラス朕ハ臣民ノ忠誠ニ倚信シ速ニ終局ノ目的ヲ達セムコトヲ期ス
朕ハ國務大臣ニ命シテ更ニ行政及財政ノ整理ヲ爲シ時勢ノ必要ニ應スル諸般ノ經畫ヲ定メシメ
大正四年度臨時事件費ノ豫算案ハ各般ノ法律案ト共ニ帝國議會ノ議ニ付セシム卿等克ク朕カ意
ヲ體シ和衷協贊ノ任ヲ竭サムコトヲ望ム

(二) 開院式勅語奉答ニ對スル勅語(二號)(一)參看)

第一回議會 (明治二十三年十二月一日)

朕衆議院ノ深厚ナル敬禮ヲ嘉ス

(三)内閣不信任ノ上奏ニ對スル勅語 (四)内閣不信任ノ上奏ニ對スル詔勅

(備考)

每會期之ヲ賜フヲ例トス

(三) 内閣不信任ノ上奏ニ對スル勅語(二號(六)參看)

第四回議會 (明治二十六年二月八日)

朕能ク熟覽シ置ク

(四) 内閣不信任ノ上奏ニ對スル詔勅(二號(六)參看)

第四回議會 (明治二十六年二月十日)

在廷ノ臣僚及帝國議會ノ各員ニ告ク

古者皇祖國ヲ肇ムルノ初ニ當リ六合ヲ兼テ八紘ヲ掩フノ詔アリ朕既ニ大權ヲ總攬シ藩邦ノ制ヲ廢シ文武ノ政ヲ革メ又宇内ノ大勢ヲ察シ開國ノ國是ヲ定ム爾來二十有餘年百揆ノ施設一ニ皆祖宗ノ遠猷ニ率由シ以テ臣民ノ康福ヲ増シ國家ノ隆昌ヲ圖ラムトスルニ外ナラス朕又議會ヲ開キ公議ヲ盡シ以テ大業ヲ翼贊セシメムコトヲ期シタリ而シテ憲法ノ施行方ニ初歩ニ屬ス始ヲ慎ミ終ヲ克クシ端ヲ今日ニ正シ大成ヲ將來ニ期セサルヘカラス願ルニ宇内列國ノ進

勢ハ日一日ヨリ急ナリ今ノ時ニ當リ紛爭日ヲ曠クシ遂ニ大計ヲ遺レ以テ國運進張ノ機ヲ誤ルカ如キコトアラハ朕カ祖宗ノ威靈ニ奉對スルノ志ニ非ス又立憲ノ美果ヲ收ムルノ道ニ非サルナリ朕ハ在廷ノ臣僚ニ信任シテ其ノ大事ヲ終始セムコトヲ欲シ又人民ノ選良ニ倚籍シテ朕カ日夕ノ憂虞ヲ分ツコトヲ疑ハサルナリ

憲法第六十七條ニ掲ケタル費目ハ既ニ正文ノ保障スル所ニ屬シ今ニ於テ紛議ノ因タルヘカラス但シ朕ハ特ニ閣臣ニ命シ行政各般ノ整理ハ其ノ必要ニ從ヒ徐ロニ審議熟計シテ遺算ナキヲ期シ朕カ裁定ヲ仰カシム

國家軍防ノ事ニ至テハ苟モ一日ヲ緩クスルトキハ或ハ百年ノ悔ヲ遺サム朕茲ニ内廷ノ費ヲ省キ六年ノ間毎歲參拾萬圓ヲ下付シ又文武ノ官僚ニ命シ特別ノ情狀アル者ヲ除ク外同年月間其ノ俸給十分一ヲ納レ以テ製艦費ノ補足ニ充テシム朕ハ閣臣ト議會トニ倚リ立憲ノ機關トシ其ノ各權域ヲ慎ミ和協ノ道ニ由リ以テ朕カ大事ヲ輔翼シ有終ノ美ヲ成サムコトヲ望ム

(五) 前號ノ詔勅奉答ニ對スル勅語(宮内大臣ノ口達)(二號(二)參看)

第四回議會 (明治二十六年二月十三日)

附錄

一 勅語及詔勅 (五)前號ノ詔勅奉答ニ對スル勅語

(六)議長星亨不信任ノ上奏ニ對スル勅問 (七)現内閣ノ行爲ニ對シ本院ノ意思ヲ表明スル上奏ニ對スル御沙汰 (八)製艦費ニ關スル上奏ニ對スル勅語 (九)償金ノ一部ヲ帝室御料ニ編入ノ建議ニ對スル勅語 二十二
本日ノ奉答ハ満足ニ思召ス

(六) 議長星亨不信任ノ上奏ニ對スル勅問(二號(三)及(九)參看)

第五回議會 (明治二十六年十二月二日)

上奏ノ趣旨ハ

朕ニ議長ヲ更任セヨト請願スルニ在ル乎

議院自ラ不明ナリシトノ過失ヲ朕ニ對シ謝スルト言ニ止乎

更ニ院議ヲ盡セ

(七) 現内閣ノ行爲ニ對シ本院ノ意思ヲ表明スル上奏ニ對スル御沙汰

(宮内大臣ノ口達)

第六回議會 (明治二十七年八月二日)

衆議院ノ上奏ハ御採用ニ相成ラス上奏ニ對セラレテハ別段書面ヲ以テ勅答アラセラレス

(八) 製艦費ニ關スル上奏ニ對スル勅語(二號(一四)參看)

第十回議會 (明治三十年三月二十五日)

朕衆議院ノ忠實ナル奏議ヲ嘉ス

(九) 償金ノ一部ヲ帝室御料ニ編入ノ建議ニ對スル勅語

第十三回議會 (明治三十一年十二月十四日)

朕ハ償金ノ一部ヲ帝室御料ニ編入スルノ件ニ關シ衆議院ノ深厚ナル誠意ヲ嘉ス

二 奉答及上奏

(一) 開院式勅語ニ對スル奉答

第一回議會 (明治二十三年十一月二十九日議決)

恭シク惟ニ我

天皇陛下帝國議會開院ノ盛式ヲ舉ケ優渥ナル聖詔ヲ賜ヘリ臣等感喜ノ至リニ堪ヘス臣等此ヨリ
心力ヲ盡シテ協贊ノ責ヲ全シ以テ
陛下ノ信任ニ對ヘ以テ國民ノ委託ニ酬ントス茲ニ謹テ奉答ス

第二回議會 (明治二十四年十一月二十六日議決)

天皇陛下ニ上奏ス

車駕親臨シテ帝國議會第二期開會ノ盛式ヲ舉ケ優渥ナル聖詔ヲ賜ヘリ臣等恐懼ノ至リニ堪ヘス臣等 聖旨ヲ奉體シ益々心力ヲ盡シテ以テ協贊ノ責ヲ全シ以テ國民ノ委託ニ酬ントス謹テ奉答ス

臣衆議院議員等恭ク

第三回議會 (明治二十五年五月六日議決)

天皇陛下ニ上奏ス

車駕親臨シテ帝國議會開會ノ成典ヲ舉ケ臣等ニ賜フニ天顏ニ咫尺シ優渥ナル 聖詔ヲ拜スルノ榮ヲ以テセラレ臣等恐懼ノ至ニ堪ヘス臣等 聖旨ヲ奉體シ慎重討議協贊ノ任ヲ完シ以テ陛下ノ隆恩ニ對ヘ以テ國民ノ委託ニ酬ントス謹テ奏ス

臣衆議院議員等恭ク

第四回議會 (明治二十五年十一月二十九日議決)

天皇陛下ニ上奏ス

車駕親臨シテ帝國議會開會ノ成典ヲ舉ケ優渥ナル 聖詔ヲ賜ヘリ臣等恐懼ノ至ニ勝ヘス臣等 聖旨ヲ奉體シ國家ノ要務ヲ慎重討議シ協贊ノ責ヲ完シ以テ陛下ノ隆恩ニ對ヘ以テ國民ノ委託ニ酬ントス謹テ奏ス

臣衆議院議員等恭ク

第五回議會 (明治二十六年十一月二十八日議決)

恭ク惟ニ

第五回帝國議會開會ノ日ニ當リ

車駕親臨開院ノ盛式ヲ舉ケ優渥ナル 聖詔ヲ賜ヘリ臣等恐懼ノ至ニ堪ヘス臣等謹テ 聖旨ヲ奉體シ益々心力ヲ盡シテ國家ノ要務ヲ慎重審議シ協贊ノ責ヲ完シ以テ陛下ノ隆恩ニ對ヘ國民ノ委託ニ酬ントス衆議院議長 臣星亨誠恐誠惶謹テ奏ス

第六回議會 (明治二十七年五月十五日議決)

附錄 二 奉答及上奏 (一)開院式勅語ニ對スル奉答

恭ク惟ニ

車駕親臨シテ第六回帝國議會開會ノ盛式ヲ舉ケ優渥ナル 聖詔ヲ賜ヘリ臣等恐懼ノ至ニ堪ヘス 臣等謹テ 聖旨ヲ奉體シ益心力ヲ盡シテ國家ノ要務ヲ慎重審議シ協贊ノ責ヲ完シ以テ 陛下ノ隆恩ニ對ヘ國民ノ委託ニ酬ントス衆議院議長 臣楠本正隆誠恐誠惶謹テ奏ス

第七回(臨時)議會 (明治二十七年十月十八日議決)

衆議院議長 臣楠本正隆誠恐誠惶謹

本院ノ決議ヲ具シ謹テ奏ス恭ク惟ニ

天皇陛下聖明神武 列聖ノ遺烈ヲ承ケ中興ノ偉業ヲ啓セ給フ比年清國兇暴ニシテ鄰邦ノ交誼ヲ 破リ東洋ノ平和ヲ紊ス

陛下赫怒爰ニ六師ヲ出シ親ラ大纛ヲ進メ帝國議會ヲ大本營ノ下ニ召集シ車駕親臨シ開會ノ式ヲ 舉ケ優渥ナル 聖詔ヲ賜フ臣等感激恐懼ノ至ニ堪ヘス

今ヤ軍備ノ整理擴張ハ實ニ我帝國ノ最大急務タリ 聖詔ニ示シ給フ陸海軍備ハ臣等審議シテ協 贊ノ責ヲ完ウセム臣等奮テ全局ノ大捷ヲ以テ早ク東洋ノ平和ヲ回復シ國光ヲ宣揚シ交戦ノ目的 ヲ達セスムハ止マサルヲ期シ以テ 聖旨ヲ奉體セムコトヲ誓フ臣楠本正隆誠恐誠惶謹テ奏ス

第八回議會 (明治二十七年十二月二十五日議決)

恭ク惟ニ

陛下爰ニ第八回帝國議會開會ノ盛式ヲ舉ケ優渥ナル 聖詔ヲ賜フ臣等感激ノ至ニ堪ヘス今ヤ皇 師百艱ヲ排シテ遠ク敵地ニ入り連戦捷ヲ奏ス而シテ列國ノ交際益親睦ヲ致シ將ニ大ニ其ノ面目 ヲ改メムトス 陛下ノ 聖武ニ頼ルニ非サレハ安ク能ク帝國ノ威信ヲ宣揚スル此ノ如クナルヲ 得ムヤ臣等幸ニ此ノ隆運ニ際ス謹テ協贊ノ責ヲ完ウシ以テ 陛下ノ聖旨ニ奉對セム衆議院議長 臣楠本正隆誠恐誠惶謹テ奏ス

第九回議會 (明治二十八年十二月二十八日議決)

恭ク惟ニ

陛下爰ニ親臨シテ第九回帝國議會開會ノ盛式ヲ舉ケ優渥ナル 聖詔ヲ賜フ臣等感激ノ至ニ堪ヘ ス今ヤ對清ノ戰役全局ノ大捷ヲ奏シ以テ國光ヲ中外ニ發揚ス 陛下ノ威稜ニ頼ルニ非サレハ焉ク能ク此ノ如クナルヲ得ムヤ願フニ國運ノ伸張ニ伴ヒ諸般ノ政 務更ニ大ニ規畫スヘキモノアルヲ信ス

陛下聖明天縱國家ノ要務ヲ舉ケテ臣等ニ諭シタマフ臣等慎重討議以テ協贊ノ任ヲ盡シ上
陛下ノ聖旨ニ對ヘ下國民ノ委託ニ酬ムトス衆議院議長臣楠本正隆誠惶誠恐謹テ奏ス

第十回議會 (明治二十九年十二月二十五日議決)

恭ク惟ニ

車駕親臨シテ第十回帝國議會開院ノ盛式ヲ舉ケ優渥ナル 聖詔ヲ賜フ臣等感激ノ至ニ堪ヘス
陛下天縱文武既ニ威德ヲ八紘ニ震耀シ仁恩ヲ四表ニ光被ス茲ニ方今中外ノ要務ヲ舉ケテ臣等ニ
諭シタマフ臣等謹テ 神衷聖謨ヲ奉體シ慎重以テ職ニ從ヒ審議協贊ノ任ヲ完ウシ上

陛下ノ聖明ニ對ヘ奉リ下國民ノ委託ニ酬ムコトヲ期ス衆議院議長臣鳩山和夫誠恐誠惶謹テ奏ス

第十一回議會 (明治三十年十二月二十四日議決)

恭ク惟ニ

車駕親臨シテ第十一回帝國議會開院ノ盛式ヲ舉ケ優渥ナル 聖詔ヲ賜フ臣等感激ノ至ニ堪ヘス
臣等 慎重審議以テ上

陛下ノ聖旨ニ對ヘ下國民ノ委託ニ酬ムコトヲ期ス衆議院議長臣鳩山和夫誠恐誠惶謹テ奏ス

第十二回議會 (明治三十一年五月十九日議決)

恭ク惟ルニ

車駕親臨シテ第十二回帝國議會開院ノ盛典ヲ舉ケ優渥ナル 聖詔ヲ賜フ臣等感激ノ至ニ堪ヘス

臣等 慎重審議協贊ノ任ヲ盡シ以テ上

陛下ノ睿慮ニ對ヘ奉リ下國民ノ委託ニ酬ムコトヲ期ス衆議院議長臣片岡健吉誠恐誠惶謹テ奏ス

第十三回議會 (明治三十一年十二月二日議決)

恭ク惟ニ

陛下茲ニ第十三回帝國議會開會ノ盛式ヲ舉ケ優渥ナル 聖詔ヲ賜フ臣等感激ノ至ニ堪ヘス臣等

謹テ 聖旨ヲ奉體シ憲章ヲ恪遵シ慎重審議以テ上

陛下ノ隆恩ニ對ヘ下國民ノ委託ニ酬ムコトヲ期ス衆議院副議長臣元田肇誠恐誠惶謹テ奏ス

第十四回議會 (明治三十二年十一月二十二日議決)

恭ク惟ニ

車駕親臨シテ茲ニ第十四回帝國議會開會ノ盛式ヲ舉ケ優渥ナル 聖詔ヲ賜フ 臣等感激ノ至ニ堪
ヘス今ヤ條約改正ノ業其ノ完成ヲ告ク 臣等幸ニ此ノ隆運ニ際シ謹テ協贊ノ任ヲ完フシ上
陛下ノ聖旨ニ對ヘ下國民ノ委託ニ酬ムコトヲ期ス衆議院議長 臣片岡健吉誠恐誠惶謹テ奏ス

第十五回議會 (明治三十三年十二月二十五日議決)

恭ク惟ニ

車駕親臨シテ茲ニ第十五回帝國議會開會ノ盛式ヲ舉ケ優渥ナル 聖詔ヲ賜フ 臣等感激ノ至ニ堪
ヘス刻下東洋多事ニ際ス 臣等慎重審議以テ協贊ノ任ヲ盡シ上
陛下ノ聖慮ニ對ヘ下國民ノ委託ニ酬ムコトヲ期ス衆議院議長 臣片岡健吉誠恐誠惶謹テ奏ス

第十六回議會 (明治三十四年十二月十日議決)

恭ク惟ニ

車駕親臨シテ爰ニ第十六回帝國議會開會ノ盛式ヲ舉ケ優渥ナル 聖詔ヲ賜フ 臣等感激ノ至ニ堪
ヘス今ヤ北清ノ事變漸ク鎮定ニ歸ス
陛下ノ稜威ニ頼ルニアラスムハ焉ソ能ク此ノ如クナルヲ得ムヤ願フニ東洋尙多事タルヲ免レス

臣等國家ノ要務ニ對シ慎重審議以テ協贊ノ任ヲ竭シ上

陛下ノ聖慮ニ對ヘ下國民ノ委託ニ酬ムコトヲ期ス衆議院議長 臣片岡健吉誠恐誠惶謹テ奏ス

第十七回議會ノ奉答(明治三十五年十二月九日議決)ハ略第十二回議會ニ同シ

第十八回議會ノ奉答(明治三十六年五月十二日議決)ハ略第十一回議會ニ同シ

第十九回議會 (明治三十六年十二月十日議決翌十一日奉呈スヘキ答ノ處御都合ニ依リ延引被仰出同日開議前解散セラレタル爲奉呈ニ至ラス)

恭ク惟ニ

車駕親臨シテ茲ニ第十九回帝國議會開院ノ盛式ヲ舉ケ優渥ナル 聖詔ヲ賜フ 臣等感激ノ至ニ堪
ヘス今ヤ國運ノ興隆洵ニ千載ノ一遇ナルニ方テ閣臣ノ施設之ニ伴ハス内政ハ彌縫ヲ事トシ外
交ハ機宜ヲ失シ 臣等ヲシテ憂虞措ク能ハサラシム仰キ願クハ 聖鑑ヲ垂レ給ハムコトヲ 臣等
協贊ノ任ニ在リ慎重審議以テ上
陛下ノ聖旨ニ答ヘ奉リ下國民ノ委託ニ酬ムコトヲ期ス衆議院議長 臣河野廣中誠恐誠惶謹テ奏ス

第二十回(臨時)議會 (明治三十七年二月二十日議決)

恭ク惟ニ

叡聖文武天皇陛下茲ニ臨時帝國議會ヲ召集シ

車駕親臨開院ノ盛式ヲ舉ケ優渥ナル 聖詔ヲ賜フ 臣等恐懼ノ至ニ堪ヘス願フニ帝國カ東洋ノ平和ヲ保持スルニ切ナルハ一日ニアラス然ルニ露國ハ平和ヲ尊重スルノ誠意ナク清國トノ盟約及列國ニ對スル累次ノ宣言ヲ破レリ

陛下ノ戰ヲ宣シ給ヒタルハ臣等ノ感激ニ堪ヘサル所ナリ

今ヤ外征ノ師ハ連戰連勝益々忠勇ヲ致ス是レ

陛下ノ稜威ニ賴ラスムハアラス 臣等謹テ 聖旨ヲ奉體シ協贊ノ任ヲ竭サムコトヲ期ス衆議院議長 長臣松田正久誠恐誠惶謹テ奏ス

第二十一回議會 (明治三十七年十一月三十日議決)

恭ク惟ニ

陛下茲ニ第二十一回帝國議會ヲ召集シ

車駕親臨開院ノ盛式ヲ舉ケ優渥ナル 聖詔ヲ賜フ 臣等感激恐懼ノ至ニ堪ヘス今ヤ皇師連捷戰局

歩ヲ進メ兵氣外ニ張り民心内ニ振フ是レ

陛下ノ稜威ニ賴ルニアラスムハ焉ソ能ク此ニ至ルヲ得ムヤ然レトモ前途尙遼遠ニシテ軍費ヲ要スル愈々多ク内外ノ施設又多端ニ際ス方ニ舉國一致堅忍持久以テ報効ヲ圖ルヘキノ秋ナリ 臣等益々心力ヲ竭シテ協贊ノ任ヲ完フシ上

陛下ノ信任ニ對ヘ下國民ノ委託ニ酬ムコトヲ期ス衆議院議長 長臣松田正久誠恐誠惶謹テ奏ス

第二十二回議會 (明治三十八年十二月二十八日議決)

恭ク惟ニ

車駕親臨シテ第二十二回帝國議會開院ノ盛式ヲ舉ケ優渥ナル 聖詔ヲ賜フ 臣等感激ノ至ニ堪ヘス今ヤ戰勝ノ後ニ際シ帝國ノ責任益々重ヲ加フ 臣等慎重審議協贊ノ任ヲ盡シ上 聖旨ニ對ヘ下國民ノ委託ニ酬ムコトヲ期ス衆議院議長 長臣松田正久誠恐誠惶謹テ奏ス

第二十三回議會(明治三十九年十二月二十八日議決)、第二十四回議會(明治四十年十二月二十八日議決)ノ奉答ハ略第十二回議會ニ同シ

第二十五回議會（明治四十一年十二月二十五日議決）

恭ク惟ニ

車駕親臨シテ茲ニ第二十五回帝國議會開院ノ盛式ヲ舉ケ優渥ナル 聖詔ヲ賜フ臣等感激ノ至ニ堪ヘス臣等國家ノ要務ニ對シ慎重審議協贊ノ任ヲ竭シ上

陛下ノ睿慮ニ對ヘ下國民ノ委託ニ酬ムコトヲ期ス衆議院議長長谷場純孝誠恐誠惶謹テ奏ス

第二十六回議會（明治四十二年十二月二十四日議決）ノ奉答ハ略第二十五回議會ニ同シ

第二十七回議會（明治四十三年十二月二十三日議決）、第二十八回議會（明治四十四年十二月二十七日議決）ノ奉答ハ略第十二回議會ニ同シ

第二十九回（臨時）議會（大正元年八月二十二日議決）

衆議院議長臣大岡育造誠恐誠惶謹ミテ奏ス恭ク惟ルニ

先帝天縱睿明登極ノ初首トシテ大誓ヲ天地神明ニ立テ宏謨ヲ開國進取ニ定メタマヒ内ニハ政刑ヲ整ヘ文教ヲ施シ軍制ヲ振ヒ庶績ヲ勸メ大憲ヲ宣布シテ憲政ヲ創定シタマヒ外ニハ列國ト輯

睦シ夙ニ東洋平和ノ大局ヲ軫念シタマヒ事アレハ則國力ヲ舉テ之ヲ保持スルコトヲ惜ミタマハス是ヲ以テ大義感孚シテ列國親交シ盛徳大業臣庶ノ懷服スル所萬邦ノ具瞻スル所タリ何ツ圖ラム一朝奄ニ晏駕シタマヒ率溥驚悼豈翅ニ考妣ヲ喪スルカ如クナルノミナラムヤ臣等痛傷悲慟涕泣已ムナシ今

陛下聖德乾覆克文克武即チ大統ヲ承ケサセタマヒ茲ニ帝國議會ヲ開キ忝ク 聖勅ヲ賜ヒ大喪ノ費用ヲ議定セシメタマフ臣等恐懼ノ至ニ勝ヘス臣等肅ミテ 聖旨ヲ奉體シ慎重ニ審議シ以テ國民ノ至誠ヲ表シ奉ラムコトヲ期ス衆議院議長臣大岡育造誠恐誠惶謹ミテ奏ス

第三十回議會（大正元年十二月二十七日議決）

恭ク惟ニ

車駕親臨シテ茲ニ第三十回帝國議會開院ノ盛式ヲ舉ケ優渥ナル 聖詔ヲ賜フ臣等感激ノ至ニ堪ヘス臣等憲法ノ條章ニ遵ヒ慎重審議協贊ノ任ヲ竭シ上

陛下ノ聖旨ニ對ヘ下國民ノ委託ニ酬ムコトヲ期ス衆議院議長臣大岡育造誠恐誠惶謹テ奏ス

第三十一回議會（大正二年十二月二十六日議決）ノ奉答第三十回議會ニ同シ

第三十二回(臨時)議會 (大正三年五月五日議決)

衆議院議長臣奥繁三郎誠惶誠恐謹ミテ奏ス恭ク惟ニ
皇太后陛下坤德克ク乾猷ヲ補ヒ惠澤克ク蒼生ヲ霑ス中外瞻仰億兆欽慕セサルナシ何ソ圖ラム今
奄ニ登遐シヌマフ臣等哀悼悲痛措ク所ヲ知ラス
陛下睿明至孝茲ニ臨時議會ノ開會ヲ命シ 聖詔ヲ賜ヒテ大喪ノ費用ヲ議定セシメタマフ臣等恐
懼ノ至ニ勝ヘス臣等肅ミテ 聖旨ヲ奉體シ慎重審議以テ國民ノ至誠ヲ表シ奉ラムコトヲ期ス
衆議院議長臣奥繁三郎誠惶誠恐謹ミテ奏ス

第三十三回(臨時)議會 (大正三年六月二十二日議決)

恭ク惟ニ
車駕親臨シテ茲ニ臨時帝國議會開院ノ盛式ヲ舉ケ優渥ナル 聖詔ヲ賜フ臣等感激ノ至ニ堪ヘス
臣等慎重審議協贊ノ任ヲ竭シ上
陛下ノ聖旨ニ對ヘ下國民ノ委託ニ酬ムコトヲ期ス衆議院議長臣奥繁三郎誠惶誠恐謹テ奏ス

第三十四回(臨時)議會 (大正三年九月四日議決)

恭ク惟ニ
天皇陛下茲ニ臨時帝國議會ヲ召集シ
車駕親臨開院ノ盛式ヲ舉ケ優渥ナル 聖詔ヲ賜フ臣等感激ノ至ニ勝ヘス臣等肅ミテ 叡慮ヲ奉
體シ慎重審議以テ協贊ノ任ヲ竭シ上
陛下ノ聖旨ニ對ヘ下國民ノ委託ニ酬ムコトヲ期ス衆議院議長臣奥繁三郎誠惶誠恐謹テ奏ス

第三十五回議會(大正三年十一月七日議決)ノ奉答第十二回議會ニ同シ

(一) 詔勅ニ對スル奉答(一號(四)及二號(六)參看)

第四回議會 (明治二十六年二月十三日)

恭シク惟ニ
陛下聖徳天覆地載茲ニ優渥ナル 聖詔ヲ賜ヘリ臣等恐懼ノ至ニ堪ヘス臣等謹テ 聖旨ヲ奉體シ
和衷協同益々心カヲ盡シ以テ大業補翼ノ任ヲ完クシ以テ陛下ノ隆恩ニ奉對セントス衆議院議長
臣星亨誠恐誠惶謹テ奏ス

(三) 勅問ニ對スル奉答(一號(六)及二號(九)參看)

第五回議會 (明治二十六年十二月二日議決)

奏ス本日

衆議院副議長 臣楠本正隆謹シ

上奏スル所臣等不明ノ過失ヲ謝シ奉ルニ在リ行文函葬爲ニ

勅問ヲ賜フ臣等惶懼ノ至ニ堪ヘス謹ミ

奏ス

(四) 議會會期延長ノ上奏

第一回議會 (明治二十四年二月二十四日議決)

帝國議會開會以來既ニ八十有餘日臣等精勵勤勉事ニ茲ニ從フト雖モ事創始ニ屬シ議事整理等ノ爲メ幾多ノ日子ヲ費ヤシ又議院燒失ノ災ニ罹リ定期ノ日數ニ不足ヲ來メシ殊ニ尙ホ議スヘキ議案積テ堆ヲ爲セリ仰キ願クハ相當ノ日數延長ノ令ヲ下シ賜ハラントコトヲ誠恐誠懼謹テ奏ス

(五) 國事犯特赦ノ上奏

第一回議會 (明治二十四年二月七日議決)

我輩聖文武ナル 天皇陛下ハ夙ニ王政維新ノ大業ヲ舉ケ親ラ文武百官ヲ統率シ僅々二十年ノ歲月ヲ以テ立憲代議ノ新制ヲ立テラレシハ各國ノ歴史ニ於テ未タ曾テ見サル所ナリ而シテ曩キニ大典ノ發布セララルルヤ凡ソ國事犯罪ハ皆大赦ノ恩ニ沾フヲ得天下ノ人士皆聖德ノ洪大ナルヲ讚美シ天恩ノ優渥ナルニ感泣セサル莫シ然リ而シテ現時幾多ノ罪囚中立憲政體ノ設立ヲ願望シ熱心ノ極誤テ刑律ニ觸レ常事犯ノ附帶セルカ爲メ若クハ其行爲ノ全ク尋常犯罪ニ類シタルカ爲メ未タ赦免ノ典ニ與カルコトヲ得サル者少カラス今ヤ代議制度實施ノ盛運ニ際會セリ 陛下深仁深慈願クハ有司ニ勅シ其罪犯ヲ審査セシメ其心事ノ最モ憐ムヘキモノハ特ニ赦宥ヲ賜ヒ彼輩ヲシテ再ヒ青天白日ノ身トナリ順ニ歸シ正ニ就キ感激シテ以テ忠君愛國ノ務ヲ盡スコトヲ得セシメラレシコトヲ誠惶誠懼謹テ奏ス

(六) 內閣不信任ノ上奏(一號(三)及(四)參看)

第四回議會 (明治二十六年二月七日議決)

衆議院議長臣星亨本院ノ決議ヲ具シ謹テ奏ス伏シテ惟レハ

天皇陛下經文緯武丕ニ中興ノ昌運ヲ啓キ參天貳地始メテ立憲ノ大典ヲ定メ特ニ上下一心和衷協同ノ

懿訓ヲ垂レサセタマヒ

天恩徧ク覆ヒ

皇澤洽ク潤ヒ海内ノ臣民孰レカ感激シテ以テ報効ヲ圖ラサラム臣等竊ニ惟レハ立憲ノ要ハ上下心ヲ一ニシ以テ大政ヲ翼贊スルニ在リ是故ニ立法行政各部ノ期スル所相與ニ赤誠ヲ披瀝シ以テ和衷協同ノ實ヲ舉ルヨリ重且大ナルハナシ然ルニ議會創開以來立法行政ノ兩部常ニ調和ヲ失ヒ百揆滯礙シ庶績否塞シ終ニ世局ノ進運ニ隨ヒ革新改善ノ効ヲ收ムル能ハス是レ臣等ノ精誠未タ貫徹セサルニ因ルト雖抑々内閣大臣其ノ職ヲ盡ササルノ致ス所ナリ臣等政費ヲ削減シ用度ヲ裁節セムト欲スルハ政府過大ノ弊ヲ矯メ民力休養ノ事ヲ行ハムカ爲メニシテ即チ第一期議會以來終始一貫敢テ渝ルコトナシ本院茲ニ明治二十六年年度豫算案ヲ議スルニ當リ反覆審查深ク國力ノ消長ヲ慮リ詳カニ事務ノ緩急ヲ察シ以テ歲出ヲ節省シ憲法第六十七條ノ規定ニ係ル歲出ハ本條ニ遵由シテ再三政府ノ同意ヲ求メタリ然ルニ政府ハ漫ニ不同意ヲ表シ而シテ其ノ理由及費途ヲ條舉説明セサルノミナラス錢厘ノ微ト雖削減スヘカラスト斷言セリ是ニ於

テ本院ハ休會五日以テ政府ノ反省ヲ求ムト雖政府ハ猶ホ前說ヲ固執シ敢テ省ミス夫レ憲法第六十七條範圍内ノ歲出ニ關シ政府ノ不同意ヲ表スルニ當テハ其ノ款項ヲ條舉シ其ノ理由ヲ明示スルハ立憲國大臣ノ德義ニシテ和衷協同ノ道モ亦此ニ在リ然ルニ内閣ノ舉措此ニ出テス是レ臣等ノ甚タ痛歎スル所ナリ又軍艦製造費ニ關シ曰ク議會ハ之ヲ否決セシト雖政府ハ憲法ノ許ス範圍内ニ於テ斷乎トシテ其ノ計畫スル所ヲ徹底スル道ヲ求メサルヘカラスト臣等其ノ言ノ不經ナルヲ異ミ直ニ其ノ説明ヲ求ムト雖答ヘス是レ大臣タル者ノ爲スヘキ所ナラムヤ臣等昧死敢テ

天威ヲ冒シ

宸聽ヲ煩シ奉ルハ豈ニ臣等ノ素志ナラムヤ誠ニ止ムヲ得サレハナリ蓋シ政府議會比年相睽キ官民相軋ル所以ハ其ノ由テ來ル既ニ久シ今ニ於テ積弊ヲ除キ立憲政治ノ實効ヲ奏セスムハ國家ノ事爲メニ廢墮セムトス夫レ政費國力相伴ヒ上下一途ノ方針ニ據リ内ハ以テ國運ヲ隆興シ外ハ以テ國威ヲ宣揚スルハ實ニ方今ノ急務ナリ臣等民心ノアル所ヲ表明スト雖内閣ハ之ヲ峻拒シ臣等ヲシテ協贊ノ任ヲ全フスルヲ得サラシム是レ財政ヲ調理シ國家ヲ經綸スル所以ノ道ニアラス臣等此ノ如キ内閣ト竝立チ上ハ

聖意ヲ奉體シ下ハ民意ヲ暢達スル能ハサラムコトヲ是レ恐ル伏テ願クハ

陛下特ニ

叡鑒ヲ垂レタマハムコトヲ臣星亨誠恐誠惶謹ミ奏ス

(七) 條約改正ノ上奏

第四回議會 (明治二十六年二月十五日議決)

叡聖文武天皇陛下ニ上奏ス臣等

衆議院議長 臣星亨誠恐誠惶頓首謹テ

立憲ノ聖世ニ生レ人民ノ推選ニ由リ叨ニ乏ヲ大猷贊畫ノ鴻任ニ承ク豈鞠躬盡瘁

陛下ノ聖明ニ答ヘ人民ノ付託ニ副フコトヲ期セサラムヤ伏シテ惟ルニ

皇祖國ヲ闢キ統ヲ垂レタマヒシヨリ茲ニ二千五百有餘年

天子聖明臣民忠勇以テ内ヲ綏撫シ以テ外ヲ懷柔シ國威煌耀未タ曾テ汚瀆セサルナリ降テ嘉永安

政ノ間ニ至リ幕府政ヲ失シ海内鼎沸復國是ノ歸向スル所ナシ而シテ列國此ノ隙ニ乘シ我ニ逼

リテ非理ノ條約ヲ締結セシム

陛下聖明ノ德ヲ以テ此ノ間ニ登祚シ深ク皇道ノ陵夷紀綱ノ壞頽ヲ赫怒シタマヒ錦旗一タヒ動テ
宏規維レ新ニ洪模維レ革ル然レトモ獨リ非理ノ條約ハ未タ更革スル所ナクシテ法權彼ニ及ハ

ス稅權我ニ復ラス國權ノ冒蝕焉ヨリ大ナルハ莫シ臣等思フテ茲ニ至ル毎ニ未タ曾テ慷慨痛哭
セスムハアラス蓋シ治外法權ノ撤去セサル海關稅權ノ回復セサル一ハ則チ彼ノ我ニ在ル者ヲ
シテ我法度ノ外ニ立タシメ我ノ彼ニ在ル者ヲシテ彼カ法度ノ中ニ服セシメ一ハ則チ彼ノ我ニ輸
スルモノヲシテ我稅權ヲ制セシメ我ノ彼ニ輸スルモノヲシテ彼ノ稅權ニ屈セシム是ヲ以テ法
綱痿痺シ外人侵凌シ商工萎靡シ民力凋羸シ終ニ拯フ可カラサラムトス之ヲ要スルニ當時上下
恬熙有司盲昧宇内ノ情勢ニ通セサルノ尤ニ坐セスムハアラス是レ國民ヲ舉テ寸時モ條約改正
ヲ忘ル能ハサラシムル所以ナリ

陛下ノ至聖至明ナル夙ニ茲ニ察スル所アリ明治四年全權大使ヲ歐米各國ニ派シ條約改正ヲ議セ
シメタマフ爾來二十有餘年在廷ノ有司ニ勅シ銳意勵精事ニ茲ニ從ハシメ曾テ之ヲ忽諸ニ付セ
サルナリ而シテ有司屢々蹉跌シテ未タ

陛下ノ軫念ヲ安セサル所以ノモノハ廣ク之ヲ國論ニ詢ハサルノ致ス所ナリ臣等竊ニ列國ニ觀ル
ニ國交ノ事ハ國論ニ決シ廷臣ノ專行ヲ許ササルナリ我國何ヲ獨リ然ラサラム惟フニ有司ヲシ
テ曩ニ此ニ慮ル所アラシメハ條約改正ノ事或ハ肅斧ヲ揮テ朝菌ヲ斬ルノ快アラム何ヲ復今日
ノ議アルヲ要セムヤ夫レ條約ノ締結ハ

陛下大權ノ存スル所臣等敢テ濫ニ議ス可キニアラス然レトモ

陛下已ニ萬機公論ニ決シ盛ニ經綸ヲ行フヲ以テ天神地祇ニ誓フ則チ國民ノ心ヲ以テ心ト爲シタ
マヘリ臣等誠惶頓首謹テ衆議院ノ公議國民ノ輿論ヲ

聖聽ニ達セム曰治外法權ノ撤去海關稅權ノ回復沿岸貿易ノ禁止國家ノ法律ニ屬スヘキ事件ノ拒
絶等ニシテ對等條約ノ締結是ナリ

陛下聖德宏大覆載容レサセタマハサル所ナシ伏シテ冀クハ輿論ノ在ル所ヲ採納セラレムコトヲ
臣星亨誠恐誠惶頓首頓首謹テ上奏ス

(八) 選舉干涉ニ關スル上奏

第四回議會 (明治二十六年二月二十八日議決)

衆議院議長 臣星亨 茲ニ衆議院ノ決議

ヲ具シ謹ミ奏ス伏シテ惟ルニ

叡聖文武天皇陛下龍飛ノ德ヲ以テ大ニ乾綱ヲ張り憲法ヲ布キ議會ヲ設ケ代議政體ノ基ヲ開キタマ
ヘリ其ノ盛德大業ハ臣民ノ仰瞻スル所ナリ臣等第二期帝國議會ニ於テ內閣ニ對シ選舉干涉ノ
非ヲ論シ官吏其ノ職權ヲ濫用シ選舉權ヲ侵犯シタル事實ヲ認メ國務大臣ハ宜ク反省シテ其ノ
責ニ任シ自ラ處決スル所アルヘキコトヲ決議セリ然ルニ內閣ハ改悛ニ銳意セス治務猶舊ニ仍

リ民政ノ紊亂未タ理セス府縣會ノ紛擾荐リニ起リ官民反目ノ蹟ヲ存シ地方自治ノ制ヲ淆リ其
ノ餘毒流レテ今ニ至リ物論沸騰人心洶々タリ抑々立憲ノ昭代ニ在リ輔弼ノ任ニ當ル國務大臣
ハ決シテ其ノ責ヲ免ルルコト能ハサルヘシ既ニ內閣ハ本期議會ノ初ニ於テ施政ノ方針ヲ公示
シ乃憲法ノ條章ニ遵由シ行政百般ノ機關ヲシテ憲法的動作ヲ爲サシメ以テ益々其ノ改善ヲ圖
リ上ハ 宏謨ヲ遵奉シテ國家ノ基礎ヲ鞏固ニシ下ハ人民ノ權理ヲ保全シ其ノ慶福ヲ増進セシ
メムコトヲ誓言セリ

陛下辱クモ 大詔ヲ降シ弊政ヲ釐革シ紀綱ヲ振肅セムコトヲ命セラル臣等謹ミ按スルニ選舉干涉
ノ事タルヤ立憲ノ大綱ヲ紊リ國家ノ慶福ヲ妨クルモノナリ乃政務ノ改善ヲ圖リ詔旨ニ率由セ
ムト欲セハ最先ツ此等ノ處分ヲ爲ササルヘカラス今敢テ內閣ニ向テ夫ノ干涉ヲ事前ニ防遏セ
サルヲ追答スルニアラス其ノ善後ノ責任ヲ正言スルナリ然ルニ內閣ハ口ヲ既往ニ藉テ其ノ責
ヲ逃レムトス是レ

陛下ノ鈞命ヲ遵奉シ 皇猷ヲ恢弘スル所以ノ道ニアラサルナリ臣等國民ヲ代表スルノ職ニ居リ義
默止スルニ忍ヒス茲ニ民意ヲ條陳シ謹テ

聖裁ヲ仰キ奉ルモノ萬止ムヲ得サレハナリ仰キ願クハ

陛下叡斷ヲ垂レ國務大臣ヲシテ其ノ職ヲ盡サシメ而シテ非行ノ官吏ヲ戒飭シ大ニ民政ヲ更張セラ

レムコトヲ臣星亨誠惶誠恐謹ミ奏ス

(九) 議長星亨不信任ノ上奏(一號(六)參看)

第五回議會 (明治二十六年十二月一日議決)

衆議院副議長 臣楠本正隆誠惶誠恐本院ノ決議ヲ具シ謹ミ

奏ス本院ハ衆議院議長星亨ニ信任ヲ措ク能ハス故ニ其職ニ在ルヲ欲セスト決議ス臣等曩ニ議

院法第三條ニ據リ星亨ヲ薦

奏シ

勅任ヲ辱フス是レ臣等不明ノ致ス所誤テ

天聽ヲ冒瀆ス惶懼ノ至ニ堪ヘス謹ミ

奏ス

(一〇) 官紀振肅ノ上奏

第五回議會 (明治二十六年十二月四日議決)

衆議院副議長 臣楠本正隆謹ミ

奏ス伏惟レハ

陛下忠孝ヲ以テ億兆ヲ率井廉節ヲ以テ群臣ヲ御シ三綱因テ張リ四維因テ立ツ古聖王ノ治ト雖モ

何ヲ以テ之ニ尙ヘムヤ任ニ輔弼ニ當ル者宜シク風紀ヲ嚴ニシ内行ヲ肅ミ以テ

陛下聖明ノ治ニ奉答スヘキ也今ヤ我邦

陛下ノ盛徳ニ頼リ國民以テ安シト雖モ宇内ノ形勢ハ敢テ臣庶ノ懈惰疎慢ヲ容サス閣臣タル者宜

シク日夜惴々トシテ敢テ寢食ヲ安セス或ハ民心ヲ失ヒ以テ

陛下ノ至治ニ負カムコトヲ是レ懼ルヘキノ秋ナリ然ルニ閣臣自ラ誠メス漫ニ臨ムヘカラサルノ

席ニ臨ミ會スヘカラサルノ人ニ會シ饗讌ヲ享ケ其官僚ヲシテ贈遺ヲ容レシメ醜聞道塗ニ盈チ

惡聲街巷ニ喧シ政府ノ威嚴行ハレス宰臣ノ信用地ニ墜チタリ今ニシテ之ヲ正サスムハ臣等恐

クハ上

陛下ノ盛徳ヲ累ハシ下衆庶ノ離心ヲ致サムコトヲ臣等願クハ

陛下聖斷以テ閣臣ノ不肅ヲ誠メ給ハムコトヲ臣楠本正隆誠惶誠恐謹ミ

奏ス

(一一) 現内閣ノ行爲ニ對シ本院ノ意思ヲ表明スル上奏

第六回議會 (明治二十七年五月三十一日議決)

附錄 二 奉答及上奏 (九)議長星亨不信任ノ上奏 (一〇)官紀振肅ノ上奏
(二)現内閣ノ行爲ニ對シ本院ノ意思ヲ表明スル上奏

衆議院議長 臣楠本正隆 誠惶誠恐謹奏

叡聖文武天皇陛下 登極ノ首メ五事ノ誓文ヲ下シ明カニ億兆ニ示シタマヒ上下心ヲ一ニシ盛ニ

經綸ヲ行ハシム 大詔ノ嚴ナル屹トシテ山嶽ノ如ク

天恩ノ厚キ穆トシテ春風ニ似タリ臣等瞻仰景從日夜孳々トシテ 盛徳ヲ翼贊シ 鴻旨ニ奉答セ

ムト欲スルモノ年已ニ久シ然ルニ比年閣臣其施設ヲ誤リ内治外交共ニ其職責ヲ失シ動モスレ

ハ即チ累ヲ 帝室ニ及ホスニ至ル曩ニ第四期帝國議會ニ方リ閣臣ノ見ト臣等ノ議ト相觸レ臣

等内閣ト竝ヒ立ツ能ハス謹テ上奏以テ罪ヲ待ツ

陛下畏クモ誓文ノ意ニ基カセラレ 大詔ヲ下シ在廷ノ臣僚及帝國議會ノ各員ニ告ケ和協ノ道ニ

由リ以テ大事ヲ補翼シ有終ノ美ヲ成サムコトヲ望ミ特ニ閣臣ニ命スルニ行政各般ノ整理ヲ以

テシタマヘリ國務大臣モ亦隆渥ノ

聖旨ヲ奉シ第五期帝國議會ヲ期シ政綱ヲ振厲シ政費ヲ節減シ海軍ヲ釐革セムコトヲ誓ヘリ是ニ

於テカ舉國ノ民

陛下カ輿論ヲ嘉納シタマフヲ聽キ額手シテ第五期帝國議會ヲ俟チ來蘇ノ慶アラムコトヲ翹望セ

リ然ルニ閣臣ノ經營一時ヲ彌縫スルニ止マリ政綱未タ振厲セス海軍未タ釐革セス惟僅ニ費途

ヲ節シ吏員ヲ沙汰シ以テ大事ヲ模稜スルニ過キス特ニ外政ニ至テハ儉安姑息唯外人ノ歡心ヲ

失ハムコトヲ是レ畏レ内外親疎輕重ノ辨別ヲ顛倒スルニ至ル是レ臣等カ偏ヘニ

聖旨ニ背戾セムコトヲ恐レ戰兢自ラ安スル能ハサル所以ナリ臣等區々ノ微衷恭ク 大詔ニ遵ヒ

努メテ經綸ヲ畫シ至誠以テ

天意ニ奉答セムト欲スト雖閣臣常ニ和協ノ道ニ背キ臣等フシテ 大政アリ翼贊ノ重責ヲ全フス

ル能ハサラシム此ヲ以テ臣等閣臣ニ信ヲ置ク能ハサルナリ今ニシテ之ヲ匡正セスムハ臣等竊

ニ恐ル憲政内ニ紊亂シ國威外ニ失墜セムコトヲ是レ臣等カ默セムト欲シテ默スル能ハス敢テ

赤心ヲ披瀝シ 闕下ニ陳奏スル所以ナリ仰キ願クハ

陛下天地覆載ノ恩ヲ敷キ日月ノ照鑒ヲ垂レタマハムコトヲ衆議院議長 臣楠本正隆 誠惶誠恐謹奏

(一一一) 征清事件ニ關スル上奏

第七回(臨時)議會 (明治二十七年十月二十一日議決)

衆議院議長 臣楠本正隆 本院ノ決議ヲ具シ誠惶誠恐謹奏ス伏テ惟ニ

天皇陛下神聖英武清國ノ凶暴ヲ赫怒シテ征討ノ師ヲ興シ

皇祖

皇宗ノ遺烈ヲ紹キ親シク大轟ヲ進メ親シク戎事ヲ裁シ肝食宵衣ノ勞ヲ執ラセ給フ是ニ於テ民心

益奮ヒ兵氣倍張リ我カ帝國ノ光輝ヲ宇内ニ發揚ス中外孰レカ
皇威ヲ仰カサルモノアランヤ臣等景仰感激ノ至リニ堪ヘス謹テ奏ス

(一三) 征清事件ニ關スル上奏

第八回議會 (明治二十八年三月二十日議決)

衆議院議長 臣 楠本正隆 本院ノ決議ヲ具シ誠恐誠惶謹ミ奏ス

伏テ惟ルニ

陛下嚮キニ六師ヲ整ヘ大轟ヲ進メ給ヒシヨリ烈暑祁寒艱苦ヲ士卒ニ同クシ以テ軍國ノ機務ヲ親
裁シ給フ前後一日ノ如シ

列聖ノ威靈

陛下ノ神武ニ賴リ民心内ニ奮ヒ兵氣外ニ震フ 皇師ノ向フ所雷擊電掣水陸風靡ス今ヤ陸海各
軍愈々其歩ヲ進メ第二期作戰ヲ開始スヘキヲ勅シ給ヘリ中外孰レカ

聖意ノ遠大ナルヲ欽仰セサルモノアランヤ我武維レ揚リ我伐用テ張ル皇威其レ八紘ニ發揚セム
臣等感激ノ至リニ堪ヘス謹テ奏ス

(一四) 製艦費ニ關スル上奏(一號(八)參看)

第十回議會 (明治二十年三月二十四日議決)

衆議院議長 臣 鳩山和夫 本院ノ議決ヲ具シ謹テ

奏ス恭ク惟ルニ

天皇陛下威武慈仁曩ニ國家軍防ノ一日モ忽ニスヘカラサルヲ垂示シ特ニ内廷ノ費ヲ省キ六年ノ
間毎歲參拾萬圓ヲ下シ賜ヒ又文武ノ官僚ヲシテ其ノ奉給十分ノ一ヲ納レ以テ製艦費ノ補足ニ
充テシムルノ

詔勅ヲ下シタマフ臣等恐惶措ク所ヲ知ラス謹テ

綸旨ヲ奉戴シ誓テ此ノ優渥ナル

聖恩ノ萬一ニ報セムコトヲ期セリ

今ヤ神聖英武ナル

陛下ノ稜威ニ因リ東洋ノ平和克復セラレテヨリ國威中外ニ揚リ

皇澤億兆ニ及ヒ國運日ニ隆昌ニシテ民力月ニ殷富ナリ而シテ國防ノ軍備亦政府ノ設計セル
所稍々其ノ緒ニ就キ富士、八島二艦ノ廻航又近キニ在ラムトス是偏ニ至仁ナル

聖詔ノ賜ニシテ我臣等ハ肝ニ銘シ長ク傳ヘテ逾々報效ノ途ヲ圖ラムトス此ノ時ニ當リ仍ホ恩賜
ヲ辱ウスルハ臣等ノ洵ニ恐懼ニ堪ヘサル所ナリ仰キ願クハ
陛下ノ聖明慈仁ナル臣等涓々ノ微衷ヲ納レ製艦費ノ

恩賜ヲ止メ又文武官僚ノ納付ヲ免除シ之ヲ一般國民ノ負擔ニ歸セシメ玉ハムコトヲ臣等誠惶
誠恐頓首謹テ
奏ス

(一五) 上奏(三十七八年戰役ニ關スル件)

第二十一回議會 (明治二十八年一月六日議決)

衆議院議長 臣松田正久誠恐誠惶謹テ奏ス伏テ惟ルニ宣戰ノ 大詔煥發セラレテヨリ未タ一載
ナラス 皇師ノ向フ所戰ヘハ必ス勝チ攻ムレハ必ス取ル既ニ遼陽ヲ破リテ兵氣遠ク滿洲ノ野
ニ振ヒ今ヤ旅順ヲ陷レテ敵艦全ク遼東ノ海ニ滅ヒ更ニ戰局ノ一大發展ヲ見ル
陛下ノ稜威ニ賴ルニ非サレハ曷ソ能ク此ノ振古未曾有ノ偉功ヲ奏スルヲ得ムヤ
陛下宵衣旰食軍國ノ事ニ軫念アラセ給フ臣等感激ノ至リニ堪ヘス願フニ洗兵振旅ノ期前途尙遼
遠ナリ臣等 豈鞠躬努力以テ 聖明ニ奉答スルヲ期セサラムヤ茲ニ賀表ヲ上リテ赤誠ヲ披ク衆

議院議長 臣松田正久誠恐誠惶謹ミ奏ス

(一六) 上奏(頌德表)

第二十二回議會 (明治二十八年十二月二十八日議決)

衆議院議長 臣松田正久誠恐誠惶謹テ言ス伏シテ
惟ニ

陛下天縱聰明宸極ニ臨御シ 徽猷ヲ恢弘シ内ハ文ヲ修メ武ヲ尙ヒ乾綱維レ張り庶政維レ舉リ外
ハ列國ト輯睦ヲ敦ウシ盟約ヲ英國ニ重ネ保護ヲ韓國ニ加フ中興ノ業裁成ノ功之ヲ古今ニ徵シ
與ニ推校スル所ナシ不幸客歲露國ト釁ヲ開クヤ 大號煥發乃チ六師ヲ興シ魏貅鱗鱗威遠近ニ
震ヒ神籌授クル所海ニ陸ニ大捷ノ功ヲ奏セサルハ莫シ而シテ友邦ノ忠言ヲ呈スルヤ 聖衷恢
廓進テ之ヲ容レ以テ平和ノ約ヲ結ハシメ旅ヲ振ヒ師ヲ班ヘス是レ寔ニ曠古ノ大業ニシテ 盛
德中外ニ光被ス臣等 聖世ニ遭遇シ斯盛事ヲ瞻仰シ 宏謨ヲ翼贊ス何ノ慶幸カ之ニ若カム爰
ニ恭ク上表シ肅ミテ微忱ヲ敷ク臣松田正久誠恐誠惶謹テ言ス

三 即位ノ大禮ニ付賀表捧呈ノ決議

附錄 二 奉答及上奏(一五)上奏(三十七八年戰役ニ關スル件) (一六)上奏(頌德表)
三 即位ノ大禮ニ付賀表捧呈ノ決議

第三十一回議會 (大正三年三月十三日)

議長ハ即位ノ大禮御舉行ノ際本院ヲ代表シテ賀表ヲ捧呈スヘシ

四 明治天皇崩御ノ際列國議會ノ表明セル弔意ニ對シ謝意ヲ表スルノ決議

第三十回議會 (大正二年二月五日)

本日本院ハ明治天皇崩御ノ際列國議會ノ表明セシ同情アル弔意ニ對シ謝意ヲ表スルノ動議ヲ全會一致ヲ以テ可決致候間此段及通牒候也
右議長ヨリ内閣總理大臣ニ宛通牒セリ

五 皇太子殿下御結婚御成約竝御結婚ニ付奉表

第十四回議會 (明治三十三年二月十二日)

(兩陛下ニ捧呈スヘキモノ)

衆議院議長臣片岡健吉 本院ノ決議ヲ具シ誠恐誠惶頓首上奏ス今般

皇太子殿下御結婚御成約被爲在臣等恭賀ノ至ニ堪ヘス謹テ奉祝ス

(皇太子殿下ニ捧呈スヘキモノ)

臣衆議院議員等 誠恐誠惶頓首上奏ス爰ニ

殿下御結婚御成約被爲在臣等恭賀ノ至ニ堪ヘス謹テ奉祝ス

(明治三十三年五月十日)

(兩陛下ニ捧呈シタルモノ)

衆議院議長臣片岡健吉 誠恐誠惶謹テ

皇太子殿下御結婚ノ大典ヲ奉賀ス

(兩陛下ニ捧呈シタルモノ)

衆議院議長臣片岡健吉 誠恐誠惶頓首

御結婚ノ大典ヲ肅賀シ

殿下無量ノ高壽ヲ奉頌ス

六 戰功表彰、功勞感謝、軍隊後援、凱旋ニ關スル決議及答辭(一五號參看)

第一 戰功表彰ノ決議

第七回(臨時)議會 (明治二十七年十月二十一日)

附錄

四 明治天皇崩御ノ際列國議會ノ表明セル弔意ニ對シ謝意ヲ表スルノ決議 五 皇太子殿下御結婚御成約竝御結婚ニ付奉表 六 戰功表彰、功勞感謝、軍隊後援、凱旋ニ關スル決議及答辭 五十五

我帝國ノ忠勇ナル陸海軍隊ノ備サニ遠征ノ艱苦ヲ嘗メ平壤ニ黃海ニ大捷ヲ奏シ帝國ノ威武ヲ宣揚セルハ國民ノ深ク感激スル所ナリ衆議院ハ爰ニ誠實ニ國民ノ意思ヲ表彰ス
第八回議會（明治二十八年三月二十日）

本院ハ嚮キニ臨時帝國議會ニ於テ國民ヲ代表シ遠征軍隊ノ功勞ヲ感謝セリ爾來我軍隊ハ雪嶺ヲ踰ヘ凍海ヲ凌キ奮戰勇鬪幾十回盛京ヲ風靡シ山東ヲ席卷シ北洋艦隊ヲ殄滅シ日章ノ光輝ヲシテ山海ニ照耀セシム抑々忠誠義烈國ニ報シ愾ニ敵スルニアラスムハ焉ソ絶大ノ偉功ヲ奏スル此ノ如キヲ得ムヤ今ヤ戰局愈々張リ已ニ第一ノ作戰ヲ開始スルノ機會ニ際ス進ムテ全局ノ大捷ヲ收ムルニ於テ其勞苦愈々大ナルモアラム是レ國民ノ深ク感謝スル所ナリ特ニ茲ニ議決シテ誠實ニ國民ノ意志ヲ表彰ス

第十五回議會（明治三十四年一月二十九日）

曩ニ北清ノ擾亂ニ方リ我カ出征軍隊カ嚴肅ナル軍紀ノ下ニ在リテ克ク列國軍ト戮力シ備サニ辛苦ヲ嘗メ其ノ職任ヲ全ウシ以テ大ニ國光ヲ中外ニ發揚シタルハ國民ノ深ク感謝スル所ナリ衆議院ハ特ニ院議ヲ以テ其ノ忠勇勤勞ヲ表彰ス

第二十回（臨時）議會（明治三十七年三月二十五日）

我忠勇猛銳ナル帝國艦隊ハ連戰連捷敵國ヲシテ震攝セシメ以テ

皇武ヲ輝揚シ方ニ海上ヲ掃攘シ偉大ノ勳功ヲ樹ツ是レ國民ノ深ク感謝スル所ナリ衆議院ハ茲ニ之ヲ言明シテ誠意ヲ表ス

右ニ對スル東鄉聯合艦隊司令長官ノ答辭

電信 三月二十八日 東京著

聯合艦隊ハ本月二十五日ノ決議ニ係ル衆議院ノ鄭重ナル頌詞ヲ辱ウシ一同感佩ノ至ニ堪ヘス尙ホ益々奮勵事ニ從ヒ其ノ目的ヲ達セムコトヲ期ス

右謹テ答謝ス

（明治三十七年九月四日）

我カ忠勇ナル滿洲軍ハ備サニ艱苦ヲ嘗メ露軍ノ據守セル防備堅固ノ諸要地ヲ攻略シ遂ニ遼陽ヲ占領シテ戰局面ニ一進轉ヲ見ルニ至ル是レ國民ノ欣躍止マサル所ナリ衆議院ハ茲ニ至誠以テ祝意ヲ表シ將校士卒ノ功勞ヲ感謝ス

右ニ對スル大山滿洲軍總司令官ノ答辭

電報

鄭重ナル祝辭ヲ辱ウシ感謝ニ堪ヘス

第二十一回議會（明治三十七年十二月三日）

附錄 六 戰功表彰、功勞感謝軍隊後援、凱旋ニ關スル決議及答辭

滿洲軍ニ對スル慰問狀

五十八

我カ滿洲軍ハ遠征萬里懸軍十月銳ヲ摧キ堅ヲ拔キ激戰奮鬪茲ニ數十回兵氣益々旺ニシテ我カ武維レ揚レリ是レ國民ノ感激シテ措カサル所ナリ時祁寒ニ際シテ勞劬更ニ大ナラム衆議院ハ特ニ院議ヲ以テ熱誠ノ忱ヲ彰ハシ將校士卒ノ勇健ヲ祈ル

帝國聯合艦隊ニ對スル慰問狀

我カ帝國聯合艦隊ハ遠征以來茲ニ十閱月常ニ風濤ノ間ニ立チ萬死ヲ冒シ百難ヲ排シテ旅順ノ封鎖ヲ全ウシ今ヤ敵艦ヲシテ殄滅ニ瀕セシム其ノ功洵ニ偉ナリ是レ國民ノ感激シテ措カサル所ナリ時祁寒ニ際シテ勞劬更ニ大ナラム衆議院ハ特ニ院議ヲ以テ熱誠ノ忱ヲ彰ハシ將校士卒ノ勇健ヲ祈ル

右ニ對スル大山滿洲軍總司令官及東鄉聯合艦隊司令長官ノ答辭

電報 十二月四日午前十一時著信

熱誠ナル謝辭ヲ辱ウシ感激ニ堪ヘス本職ハ全軍ヲ代表シ衆議院ノ誠意ヲ感謝ス

電信 明治三十七年十二月四日 東京著

聯合艦隊ハ本月三日ノ決議ニ係ル衆議院ノ頌詞ヲ辱フレ一同感佩ノ至ニ堪ヘス尙ホ愈々勵精最終ノ目的ヲ達センコトヲ期ス

右謹テ答謝ス

同上 (明治二十八年一月六日)

旅順ノ要塞タル天險ヲ利シ人工ヲ極メ防備ノ堅世界無比ト稱ス而シテ勁敵ノ全力ヲ竭シテ死守スル所タリ我カ旅順攻圍軍ハ帝國聯合艦隊ト相待テ奮戰力鬪茲ニ數閱月陸ニ堅壘ヲ拔キ海ニ巨艦ヲ滅シ今ヤ敵ヲシテ策盡キ力窮マリ城ヲ開キテ降ヲ乞ハシムルニ至レリ是レ我カ將校士卒ノ忠勇堅忍克ク其ノ任務ヲ完クセシニ由ラスムハアラス衆議院ハ茲ニ院議ヲ以テ攻圍軍ノ功勞ヲ感謝ス

(明治二十八年二月十四日)

我カ滿洲軍カ奉天附近ノ會戰ニ於テ敵軍ヲ破摧シ大捷ヲ奏シタルハ國民ノ感激措カサル所ナリ茲ニ衆議院ハ將校士卒ノ偉勳ニ對シ深ク感謝ノ意ヲ表ス

右ニ對スル大山滿洲軍總司令官ノ答辭

大山總司令官ノ答電

奉天附近ノ戰勝ニ對シ祝詞ヲ辱フシ感謝ノ至リニ堪ヘス

明治三十八年二月十六日午前十一時三十分

(明治三十八年六月一日)

我帝國聯合艦隊ハ籌畫遺算ナクク敵艦隊ヲ殄滅シテ其ノ將帥ヲ生擒ス其ノ效果ノ繫ル所
豈現下ノ戰局ノミナラムヤ衆議院ハ茲ニ振古未曾有ノ大捷ヲ祝シ深ク將校士卒ノ功勞ヲ感
謝ス

右ニ對スル東郷聯合艦隊司令長官ノ答辭

日本海ノ戰捷ニ關シ貴院ヨリ鄭重ナル頌詞ヲ蒙リ一同感佩ノ至リニ堪ヘス尙ホ益勵精厚
志ヲ空フセサラムコトヲ期ス艦隊ヲ代表シ茲ニ敬ミテ謝辭ヲ呈ス

(大正三年十一月七日)

青島陷落ニ付獨立第十八師團ニ對スル祝電

青島ノ諸砲壘占領ノ報ヲ忝フシ欣喜ニ堪ヘス是閣下ノ籌畫違算ナキト將校士卒ノ堅忍能ク
其ノ任務ヲ完フシタルニ依ル本職ハ茲ニ本院ヲ代表シテ忝シク祝詞ヲ呈ス

衆議院議長 奧 繁三郎

獨立第十八師團長陸軍中將神尾光臣殿

同第二艦隊ニ對スル祝電

貴艦隊ハ陸軍ト協同シ青島ヲ占領セラレタルノ報ニ接シ欣喜ニ堪ヘス出征以來數旬ノ勞劬
洵ニ感佩ニ勝ヘス本職ハ茲ニ本院ヲ代表シ謹テ祝詞ヲ呈ス

衆議院議長 奧 繁三郎

出征第二艦隊司令長官加藤定吉殿

右ニ對スル神尾司令官ノ答電

深厚ナル御慰問ヲ感謝シ併セテ 陛下ノ御稜威ニ依リ青島堡壘砲壘ノ占領ヲ報知スルノ光
榮ヲ有ス

獨立第十八師團長

陸軍中將 神尾 光臣

同加藤司令長官ノ答電

青島陷落ニ對シ早速祝電ヲ辱フシ感謝ニ堪ヘス謹ミテ謝意ヲ表ス

第二艦隊司令長官 加藤 定吉

第二 功勞感謝ノ決議

第三十五回議會 (大正三年十二月八日)

我カ陸海軍ハ備ニ艱苦ヲ嘗メ東洋ニ於ケル敵ノ根據ヲ掃蕩ス衆議院ハ茲ニ院議ヲ以テ其ノ
功勞ヲ感謝ス

右ニ對スル岡陸軍大臣ノ謝辭

唯今ハ陸海軍ノ作戰行動ニ關シ感謝ノ意ヲ表セラレマシタ私ハ陸軍ノコトニ關係シテ御接
撥ヲ申上ゲマス鄭重ナル御感謝ノ意ヲ表セラレマシタノハ青島攻圍ニ從軍致シテ參リマス
ル將卒ノ光榮トスルノミナラズ延イテ陸軍全般ノ名譽トスルトコロゴザイマス陸軍ヲ代
表致シマシテ厚ク御禮ヲ申上ゲマス

右ニ對スル八代海軍大臣ノ謝辭

衆議院ハ院議ヲ以テ海軍ノ策戰行動ニ對シ御鄭重ナル謝意ヲ表セラレマシタ洵ニ感謝ノ至
リデゴザイマス吾人海軍々人ハ將來ニ於テモ益々拮据精勵大命ニ奉答スルコト勿論デアリ
マス此院議ヲ承ハリマシテハ忠勇ナル戰死者竝ニ其遺族ハ定メテ喜ビ大満足デアラウト思
ヒマス謹ンデ海軍ヲ代表シテ厚ク御禮ヲ申上ゲマス

右ニ對スル神尾前獨立第十八師團長ノ謝辭

陛下ノ御稜威ト海軍ノ協同竝國民ノ後援トニ依リ青島ヲ攻略セル獨立第十八師團ノ微功ニ
對シ特ニ衆議院ノ決議ヲ以テ鄭重ナル感謝ノ辭ヲ寄セラレタルハ師團將卒ノ深ク光榮トス
ル所ニシテ感謝ノ至リニ堪ヘス茲ニ團下一同ヲ代表シ滿腔ノ謝意ヲ表ス

第二 軍隊後援ニ關スル決議

第八回議會 (明治二十八年二月一日)

本院ハ征清ノ

大詔ヲ遵奉シ交戰ノ目的ヲ達シ帝國ノ光榮ヲ全フスルハ前途尙遠キヲ信ス故ニ之ニ伴フ軍
資ノ支出ハ更ニ幾許ヲ要スルモ進テ之ヲ協贊スヘシ特ニ茲ニ決議シテ本院ノ意志ヲ明ニス

第二十回(臨時)議會 (明治二十七年三月二十九日)

征露ノ 聖詔ハ公明正大專ラ東洋ノ平和ヲ軫念シ給フニ出ツ我帝國ノ臣民タルモノ孰カ鞠
躬盡瘁以テ 盛旨ニ獎順セサラムヤ本院ハ乃チ國民報國ノ誠意ヲ體シ政府求ムル所ノ軍資
ヲ辨給シ以テ戰費ニ缺クル所ナカラムコトヲ圖レリ惟フニ今ヤ戰端僅ニ開ケ我艦隊ノ奏功
偉大ナルモノアリト雖全局ノ大捷ヲ收メ東洋ノ平和ヲ克復スルハ前途猶遼遠ニ屬ス其ノ必
要ノ戰費ノ如キハ本院ノ固ヨリ吝マサル所ナリ本院ハ切ニ望ム内閣大臣ハ宏謨ヲ翼贊シ運
籌畫策能ク機宜ニ適シ速ニ裁定ノ功ヲ致サムコトヲ茲ニ特ニ決議シテ國民意志ノ在ル所ヲ
表明ス

第三 凱旋ニ關スル決議

第二十一回議會 (明治二十七年十二月二十八日)

帝國聯合艦隊ハ今ヤ旅順敵艦隊ヲ殄滅シ其封鎖ノ一部ヲ撤スルニ至ル是レ將校士卒ノ終始
克ク其任務ヲ遂行セシニ由ルト雖モ東鄉聯合艦隊司令長官ノ籌略機ニ中リ指揮宜キヲ得タ

ルニ非スシハ焉ク今日ノ大勳ヲ樹ツルヲ得ンヤ衆議院ハ東郷聯合艦隊司令長官ノ凱旋ニ際シ茲ニ院議ヲ以テ特ニ歡迎ノ意ヲ表ス

七 土耳其帝國議會ノ開設ニ對スル祝電

第二十五回議會 (明治四十一年十二月二十六日)

大日本帝國衆議院議長長谷場純孝ハ第二十五回議會開會ノ劈頭ニ於テ全會一致ノ決議ニ依リ貴帝國議會ノ開設ヲ祝シ併セテ光輝アル發展ヲ希望スルノ光榮ヲ有ス

八 慰問及挨拶

(明治二十七年八月十日)

旅順口沖ノ海戰ニ於テ伏見宮博恭王殿下御負傷アラセラレタル際ノ御見舞書

衆議院ハ海軍少佐勳一等博恭王殿下本月十日旅順口沖ニ於テ御勇戰中御負傷アラセラレタル報ニ接シ恐懼ノ至ニ堪ヘス茲ニ謹テ御容體ヲ奉伺シ併テ御平癒ノ速ナランヲ奉祈ス

右ニ對スル御挨拶(同月二十九日)

衆議院ノ鄭重ナル御見舞ヲ受ケ満足ニ思召サル

第四回議會 (明治二十五年十一月二十九日)

伊藤内閣總理大臣負傷セラレタル際ノ慰問ニ對スル挨拶

此開院早々ノ時ニ方リ此不幸ニ逢ヒ諸君ニ見ユルヲ得サルハ誠ニ遺憾ノ至ニ候

右ニ付早速諸君ノ御見舞ヲ忝フシ不知所謝次第ニ候何レ快癒早々自身出院ノ折ヲ以テ親シク御禮可致候幸ニ此意ヲ諒セラレンコトヲ冀フ

第二十五回議會 (明治四十二年一月七日)

伊太利國大震災慰問ノ電報要領

日本帝國衆議院ハ貴帝國シ、リ及カラブリアニ於ケル悲惨ナル震災ノ報ニ接シ痛歎ノ至ニ堪ヘス茲ニ本院ヲ代表シテ同情ノ誠ヲ致ス

衆議院議長 長谷場純孝

右ニ對スル在伊太利林大使ヨリ外務省ヘノ電報(同月十五日)

我衆議院ノ弔辭ハ直ニ外務大臣ヲ經テ伊國代議院議長ニ轉達方ヲ依頼シタルニ外務大臣ヨリ相違ナク送達セル旨回答アリ尙念ノ爲代議院ニ問合ハセタルニ右ノ弔辭ニ接セルト共ニ議長ヨリ謝電ヲ我衆議院議長ニ發達セル由ナリ

石井外務次官ヨリ林田書記官長宛通牒(同年二月三日)

貴院議長ヨリ伊國代議院議長宛同國震災ニ關スル弔詞ハ本年一月七日林大使ヨリ伊國外務大臣ヲ經テ同議長ヘ轉達相成候處今般別紙寫之通回答有之候旨同大使ヨリ通知有之候間可然御取計相成度此段申進候也

(別紙)

一九〇九年一月九日羅馬府ニ於テ
大使閣下

本月七日付ヲ以テ閣下ヨリ御送達相成候通知書第五號領掌候段回答申上候

予ハ閣下ニ貴國衆議院議長殿ヨリ過般當國「カラブル」及「シ、ール」ニ起リタル震災ニ對シ御

慰弔ニ預リ候電報ノ儀ハ早速其寫ヲ當國下院議長殿ニ回送致候儀右御報知申上候

閣下ノ御懇篤ナル御通告ヲ感謝スルト共ニ閣下ハ予カ閣下ニ對スル最高ノ敬意ヲ嘉納セラレ
ン事ヲ希望致候

チトニー(自署)

羅馬府ニテ

日本國大使林男爵殿閣下

九 弔詞及通牒

(一) 皇族ノ薨去

第八回議會 (明治二十八年一月二十四日)

衆議院ハ陸軍大將大勳位熾仁親王殿下ノ薨去ヲ追悼シ奉リ恭シク弔詞ヲ奉呈ス

(明治二十八年十一月五日)

衆議院ハ陸軍大將大勳位能久親王殿下ノ薨去ヲ追悼シ奉リ恭シク弔詞ヲ奉呈ス

(明治四十二年十二月十一日)

神宮祭主大勳位賀陽宮殿下御薨去アラセラレ哀悼ノ至ニ堪ヘズ茲ニ謹テ弔詞ヲ奉ル

衆議院議長 長谷場純孝

(大正二年七月十二日)

衆議院ハ議定官元帥海軍大將大勳位功三級威仁親王殿下ノ薨去ヲ哀悼シ奉リ恭シク弔詞ヲ奉呈ス

(二) 締盟國皇帝ノ崩御

第十五回議會 (明治三十四年二月二日)

衆議院ハ深ク大不列顛國皇帝ヴヰクトリヤ陛下ノ崩御ヲ哀悼シ特ニ本日休會ス

右ニ對スル加藤外務大臣ヨリノ通牒

(二月十四日附ノ分)

故英國皇帝陛下御大葬ノ日貴院ニ於テ哀悼ノ意ヲ表シ休會セラレタルコトハ當時駐劄林特命全權公使ニ電報シテ同國政府ニ通知ニ及ハシメ候處右ノ件ニ關シ英國新皇帝陛下ノ最モ深厚ナル謝意傳致方別紙譯文ノ通二月九日附ヲ以テ同國外務大臣ヨリ申越候趣林公使ヨリ電報有之候ニ付此段及御通知候也

(電信譯文)

日本國貴族院及衆議院ハ故皇帝ノ紀念ノ爲メ陛下ノ大葬日ニ於テ休會セラレ以テ同情及尊敬ヲ表セラレタルハ皇帝ニ於テ最モ深く感謝セラレタル所ナリ本大臣ハ此懇篤ナル感情及尊敬ノ自然的發動ニ對シ陛下ノ最モ深厚ナル謝意ヲ閣下ヨリ其筋ヘ傳致セラレンコトヲ冀望ス

(五月二十七日附ノ分)

在本邦英國公使ハ曩ニ故英國皇帝陛下御大葬ノ當日帝國議會カ兩院同時ニ痛悼ノ意ヲ表彰スルノ決議案ヲ通過シ尙同日特ニ休會シテ築地トリニテイー教會堂ニ於テ執行セラレタル弔祭式ニ代表者ヲ列席セシメタル次第ヲ本國政府ニ報告ニ及ヒタル處同國外務大臣ハ右報告ヲ新

皇帝陛下ヘ奏上ニ及ヒタル趣ニテ陛下ハ之ニ就キ帝國議會カ故陛下ニ對シ表彰シタル深厚ナル敬意ヲ嘉納セラレ且ツ今帝竝ニ陛下ノ臣民ノ愁傷ニ對シ日本全國民カ一般痛惜ノ意ヲ表シタルコトヲ御承知相成リ深く感動セラレルニ付其旨本邦英國公使ヲ經テ其向ヘ相通シ候様外務大臣ヘ勅命アリタル趣ニテ同公使ヨリ右ノ聖意ヲ閣下竝ニ貴院議員諸君ニ相通シ候様本大臣マテ依頼申出候間右御承知ノ上夫々通達方可然御取計相成度此段申進候敬具

(三) 元勳其ノ他ノ薨去

第一回議會 (明治二十四年二月十九日)

衆議院ハ明治ノ元勳國家ノ柱石タル内大臣正一位大勳位公爵三條實美公ノ訃音ニ接シ痛惜哀悼ノ至ニ耐ヘス恭ク茲ニ弔詞ヲ呈ス

第八回議會 (明治二十八年二月二十二日)

衆議院ハ忠勇ナル陸軍少將從四位勳三等大寺安純君戰死ノ訃音ニ接シ哀悼ノ至リニ堪ヘス茲ニ恭シク弔詞ヲ呈ス

第十三回議會 (明治三十一年一月二十五日)

本院ハ國家ニ功勳アル樞密顧問官正二位勳一等伯爵勝安芳君ノ訃音ニ接シ哀悼ノ至ニ耐ヘス茲ニ弔詞ヲ呈ス

第十五回議會 (明治三十四年二月七日)

衆議院ハ夙ニ開國ノ說ヲ唱ヘカヲ教育ニ致シタル福澤諭吉君ノ訃音ニ接シ茲ニ哀悼ノ意ヲ表ス
第二十一回議會 (明治三十八年二月四日)

衆議院ハ國家ニ勳功アル樞密顧問官正二位勳一等伯爵副島種臣君ノ薨去ヲ聞キ哀悼ノ至ニ堪ヘ
ス茲ニ恭ク弔詞ヲ呈ス

同上 (明治三十八年二月十四日)

衆議院ハ戰功顯著ナル陸軍中將從三位勳一等功三級松村務本君ノ薨去ヲ追悼シ茲ニ弔意ヲ表
ス

右ニ對スル嗣子松村操君ヨリノ謝辭

貴院ハ父陸軍中將從三位勳一等功三級松村務本薨去ニ付特ニ院議ヲ以テ生前ノ戰功ヲ贊揚シ
テ弔意ヲ表セラレ寔ニ感激ニ堪ヘス茲ニ謹テ謝辭ヲ呈ス

(明治四十一年十月二十六日)

樞密院議長從一位大勳位公爵伊藤博文君薨去セララル

公夙ニ皇政維新ノ大業ヲ贊襄シ開國進取ノ國是ヲ翼立シ入りテハ大鼎ヲ鹽梅シ出テ、ハ樽俎ニ
折衝シ常ニ國運ノ興隆ヲ扶ケ文明ノ進歩ト平和ノ確保ニ心力ヲ注キ蹇々匪躬五十年殊ニ公カ千

歲不磨ノ憲法ヲ起草シ其ノ濟美ニ盡瘁セラレタルハ國民ノ齊シク仰視スル所ナリ今ヤ老軀遙カ
ニ滿洲ニ入り更ニ大ニ貢獻スル所アラムトシ不幸韓人ノ兇手ニ墮ル衆議院ハ國家ノ柱石ヲ喪ヒ
哀悼已ムナシ茲ニ恭シク弔詞ヲ呈ス

第三十一回議會 (大正三年三月七日)

衆議院ハ多年憲政ノ爲ニ盡瘁シ且本院議長ノ職務ニ執掌セラレタル司法大臣正二位勳一等男爵
松田正久君ノ薨去ヲ哀悼シ特ニ院議ヲ以テ恭ク弔詞ヲ呈ス(六二二號(二)(イ)參看)

(四) 議員ノ逝去

衆議院議員ハ議員法貴發君ノ長逝ヲ追悼シ恭シク弔詞ヲ呈ス

(備考)

第二回議會ヨリハ衆議院議員ヲ衆議院ト改メ爾後之ヲ以テ例トス

星亨君片岡健吉君及鳩山和夫君ニ對シテハ普通ノ文例ニ依ラス左ノ弔詞ヲ贈リタリ

(明治三十四年六月二十一日)

衆議院ハ議員星亨君ノ不慮ノ慘禍ニ罹リ長逝セラレタルヲ追悼シ恭シク弔詞ヲ呈ス

(明治三十六年十月三十一日)

衆議院ハ多年帝國議會ノ爲ニ盡瘁シ且本院議長ノ職務ニ執掌セラレタル衆議院議長正四位勳

二等片岡健吉君ノ長逝ヲ哀悼シ恭ク弔詞ヲ呈ス

(議員總代哀悼ノ辭)

私ハ年長者ノ廉ヲ以チマシテ、滿場諸氏ニ代リ、故片岡議長ニ對スル哀悼ノ意思ヲ申述ベマス、故片岡議長ハ、第六回議會ニ於テ副議長ノ任ニ當ラレ、其後第十二議會ニ於テ議長ニ當選セラレ、第十八議會マデ七回ノ會期ニ議長ノ職務ヲ執ラレ、議長トシテ不偏不黨嚴正ノ態度ヲ執ラレマシテ、國家ノタメニ盡瘁セラレタノデゴザイマス、然ルニ不幸ニシテ、本年十月三十日溘然長逝セラレマシタハ、實ニ愛惜痛嘆ノ至リニ堪ヘマセヌノデゴザイマス、私ハ本院諸氏一同ニ代リマシテ、茲ニ謹ンテ哀悼ノ意ヲ申述ベマス次第デゴザイマス

(明治四十四年十月四日)

衆議院ハ多年帝國議會ノ爲ニ盡瘁シ且本院議長ノ職務ニ執掌セラレタル議員正四位勳三等法學博士鳩山和夫君ノ長逝ヲ哀悼シ恭ク弔詞ヲ呈ス

第三十一回議會(大正三年三月十七日)

衆議院ハ帝國議會開設以來常ニ議席ニ列シ再度議長ノ職ニ勤勞セラレタル衆議院議長從三位勳二等長谷場純孝君ノ薨去ヲ哀悼シ本院ノ決議ヲ以テ恭シク弔詞ヲ呈ス

一〇 憲法第六十七條ニ依レル修正議決ニ對スル政府ノ覆牒

第一回議會 (明治二十四年二月二十四日)

衆議院ハ明治二十四年度歲計豫算ニ對シ確定議ノ前ニ當リ憲法上ノ手續ニ隨ヒ政府ニ同意ヲ求メタリ

政府ハ之ヲ審查スルニ修正案ハ官制ヲ變革セントスルノ點ニ於テ豫算議定權ノ區域ヲ超越シタリ

法律ノ結果ニ關スル歲出及契約ノ義務ニ屬スル歲出ヲ廢除削減セントシタルハ政府ノ同意セサル所ナルノミナラス法律ノ正文ヲ以テ規定シタル事件ヲ豫算ニ依リテ變革セントスルハ又其ノ分界ヲ誤マレリ

況ンヤ削減セル金額ニ對シ政府ハ及フ丈ケ議院ノ議決ヲ敬重スルノ方向ヲ取ルコトヲ怠ラサルヘシト雖モ此ノ如キ豫算ノ變更ハ行政ノ責ニ當ルモノ、實施シ能ハサル所ナリ茲ニ議院ノ再考ヲ望ム

第四回議會 (明治二十六年一月十七日)

政府ハ憲法第六十七條ノ歲出ニ關スル衆議院ノ要求ニ對シ不同意ヲ表シタルニ拘ラス今復タ政

府ノ再考ヲ求メラレタルモ政府ハ斷シテ不同意ヲ表セサルヲ得ス
同上 (同日)

憲法第六十七條ノ歲出ニ關シ政府ハ既ニ憲法ノ明許セル權能ニ依リ不同意ヲ表シタルニ拘ラス
政府ノ再考ヲ請求セラレタルニ因リ政府ハ再應不同意ヲ表シタルニ今復五日間休會シテ政府ノ
處置ヲ待ツヘシトノ決議通牒ニ接セリ政府ハ憲法保障ノ歲出ニ付不同意ノ理由竝政府自ラ處置
スルコトナキ理由ハ既ニ之ヲ辯明シタル以上政府ノ意見ハ終始一貫更ニ異動ナキ事ヲ斷言ス

一一 國務大臣出席ノ要求ニ對スル政府ノ覆牒

第一回議會 (明治二十三年十二月十八日)

昨日貴院ノ決議ニ依リ更ニ答辯御請求有之候處本大臣ニ於テハ既ニ昨日答辯シ盡キタリト信シ
候ニ付御求メニ應シ難ク此段及回答候也

同上 (明治二十四年二月三日)

政府ハ豫算問題ノ範圍外ニ於テ工商諸會社ニ對スル保護政策ノ方針如何ノ質問ハ議院法第四十
八條ニ依リ主意書ヲ以テ質問アラシコトヲ望ム

政府ハ議院ト共ニ法律ノ明文ヲ循守スルノ義務ヲ有ス依テ前陳ノ覆牒ニ及フモノナリ

第四回議會 (明治二十五年十二月七日)

二十五年十二月三日及同月五日ノ通牒ニ於テ貴院ハ國務大臣ノ出席ヲ請求セラレタリ國務大臣
ハ何時ニテモ衆議院ニ出席スルノ權ヲ有スルカ故ニ其ノ出席ノ爲ニ特ニ貴院ノ請求ヲ煩ハスヲ
要セス此段覆牒ニ及候也

第五回議會 (明治二十六年十二月十六日)

二十六年十二月十五日ノ通牒ニ於テ貴院ハ國務大臣ノ出席ヲ請求セラレタリ國務大臣ハ何時ニ
テモ各議院ニ出席ノ權ヲ有スルカ故ニ其ノ出席ノ爲ニ特ニ貴院ノ請求ヲ煩ハスヲ要セス此段覆
牒ニ及ヒ候也

第六回議會 (明治二十七年五月二十八日)

鈴木充美君外二名提出判事ノ退職ニ關スル質問ニ對スル本大臣答辯ノ旨趣ハ曩ニ提出シタル答
辯書ニ盡シタルコトヲ信スルヲ以テ更ニ議院ニ出席シテ辯明スルノ必要ヲ認メス

一二 政府委員交換ノ要求ニ對スル政府ノ覆牒

第一回議會 (明治二十四年二月二日)

政府委員ハ其ノ權限内ニ於テ答辯シ又ハ答辯セサルノ自由ヲ有スル者ニ就キ政府ハ一ツノ政府

附錄

一一 國務大臣出席ノ要求ニ對スル政府ノ覆牒 一二 政府委員交換ノ要求ニ對スル政府ノ覆牒 七十五

委員カ議員ノ問ニ答辯セサルヲ以テ理由トナシ之ヲ交換スルコト能ハス

一三 拘留中ノ議員ニ關スル決議ニ對シ司法大臣ノ覆牒竝通知

第一回議會 (明治二十二年十二月四日)

本大臣ハ憲法ノ明文ニ從ヒ司法權ノ施行ヲ爲サシムルノ外已ニ著手シタル刑事訴追ヲ停止セシムルノ權ヲ有セス從テ他ノ權勢ノ諾否ニ因リ司法權ノ必要ナル處分ヲ張弛セシムルコト能ハス故ニ議會ノ議決ニ對シテ何等ノ關係ヲ有スルコトナシ
召集ノ前日右拘留中ノ議員ニ對スル通知

衆議院議員當選者森時之助ハ當今委託物費消被告事件ニ付東京地方裁判所ニ於テ審問拘留中ニ有之候依ツテ此段及通知候也

明治二十三年十一月二十四日

司法大臣 伯爵山田顯義

衆議院書記官長 曾禰荒助殿

同上議員刑ノ宣告ヲ受ケタルトキノ通牒

去月二十四日付衆議院書記官長宛ヲ以テ及御通牒置候森時之助被告事件ハ本日落著依託金費消罪ニシテ刑法第三百九十五條ニ依リ重禁錮一箇年ノ刑ニ處セラレ候此段及御通知候也

明治二十三年十二月四日

司法大臣 伯爵山田顯義

衆議院議長 中島信行殿

一四 建議ニ對スル政府ノ覆牒

第六回議會 (明治二十七年五月二十八日)

判事ノ退職ニ關スル質問ノ件ニ付司法大臣ノ出席ヲ要求スルノ建議ニ對スル覆牒

鈴木充美君外二名提出判事ノ退職ニ關スル質問ニ對スル本大臣答辯ノ旨趣ハ曩ニ提出シタル答辯書ニ盡シタルコトヲ信スルヲ以テ更ニ議院ニ出席シテ辯明スルノ必要ヲ認メス

一五 戦功表彰ノ決議ニ對スル國務大臣ノ回答竝通牒(六號ノ第一參看)

第二十回(臨時)議會 (明治二十七年三月二十六日、二十八日)

山本海軍大臣ヨリ帝國艦隊ノ戦功表彰ノ決議ニ對スル回答竝通牒

帝國艦隊ノ行動ニ關スル貴院ノ決議相添艦隊へ通報方御申越之趣了承感銘ニ堪ヘス則チ直ニ聯合艦隊へ通報取計置候此段御挨拶及御回答候也

本月二十五日貴院ニ於ケル決議ノ趣ハ御申越ニ依リ其節聯合艦隊へ通達方取計置候處同艦隊ヨリ別紙之通答辭差出候ニ付茲ニ及御轉送候間可然御取計相成度此段申進候也

(明治二十七年九月七日)

寺内陸軍大臣ヨリ滿洲軍ノ遼陽占領ニ付テノ感謝狀ニ對スル通牒

貴院ノ感謝狀ニ對シ大山滿洲軍總司令官ヨリ別紙寫ノ通り傳送方電報有之候間此段申進候也
第二十一回議會 (明治二十七年十二月二日、五日)

山本海軍大臣ヨリ帝國聯合艦隊ニ對スル慰問狀ニ對スル回答竝通牒

帝國聯合艦隊ノ行動ニ對スル貴院ノ決議同艦隊へ傳送方御申越相成承了感謝ニ堪ヘス則早速同艦隊司令長官へ通達取計候間此段御回答旁不取敢御挨拶申進候也

本月三日ノ貴院決議ニ對シ別紙之通聯合艦隊司令長官ヨリ挨拶申出候ニ付及御轉送候間可然御取計相成度此段申進候也

同上 (明治二十七年十二月四日)

寺内陸軍大臣ヨリ滿洲軍ニ對スル慰問狀ニ對スル通牒

拜啓滿洲軍ニ對スル貴院ノ決議ヲ直ニ大山總司令官ニ通達致シ候處左ノ答辭有之候ニ付及御

送付候也

同上 (明治二十八年二月十六日)

寺内陸軍大臣ヨリ松村陸軍中將薨去ニ付弔意ノ決議ニ對スル通牒

貴院書記官長ヨリ御送付相成候貴院カ松村陸軍中將ノ薨去ニ對スル深厚ナル哀悼ノ決議ハ早速同遺族へ傳達致候處遺族一同感泣拜謝罷在候右御通知旁御挨拶申上候敬具

(明治二十八年三月十六日)

寺内陸軍大臣ヨリ滿洲軍ノ奉天附近會戰大捷ノ感謝狀ニ對スル通牒

貴院ヨリ滿洲軍ニ對スル感謝狀傳達致候處別紙ノ通大山總司令官ヨリ貴院ニ對シ答電有之候間此段及通牒候也

(明治二十八年八月一日、三日)

山本海軍大臣ヨリ日本海海戰ニ於テ帝國聯合艦隊大捷ノ感謝狀ニ對スル回答竝通牒

聯合艦隊ニ對スル貴院ノ感謝文同司令長官へ傳達方本日御申越之趣了承深ク感銘ニ堪ヘス候早速同司令長官へ傳達取計候間此段御回答旁不取敢御挨拶申進候也

今回ノ戰捷ニ關スル貴院ノ感謝文ニ對シ別紙ノ通東郷聯合艦隊司令長官ヨリ挨拶申越候ニ付

茲ニ及御轉送候條可然御取計相成度此段申進候也

第二十五回議會 (大正三年十二月十一日)

岡陸軍大臣ヨリ功勞感謝ニ關スル決議ニ對スル通牒

去ル八日ノ貴院決議ニ對シ別紙ノ通神尾前獨立第十八師團長ヨリ挨拶申出候ニ付及御傳達候條可然御取計相成度此段申進候也

一六 補闕選舉ノ請求ニ關スル照會及回答

補闕選舉ノ請求ニ關スル件ニ付林田書記官長ヨリ内務次官宛照會

衆議院議員ニシテ選舉訴訟若ハ當選訴訟ノ結果ニ依リ當選無効トナリタルトキ又ハ其選舉ニ關スル罰則ニ依リ處罰セラレタル結果當選無効トナリタルトキハ選舉ノ日ヨリ一箇年以内ナルト以後ナルトニ不拘衆議院議員選舉法第七十條ニ依リ直ニ補充ノ手續ヲ爲スヘキモノニシテ議院法第八十四條ニ依リ衆議院議長ヨリ補闕ノ請求ヲ爲スヲ要セサル儀ト存候得共爲念御省議承知致度此段及御照會候也(明治四十二年六月十八日)

右照會ニ對シ内務次官ノ回答

衆議院議員ニシテ選舉訴訟若ハ當選訴訟ノ結果ニ依リ當選無効トナリタルトキ又ハ其選舉ニ關スル罰則ニ依リ處罰セラレタル結果當選無効トナリタルトキニ於ケル補充方法其他ノ件ニ就キ御照會ノ趣了承右ハ本省ニ於テモ御來旨ノ通省議決定致居候間右様御承知相成度此段及御回答候也(明治四十二年六月十九日)

一七 議長及副議長就職ノ辭並年長議員ノ祝詞

第一 議長就職ノ辭

第一回議會 (明治二十三年十一月二十七日)

議長中島信行君 諸君ノ推薦ヲ深ク感謝致シマス是ヨリ憲法及議院法ヲ確守シテ我職ヲ盡サウト思ヒマス

第三回議會 (明治二十五年五月四日)

議長星亨君 諸君私ハ諸君ノ推薦ニ依リ而シテ陛下ノ勅裁ヲ得テ即チ茲ニ議長ノ重職ニ就キマシテ私ノ極メテ榮譽ト致ス所デゴザイマス而シテ私ハ自由黨員デゴザイマス然レドモ議長ノ職ハ——議長ハ即チ全院ノ推ス所デアリ全院ノ輿論ヲ代表スル所デアリマス左スレバ公平ヲ主トシナケレバナラヌコトデアリマス依テ私ハ議長ノ職ヲ執ルニ方ッテハ黨派ノ如何ニ關

係セズ彼是ニ偏倚スルコトナク公平ニ事ヲ處スル積リデゴザリマス或ハサウ云フ心デゴザリ
マスケレドモ人ト云フモノハ随分過チナシト言ハレナイモノデゴザリマスカラ萬一偏倚スル
様ナコトガゴザリマシタナラバ即チ諸君ニ於テハ御遠慮ナク其處ハイカナイ斯ウシタラ宜カ
ラウト云フコトヲ御遠慮ナク仰シヤツテ貫ヒタイト考ヘマスサウシテ此議長ノ職ヲ行フニ
當ツテハ即チ諸君ノ協贊ヲ經ナケレバナラヌコトデゴザイマスカラシテ若シサウ云フコトガ
アツタナラバ私ハ即チ過ヲ改ムルニハ一向客カナイ即チドシクヤル積リデアリマス因テ聊
カ謝辭ヲ述ベマシタ譯デゴザリマス

第五回議會 (明治二十六年十二月十五日)

議長楠本正隆君 本日ハ不肖正隆衆議院議長ノ 勅任宣下ノ榮ヲ蒙リマシテゴザリマス就キ
マシテ將來益、勉勵以テ諸君推薦ノ御厚意ニ對フルノ外ハゴザリマセヌ宜シク御頼ミ申上ゲマス
第六回議會 (明治二十七年五月十四日)

議長楠本正隆君 諸君不肖正隆ハ一昨十二日衆議院議長 勅任ノ宣下ヲ蒙リマシテゴザイマ
ス是ハ全ク諸君ガ推薦ノ御厚意ニ依リマシタル結果ナルコトハ申上ゲルマデモゴザイマセヌ
抑モ第六期ノ議會ハ解散後ノ議會デゴザイマシテ最モ大切ナル議會デゴザイマス此議會ヨリ
シテ不肖正隆ガ議場整理ノ大任ヲ荷ヒマスルノハ諸君ニ謝スルト共ニ無上ノ光榮デゴザイマ

ス就テハ益、注意精勵致シテ本職ノ事實ヲ舉ゲマシテ諸君ノ御厚意ニ應ヘマスル覺悟デゴザ
イマス謹テ此ニ謝辭ヲ申シマス

第七回(臨時)議會 (明治二十七年十月十六日)

議長楠本正隆君 諸君昨十五日ニ於テ衆議院議長 勅任ノ恩命ヲ蒙リマシタ今ヤ懸軍征清ノ
秋ニ當リ又總選舉後初メテノ議會ニ際シ極メテ大切ナル時ニ於キマシテ議場整理ノ任ヲ擔ヒ
マスルノハ一層光榮ニ存ジマスル就キマシテハ不行届ナガラ誠心誠意ヲ注ギ職務ヲ勵ミ法律
規則ニ依ツテ公平ヲ期シ以テ諸君ガ御推薦ノ厚意ニ對ヘマスル覺悟ヲ致シマシテゴザイマス
茲ニ議長ノ職ニ就キマスルノ披露ニ併セテ謹テ諸君ニ御禮ヲ申上ゲマス

第十回議會 (明治二十九年十二月二十二日)

議長鳩山和夫君 諸君ノ御推薦ニ依リマシテ昨日此ノ辭令書ヲ受ケマシテゴザイマス即チ
從五位法學博士 鳩山和夫

議院法第三條ニ依リ衆議院議長ニ任ス

明治二十九年十二月二十二日

內閣總理大臣從二位勳一等

伯爵 松方正義奉

茲ニ御報告ヲ申上ゲマス尙ホ申スマデモナイコトデゴザリマスガ就職中ハ法律規則ノ命ズル所ニ依リマシテ誠實ニ其職務ヲ盡ス積リデアリマス

第十二回議會 (明治三十一年五月十七日)

議長片岡健吉君 諸君不肖健吉ハ諸君ノ御推薦ニ依リマシテ昨十六日衆議院議長ノ宣下ヲ蒙リマシテゴザイマス誠ニ私ノ光榮ニ存ジマス然ルニ不肖ノ身ヲ以テ此重職ヲ瀆シマスノハ其職務ニ堪エザルコトヲ深ク恐ル、ノデアリマス私ハ誠實ニ其職務ヲ努メマスルノ心得デアリマスルガ私ノ至ラザル所ハ何卒諸君ノ御補助アランコトヲ希望致シマス

第十三回議會 (明治三十一年十一月十日)

議長片岡健吉君 諸君不肖健吉ハ諸君ノ御推薦ニ依リ衆議院議長宣下ノ榮ヲ辱ウスルニ至リマシタルノハ深ク感激スル所デゴザイマス就キマシテハ不學短才ヲモ願ミマセズ偏ニ諸君ノ御補助ニ依リマシテ其職務ヲ盡サウト思ヒマス諸君幸ニ此意ヲ諒セラレンコトヲ願ヒマス

第十七回議會 (明治二十五年十二月八日)

議長片岡健吉君 諸君不肖健吉ハ昨七日衆議院議長ノ宣下ヲ蒙リマシタ再度議長ノ職ニ就キマスルノハ誠ニ私ノ光榮デアリマシテ深ク諸君ニ謝シマス然ルニ非才ノ身ヲ以チマシテ此重任ニ當リマスルノハ其職責ヲ盡ス上ニ於テ竊ニ私ノ憂惧スル處デアリマス唯私ハ誠心誠意

以テ此職務ヲ行フ考デアリマス幸ニシテ諸君ノ御補助ヲ得マシテ其職務ヲ全ウスルコトヲ得マスルナラバ私ノ幸甚デアリマス此一言ヲ以テ諸君ニ謝辭ヲ述ベマス

第十九回議會 (明治二十六年十二月七日)

議長河野廣中君 諸君謹ンデ諸君ニ御挨拶ヲ致シマス不肖廣中一昨日衆議院議長任命ノ宣下ヲ蒙リマシタ次第デゴザイマス是ハ浴ク御一同ノ御推薦下サイマシタ結果デゴザイマシテ感謝ニ堪ヘザル次第デゴザイマス固ヨリ不肖ノ身デゴザイマシテ誠ニ缺漏ノ多キコトデゴザイマスガ十分注意ヲ致シマシテ公正至誠議長ノ職ヲ勤メマス心得デゴザイマス尙ホ其至ラザル所ニ至リマシテハ諸君宜シク御扶助アランコトヲ希望スル次第デゴザイマス茲ニ御挨拶ヲ致シマス

第二十回(臨時)議會 (明治二十七年三月十九日)

議長松田正久君 議員諸君不肖正久ハ昨日午後四時十分ヲ以テ參内致スヘキトノ通知ニ接シマシテ議院法第三條ニ依リ衆議院議長ニ任ストノ辭令ヲ拜受致シマシタ畢竟議員諸君ノ御推薦ノ結果ニ出タルコトデゴザイマシテ我が短才微力此重任ヲ全ウシ能フヤ否ヤニ至ッテハ衷心甚ダ懼ルル所デゴザイマス唯諸君ノ御助ケニ依ッテ過チ少カラシコトヲ期スルノミデゴザイマス又私ハ一個人トシテハ政黨所屬ノ一議員デゴザイマスルガ議長ノ職務ヲ取扱フニ於テハ尙更最モ公平無私ヲ要スルコトハ承知致シテ居リマスル故ニ一毫モ偏頗心ノ無キコトニ

至ッテハ私ハ神明ニ誓ッテ茲ニ言明ヲ致スノデゴザイマス私ハ元來議院ノ慣例ナドニ就イテハ甚ダ無頓著デゴザイマシテ一向通曉致シテ居ナイノデゴザイマスルニ必ズ時アツテ慣例ニ違フコトガアルカモ知レマセヌ或ハ又自ラ信ズル處ガゴザイマシテ議院ノ神聖ヲ保チ又議院ノ威嚴ヲ持スルタメニ斯ク致シタナラバ宜カラウト云フコトガアルカモ知レマセヌ而シテツレ等ノ所ヨリシテ又從來ノ慣例ニ聊カ違フコトガナイトハ計ラレマセヌガ併シ是ハ決シテ惡意ヲ以テスルノデハナイノデアリマス故ニ諸君ノ理由アル御批難ニ至ッテハ甘ジテ之ヲ受ケマスルカラ御遠慮ナク十分ノ御忠告ヲ請ケタイノデゴザイマス御挨拶旁々茲ニ一言ヲ呈シタ次第デゴザイマス

第二十二回議會 (明治二十九年一月二十五日)

議長杉田定一君 不肖今般衆議院議長ノ御任命ヲ一昨日辱ウ致シマシタ、是レ全ク諸君御推薦ノ然ラシムルトコロト感謝ヲ致シマス次第デゴザリマス、退イテ願ミマスルニ、不肖ノ身ヲ以テ此重任ニ堪ユルヤ否ヤト云フコトニ付イテハ、甚ダ恐懼ノ至リニ堪ヘナイ次第デゴザリマス、併ナガラ誠實ニ公平ニ職務ヲ執ルノ考デゴザイマス、何卒諸君ノ御補助ニ依リマシテ、此職務ヲ全ウ致サンコトヲ希望致シマスル次第デゴザイマス、茲ニ一言以テ就任ノ御挨拶ヲ致シマス

第二十五回議會 (明治四十一年十二月二十四日)

議長長谷場純孝君 諸君一昨日當院ニ於テ議長選舉ノ結果幾ド滿場一致トモ申スヘキ最大多數ヲ以テ不肖私ニ同情ヲ寄與セラレ昨日午前十時議院法ノ第三條ニ據リ衆議院議長ニ任ズトノ大命ヲ蒙リマシタ實ニ私身上ニ取リマシテハ無上ノ光榮トスルトコロデゴザイマス全ク諸君最大多數御同情ノ結果ノ然ラシムルトコロト信ジマスカラ茲ニ慎ンデ諸君ノ御厚誼ヲ感謝致シマス元來私ハ短才淺識ニシテ此重大ナル責任ヲ竭シ了フスルヤ否ヤニ想到スレバ甚ダ恐懼ニ堪ヘナイ次第デゴザイマスサリナガラ既ニ大命ヲ拜シマシタ以上ハ最モ忠實最モ公平ニ心身ヲ職務ノタメニ捧ゲテサウシテ努力センコトヲ諸君ノ前ニ誓ヒマス勿論私ノ及バザルトコロハ懇切ナル御注意ト御遠慮ナキ御忠告ヲ垂レラレンコトヲ希望致シマス終リニ臨ミ諸君ノ此御同情ノ深カラント、且ツ長カラントヲ祈ルト同時ニ重ねテ茲ニ諸君ノ御厚誼ヲ感謝致シマス

第二十八回議會 (明治四十四年十二月二十五日)

議長大岡育造君 不肖育造ハ昨日議院法第二條ニ依リ、衆議院議長ニ任ズルノ榮ヲ拜シマシテゴザイマス、是ハ偏ニ一昨日諸君大多數ノ投票ノ結果ニ依ルコトデゴザイマシテ、深ク諸君ニ對シテ陳謝致シマス、唯今ヨリ職ニ就キマスルニ當リマシテハ、議院ノ法律規則ニ從ヒ典例ニ依リマシテ、公平無私諸君ノ議權ヲ尊重致シマシテ、我立法機關ノ穩健ナル發達ニ向ッテ裨

補アラシコトヲ期スルノガ衷心ノ願デゴザイマス、併ナガラ御承知ノ如ク微力短才且不徳ノ身デゴザイマス、諸君ノ寛大ナル雅量ニ依ッテ、且議場ニ老練ナル御方ミデゴザイマスカラ、十二分ノ御援助ヲ深ク仰ギマスル次第デアリマス、終リニ臨ミマシテ一昨日ノ議場ニ於テ、大多数ヲ以テ當選ノ榮ヲ得ルニ至リマシタ段ヲ深ク感謝致シマス

第二十九回(臨時)議會 (大正元年八月二十二日)

議長大岡育造君 不肖育造ハ微力短才且不徳ニシテ、再ビ諸君大多數ノ御推薦ニ依リマシテ、昨日議院法第三條ニ依ッテ、衆議院議長ニ任ズルノ恩命ヲ拜シマシテゴザイマス、偏ニ諸君寛大ノ雅量、深厚ナル御同情ノ結果ニ外ナラヌ次第デアリマシテ、深ク感謝ヲ表シマス、職ニ當リマシテハ法律規則ヲ守リ、典故ニ從ヒマシテ、公平無私、諸君ノ議權ヲ尊重シマシテ、我が憲政ノ穩健ナル發達ニ向ッテ、微力ヲ致シタイト考ヘマス、前任中ニ於キマシテ、往々不手際ナルコトモアリタルニ拘ラズ、茲ニ再ビ重職ヲ忝ウ致シマシタノハ、誠ニ恐懼ノ至リニ堪ヘマセヌ、我が衆議院ニ於キマシテハ、再選ノ榮ヲ荷ハレタル先賢ニハ、片岡楠本兩君アルノミデアリマス、私ガ此度再任ヲ得マシタルコトハ、謝スルニ言葉ヲ知ラザルトコロデゴザイマス、尙昨日ノ投票ハ稀ニ見ル程ノ大多數ヲ與ヘラレマシテ、重ネノ諸君ノ御厚意ニ對シマシテ、感謝スル次第デゴザイマス

第三十一回議會 (大正三年三月七日)

議長長谷場純孝君 諸君私ハ唯今議院法ノ第三條ニ依リ衆議院議長ヲ拜命致シマシタ私ハ曩ニ第二十五回ヨリ第二十七回議會ノ間此重職ヲ瀆シタノデゴザリマスガ再ビ諸君ノ御推薦ニ依リ本職ニ就キマスノハ洵ニ光榮トスル所デゴザリマス私ハ公平ニ誠實ニ其職務ニ從事致シマシテ諸君ノ御厚意ニ對スル考デゴザリマス諸君ニ於テモ一層ノ御同情ト御援助トヲ與ヘラレンコトヲ希ヒマス茲ニ一言ヲ述ヘテ御挨拶ヲ申上ゲマス

同 (大正三年三月十七日)

議長奥繁三郎君 諸君、私ハ唯今議院法第三條ニ依リマシテ衆議院議長ノ大命ヲ拜シマシテゴザリマス御承知ノ如ク徳無ク才無ク殊ニ議院ノ典例ニ暗イ私ガ此大任ヲ拜シマシタノデ洵ニ恐懼ニ堪ヘマセヌ次第デゴザリマス私ハ議院法竝ニ規則等ニ遵ヒマシテ最モ公平ニ其職責ヲ竭シタイ考デゴザリマス願クハ諸君ノ御同情ト御援助ニ依リマシテ其職責ヲ竭スコトヲ希ヒマスデゴザリマス茲ニ諸君ノ御厚意ヲ感謝致シマシテ御挨拶ヲ申上ゲマス

第二 副議長就職ノ辭

第一回議會 (明治二十三年十一月二十七日)

副議長津田眞道君 私ハ年ヲ取リマシテ甚ダ此ノ任ニ堪ヘナイカト考ヘマスケレドモ諸君ノ

御推薦ヲ蒙リ且ツ 天皇陛下ノ重キ任命ヲ蒙リマシタカラ副議長ノ任ニ就キマスデ御坐イマス極メテ賤劣ノ者デ御坐イマスカラ何分諸君ノ御協賛ヲ得ナクテハナリマセヌ故ニどうカ諸君ノ御協賛ヲ願ヒタイト思ヒマス

第三回議會 (明治二十五年五月四日)

副議長曾禰荒助君 諸君私ハ圖ラズモ副議長ノ任ヲ受クルニ至リマシタ何卒宜ク御願申シマス

第五回議會 (明治二十六年十一月二十七日)

副議長楠本正隆君 茲ニ謹デ皆サマニ御挨拶ヲ申上ゲマス今般衆議院副議長ノ 勅任ノ宣下ヲ蒙リマシテゴザイマス是レ全ク諸君ガ御推薦ノ結果デゴザイマシテ一層光榮ニ存ジマスデゴザイマス茲ニ於テハ不肖ヲ願ミズ正ヲ履ミ情ニ泥マス公平ヲ以テ諸君ノ御高意ニ應ヘ此ノ職ヲ保ツノ覺悟デゴザイマス諸君モ亦宜シク懇ニ御教授ヲ爲シ下サランコトヲ偏ニ冀上ゲ置キマス

第五回議會 (明治二十六年十二月二十九日)

副議長安部井磐根君 不肖磐根去ル二十日ヲ以チマシテ衆議院副議長 勅任ノ宣下ヲ蒙リマシタ此段御吹聴ニ及ビマス茲ニ端ヲ更メテ御挨拶ニ及ビマス當職ハ時トシテ議長ノ職務ヲ代理スベキタメ院ニ備フルモノデゴザイマシテ不肖磐根ノ如キノ當ルベカラザルコトハ自ラモ

信ジテ疑ヒマセヌ然レドモ衆望ヲ集ムル公選ノ重キ衆望ヲ容レサセラレシ 宣下ノ畏キ否ミ奉ルベキ様モゴザイマセヌ故ニ御受ヲ申上ゲマシテ扱テ退テ自ラ願ミマスルニ從來短才無識ノ上ニ老衰日ニ加ハリ氣力モ亦日ニ乏シウゴザイマスカラ此上ハ一層奮發一層勉勵而カモ勉メテ嚴格ニ事ニ從フ覺悟デハゴザイマスレドモ其間豈ニ過ナキヲ得ンヤ多々過モアラント心苦シキ次第デゴザイマス從テ特ニ切ニ諸君ニ望ム諸君ハ磐根ガ職務ヲ行フニ當リ指揮ニ論ナク號令ニ異議ナク苟モ其ノ當宜シキヲ失スルアラバ温顔假サズ之ヲ責メ之ヲ矯メテ成ルベク正ニ復シ以テ甚シキ失體ナカラヌ様ニ御注意アランコトヲ是レ磐根一己ノタメニ望ムデハゴザイマセヌ實ニ我衆議院ノ體面ノタメニ望ムノデゴザイマス各位諸君願クハ此ノ愚言ヲ容ラレンコトヲ敢テ豫メ懇請シマス

第六回議會 (明治二十七年五月十四日)

副議長片岡健吉君 諸君不肖健吉ハ諸君ノ御推薦ニ依リマシテ一昨十二日衆議院副議長ノ勅任ノ宣下ヲ蒙リマシタルハ誠ニ光榮ニ存ジマス併シ不學短才ノ身此ノ榮譽アル重職ニ堪ヘザランコトヲ恐レマス何卒諸君ハ健吉ノ至ラザル所ハ御注意下サレマシテ切ニ諸君ノ御幫助ヲ冀望致シマスデアリマス聊カ謝辭ヲ呈シマス

第七回(臨時)議會 (明治二十七年十月十六日)

附錄 一七 議長及副議長就職ノ辭並年長議員ノ祝詞

副議長島田三郎君 諸君ノ御推薦ニ依リマシテ副議長ノ任命ヲ辱ウ致シマシタ甚ダ不行届テ
ゴザイマスカラ萬事御助成ヲ願ヒマス御挨拶ヲ

第十二回議會 (明治二十一年五月十七日)

副議長元田肇君 私ハ諸君ノ御推薦ヲ辱ウ致シマシテ昨日衆議院副議長ニ 勅任ノ命ヲ賜ハ
リマシタ御好意ニ對シマシテ感謝致シマス御承知ノ通りノ私デゴザリマスルカラシテ議長片
岡君ニ副トナリマシテ自分ノ出來ル限リハ公平ニ致シマスル考デアリマス宜シク

第十三回議會 (明治二十一年十一月十日)

副議長元田肇君 諸君私モ圖ラズ諸君ノ御推薦ヲ辱ウ致シマシテ昨日衆議院副議長ニ 勅任
セラルルノ光榮ヲ荷ヒマシテゴザイマス就キマシテハ御承知ノ通りノ不肖ナ者デゴザイマス
ルガ謹デ法律規則ヲ恪守致シマシテ職責ヲ完ウセンコトヲ期シマス爰ニ謝辭ヲ述ベマス

第十七回議會 (明治二十五年十二月八日)

副議長元田肇君 私モ諸君ノ御推薦ニ依リマシテ昨日衆議院副議長ノ任命ヲ辱ウ致シマシタ
御承知ノ通り甚ダ不肖ノ者デアリマスルガ諸君ノ御贊助ニ依リマシテ自分ノ職責ヲ盡シマス
ル考デアリマスル何分共ニ宜シク願ヒマス

第十八回議會 (明治二十六年五月十一日)

副議長杉田定一君 私ハ今般諸君ノ御推薦ニ依リマシテ一昨日副議長ノ任命ヲ辱ウ致シマシ
タ誠ニ光榮ノ至リデゴザイマス誠ニ不肖ノ身ヲ以テ此重任ニ當リマスルコトハ恐懼ノ至リデ
ゴザリマスル何卒諸君ノ御補助ニ依リマシテ職責ヲ盡シタイト考ヘマスル次第デゴザイマス
ルデ何分宜ク御願ヲ致シマス茲ニ一言御挨拶ヲ致シマス

第二十回(臨時)議會 (明治三十七年三月十九日)

副議長箕浦勝人君 諸君諸君ノ御推薦ニ基キマシテ昨日衆議院副議長ノ任命ノ榮ヲ得マシタ
就キマシテハ諸君ノ御幫助ニ依ッテ職務ヲ全ウセンコトヲ希望致シテ居リマス謹デ謝辭ヲ呈
シマス

第二十五回議會 (明治四十一年十二月二十四日)

副議長肥塚龍君 諸君諸君多數ノ御贊同ニ依リマシテ昨日ハ衆議院副議長ニ任スルノ大命ヲ
受ケマシテゴザイマス微力ニシテ慣例ニ不慣レナル拙者ガ此大任ニ當リマシテ何分ニモ諸君
ノ御補翼ヲ願ヒマス一言御挨拶ヲ致シマス

第二十九回(臨時)議會 (大正元年八月二十二日)

副議長關直彦君 諸君、私ハ短才不徳ナルニモ拘ハリマセズ、昨日ハ諸君ノ御推薦ニ預リマシ
テ、午後直ニ副議長ノ恩命ヲ戴キマシタ、誠ニ不慣デゴザイマシテ、此重職ヲ完クスルヤ否ヤ

ト云フコトハ、自ラモ信ズルコトハ出來マセヌ位デゴザイマスガ、ドウカ將來ハ諸君ノ御誘掖ニ依リマシテ、議長ヲ補佐スルノ責ヲ完ウスルコトヲ得マシタナラバ、幸甚ト存ジマスル次第デアリマス、一應御禮ヲ申上ゲマス

第三 年長議員ノ祝詞

第一回議會 (明治二十三年十一月二十七日)

出席年長者増田繁幸君 最年長者遠藤君ハ事故アルニ依リ私ハ次ノ年長者デアリマスルカラ茲ニ議長副議長ノ御任命アリシニ際シ代リテ聊カ其ノ健康ヲ祝シ一言祝詞ヲ呈シマス——議長君副議長君——議長副議長ハ議院ヲ代表スル榮譽アル職デアリマスガ兩貴下ハ多數ノ推薦ニヨリ候補ノ投票ニ多數ヲ得ラレ而シテ 天皇陛下ハ我々ノ希望ヲ容レテ速ニ兩貴下ヲ勅選シ給ヒシハ我々ノ太々満足スル所デアリマス茲ニ一同ニ代テ祝詞ヲ述ベマス

第二回議會 (明治二十五年五月四日)

最年長者安東九華君 本員ハ最高年者ノ故ヲ以チマシテ諸君一同ニ代リマシテ議長副議長ノ任命ニ付キマシテ聊カ祝詞ヲ述ベマス議長副議長ノ榮職タルコトハ今更喋々ヲ要シマセヌ天皇陛下ニ於キマシテ本院ノ多數ノ推薦ニ因リマシテ兩貴下ヲ議長及副議長ニ勅任シ給ヒマシタ誠ニ我々感謝ノ至リニ堪ヘザル所デアリマス仍テ兩貴下ノ榮任ヲ賀シマシテ聊カ祝詞ヲ

呈シマス

第五回議會 (明治二十六年十一月二十七日)

最年長者安東九華君 私ハ一日諸君ニ長タルヲ以テ諸君一同ニ代ハリマシテ祝詞ヲ述ベヤウト存ジマス從三位勳二等楠本正隆君ハ本院多數ノ投票ヲ以チマシテ此ノ衆議院副議長ニ當選セラレマシタ素ヨリ副議長ノ榮職タルコトハ敢テ喋々ヲ俟チマセヌ 天皇陛下ニ於キマシテモ議院多數ノ推薦ニ依リマシテ早速ニ任命アラレマシテゴザリマス誠ニ満足ノ至リデゴザリマス依ッテ國家ノタメ楠本正隆君ノタメニ聊カ祝詞ヲ呈シマス

第五回議會 (明治二十六年十一月十五日)

出席年長者佐藤昌藏君 祝詞ヲ述ベマス本員ハ年長ノ故ヲ以テ三百議員ニ代リマシテ祝詞ヲ述ベマス楠本正隆君ハ衆ノ推ス所ニ依ッテ高點ヲ得ラレ 皇帝陛下ニ於テハ速ニ衆望ヲ御容レニナリマシテ今日ノ 勅命ゴザリマシタハ誠ニ我々ノ満足ニ堪ヘマセヌ所デ楠本君ノ爲メニ祝詞ヲ述ベマス

第六回議會 (明治二十七年五月十四日)

最年長者安東九華君 私ハ年長タル故ニ祝詞ヲ述ベヤウト思ヒマス楠本正隆君片岡健吉君ハ本院多數ノ推薦ニ依リマシテ正副議長ノ任命ヲ蒙リマシテ誠ニ本院一同満足ノ至リデゴザイ

附錄 一七 議長及副議長就職ノ辭並年長議員ノ祝詞

マス因テ楠本正隆君片岡健吉君兩君ノタメニ祝詞ヲ呈シマス

第七回(臨時)議會 (明治二十七年十月十六日)

最年長者寺田彦太郎君 私ハ年長ニ依リマシテ祝詞ヲ述ベヤウト思ヒマス楠本正隆君島田三郎君ハ本院多數ノ推薦ニ依リマシテ正副議長ノ任命ヲ蒙ラレマシタ誠ニ本院一同満足ノ至リデゴザイマス依ッテ楠本正隆君島田三郎君兩君ノタメ祝詞ヲ呈シマス

第十回議會 (明治二十九年十二月二十三日)

最年長者寺田彦太郎君 私ハ年長デゴザイマスルデ祝詞ヲ述ベヤウト思ヒマス鳩山和夫君ハ本院多數ノ推薦ニ依リマシテ衆議院議長ノ任命ヲ得ラレマシテ誠ニ本院ノ満足スル所デゴザイマスル因テ鳩山和夫君ニ祝詞ヲ呈シマス

第十二回議會 (明治三十一年五月十七日)

最年長者寺田彦太郎君 私ハ年長デゴザイマスルデ祝詞ヲ述ベヤウト思ヒマス帝國議會モ歲月ヲ重ネマシテ既ニ十二議會トナリマシタ稍々經驗ノ度ヲ重ネマシタ今ヤ國家内外多事ニゴザイマス施政ノ整理スベキモノ國家ノ經綸ノ立ツベキモノ多々益々有望ナル本議會ニ當リマシテ本院多數ノ推薦ヲ以テ議長片岡健吉君副議長元田肇兩君ノ任命アラレマシタルハ誠ニ本院ノ満足スル所デアリマス因テ祝詞ヲ呈シマス

第十三回議會 (明治三十一年十一月十日)

最年長者寺田彦太郎君 私ハ年長デゴザイマスルデ祝詞ヲ述ベヤウト思ヒマス議長片岡健吉君副議長元田肇君兩君ニ本院多數ノ推薦ヲ以テ任命アラレマシタルハ誠ニ本院議員ノ満足スル所デアリマス之ヲ祝シマス

第十七回議會 (明治三十五年十二月八日)

最年長者富永發叔君 議長片岡健吉君副議長元田肇君私ハ本院ノ年長者デアリマスル故ニ諸君ニ代リマシテ議長副議長ノ御任命ニナリマシタル祝詞ヲ一言致サント欲シマス議長副議長ハ本院ヲ代表セラレマスル最モ榮譽アル重大ノ職務デアルト申スコトハ私ノ喋々ヲ待タヌ所デゴザイマスル兩君ニハ從前議長副議長ノ椅子ヲ占メラレマシテ老練熟達ニシテ公平ニ議事ヲ整理ナサレマスルコトハ吾々ガ明カニ承知シテ居ル次第デゴザイマス而シテ此度ハ總選舉後初メテノ議會殊ニ國家經綸ノ上ニ於キマシテ重要ナル問題モ將ニ現ハレントスル時ニ方リマシテ兩君ニハ本院ノ最多數ノ推薦ニ依リマシテ昨日議長副議長ノ御任命ニナリマシタルノハ吾々ノ深ク満足致ス所デゴザイマスル茲ニ兩君ニ對シマシテ一言ノ祝詞ヲ呈シマス

第十八回議會 (明治三十六年五月十一日)

最年長者岩本晴之君 議長片岡健吉君副議長杉田定一君私ハ本院出席議員中年長者デアリマ

スルカラ先例ニ依リマシテ一同ニ代リマシテ兩君が本院最多數ノ推薦ニ依リ議長副議長ノ御任命ニナリマシタル祝詞ヲ呈シマス惟フニ本期議會ニ於キマシテハ前議會ニ現ハレタルト同様ノ國家重要ノ問題ヲ討議スルコトト信ジマス兩君ノ老練ナル手腕ハ此間ニ於ケル職責ヲ全ウセラルベキハ吾々ノ深ク信任スル所デアリマス兩君が議長副議長ノ御任命ニナリマシタルニ付キマシテハ吾々一同ノ欣喜ニ堪ヘザル所デアリマス茲ニ兩君ニ對シテ一言ノ祝詞ヲ呈シマス

第十九回議會 (明治二十六年十二月七日)

出席年長者對馬嘉三郎君 私ハ例ニ依ッテ年長者ノ廉ヲ以テ新任議長ニ一言呈シマス河野君ハ衆望ノ歸スル所大多數ヲ以テ當院議長ノ榮職ニ當選セラレ續イテ 御裁可ヲ蒙リマシタ次第デ御光榮ノ至リト存ジマス就イテハ我が國家ノタメ當院ノタメ偏セズ黨セズ嚴肅方正ノ態度ヲ執ラレマシテ當議場ノ整理ニ盡瘁セラレンコトヲ望ミマス一言ヲ呈シマシテ祝詞ニ代ヘマス

第二十回(臨時)議會 (明治二十七年三月十九日)

最年長者岩本晴之君 議長松田正久君副議長箕浦勝人君私ハ本院議員中ノ年長者タルヲ以テ茲ニ望外ノ光榮ヲ得テ今回ノ御任命ニ對シ祝詞ヲ呈シマス議院ニ於ケル正副議長ノ任務ハ固ヨリ輕カラザルコトハ申マデモナキコトナガラ今日ノ時局ハ更ニ一層其重大ナルヲ示スモノニシテ我帝國ガ未曾有ナル國際上非常ノ行動ヲ取ルノ時ニ當リ國民ノ輿論ヲ代表シ參政ノ責

任ヲ完カラシメ議會ノ經過ト其結果ヲシテ遺憾ナキコトヲ期スルハ兩君ノ聲望ト其手腕ニ俟ツヘキハ勿論ノ事デアリマス本院ハ既ニ多大ノ推薦ニヨリ兩君ニ信賴ノ實ヲ舉ゲ兩君ハ勅命ニ依リテ茲ニ此重任ヲ荷ハル、ニ至リマシタルハ誠ニ本院ノ光榮トスル所デアリマス私ハ一同ニ代リ祝詞ヲ呈シマス

第二十二回議會 (明治二十九年一月二十五日)

最年長者岩本晴之君 私ハ先例ニ從ヒマシテ年長者タルノ故ヲ以テ議員一同ヲ代表シテ議長杉田定一君ニ御挨拶ヲ申上ゲマス君ハ本院ノ衆望ニ依リ今般前議長松田正久君ノ後任トシテ補缺ニ本院議長ニ御當選ニナリマシテ去ル二十三日本院議長ニ御任命ニナリマシタル段ハ吾吾一同祝スルトコロデアリマス本期議會ハ戰後ノ經營ト豫算ト法律案ニ重要ナル問題ガ極メテ多ク且ツ世界ノ大勢ト我國ノ發展トニ伴ヒ益々立法部ノ任務ニ至ッテモ亦重キヲ加ヘマスルガ此時ニ當ラレマスル君ノ御勤勞ハ實ニ察スルニ餘リアルコト、存ジマス希クハ慎重御自愛御勉勵御盡力下サルコトヲ希望シマス

第二十五回議會 (明治四十一年十二月二十四日)

最年長者岩本晴之君 此度ハ議長長谷場純孝君副議長肥塚龍君此兩君ハ本院ノ輿望ニ依リ大多數ヲ以テ長谷場君ハ衆議院議長ニ肥塚龍君ハ衆議院副議長ニ御當選ニナリマシタ尙昨日ハ

宮中ニ於テ御任命ニツレ、ナラレマシタニ付キマシテ一應御挨拶ヲ申シ上ゲマス思フニ兩君ハ博學宏才ニシテ清廉潔白實ニ申分ナイ適任者ヲ得マシタコトデアリマス吾々一同ニ於キマシテ非常ニ大慶ニ存ジマス且ツ蓋シ上下一般ニ於キマシテモ定メシ満足ヲ致スコト、信ジテ疑ヒマセヌツレデ茲ニ議員一同ヲ代表致シマシテ——年長者ノ故ヲ以テ議員一同ヲ代表致シマシテ謹ンデ兩君ノ御當選ヲ祝シ茲ニ御健康ヲ祈リマス

第二十八回議會 (明治四十四年十二月二十五日)

出席年長者大井卜新君 私ハ年長者トシテ新任ノ議長大岡育造君ニ祝詞ヲ呈シマス今回本院最大多數ノ推薦ニ依リ長谷場前議長ノ後任トシテ議長ニ任命ニナリマシタノハ吾々一同ノ欣喜ニ堪ヘザルトコロデゴザイマス惟フニ本期議會ハ内外多事ニ際シ幾多ノ國家重要問題ヲ審議スルコト、存ジマス、立法院ノ任務益、其重キヲ加フル今日大岡君ノ達識老練ナル能ク議長ノ重職ヲ完ウシ輿望ニ副ヘラルベキハ吾々ノ深ク信ジテ疑ハザルトコロデゴザイマス茲ニ一言御挨拶ヲ申シ上ゲ議長ノ御榮任ヲ祝シマス

第二十九回(臨時)議會 (大正元年八月二十二日)

出席年長者藏内治郎作君 諸君、私ハ本日御出席ノ議員諸君ノ年長者ト致シマシテ例ニ依リマシテ、一言申上ゲマス、今回本院ノ議長副議長候補者選舉ニ於キマシテ、大岡育造君關直彦君

ハ衆望ニ依リ、最大多數ヲ以テツレ、當選ノ榮ヲ得ラレ、大岡君ハ議長ニ重任、關君ハ副議長ニ御任命ニナリマシタルハ、吾々一同ノ満足スルトコロデアリマス、國家重大ノ任務ヲ荷ヘル立法院ニ於テ、老練博識ナル御兩君ガ、此重職ニ任ゼラレタルニ付テハ、必ズヤ其任務ヲ完ウセラレ益、憲政ノ發展ニ資セラルベキコトヲ深ク信ズルノデアリマス……

第三十一回議會 (大正三年三月七日)

出席年長者長谷川敬一郎君 諸君私ハ年長者ノ故ヲ以テ再ヒ此演壇ニ登リマスルノハ如何ニモ恐縮ニ堪ヘマセヌケレトモ暫時拜借ヲ致シマス議長長谷場純孝閣下ノ御挨拶ニ對シテ一言申上ゲマスル此度閣下ハ絶對多數ノ推薦ニ依テ大岡君ノ後任トシテ議長ニ御任命ニナリマシタ吾々一同ノ欣幸トスル所デゴザイマス閣下ニハ既ニ前年來御經驗モアラセラレマスルコトデゴザイマスルカラ議長ノ職責ヲ全ウシ憲政ノ發展ニ付テ一層ノ光彩ヲ添ヘラルルコトハ一點ノ疑ヲ容レザル所デゴザイマス茲ニ私ハ御當選ヲ祝シ御挨拶トシテ一言述べマス

同 (大正二年三月十七日)

出席年長者長谷川敬一郎君 是ヨリ私ハ諸君ニ代ッテ議長ニ御挨拶ヲ申上ゲマス與繁二郎君ハ此度多數ノ推薦ニ依リマシテ議長ニ御任命ヲセラレマシタ洵ニ吾々一同ノ満足スル所デゴ

ザイマス閣下ハ多年本院ノ議員トシテ盡瘁セラレ今又議長トナラレマシタニ付キマシテハ勿
論此職責ヲ竭サル、上ニ於テ最モ公平無私ニシテ議場ニ臨マレルニハ一視同仁ナルコトハ吾
吾信ジテ疑ヲ容レヌ所デゴザイマス茲ニ一言御挨拶ヲ申上ゲテ置キマス

一八 議長辭任ノ辭並年長議員ノ挨拶

第二十二回議會 (明治二十九年一月二十二日)

松田正久君 諸君唯今議長ヨリ報告セラレタル通私ハ不肖ノ身ヲモチマシテ大命ヲ蒙リ内閣ノ
末班ヲ汚スコトトナリマシテ誠ニ非才微力恐懼ノ至リニ堪ヘマセヌガ此場合唯一身ヲ國家ニ致
シ忠誠以テ萬一ヲ報セント期スルノミデゴザリマスル從ツテ職務ノ都合上衆議院議長ノ職務ヲ
辭退致シタキ旨願出デタルノニ去十九日ヲ以テ願ノ通御裁許ヲ得タノデゴザリマスル諸君ノ之
ヲ諒セラレンコトヲ希ヒマス諸議長ノ在職中諸君ノ御助力ヲ受ケマシテ職務ノ上ニ大過失ナキ
コトヲ得マシタノハ誠ニ私ノ光榮トスルトココデゴザリマシテ諸君ニ感謝仕ルトコロデアリマ
スル殊ニ兩度ノ軍國議會ヲ重ネマシテ當時政府ガ戰時ニ必要ナル經費及諸般ノ經畫ニ對シ諸君
ト與ニ共ニ協贊ノ任務ヲ盡シマシテ其戰爭ノ國民ノ戰爭タル性質ヲ表スルノ點ニ於テ聊カモ遺
憾ナカラシムルコトヲ得マシタノハ本院ノ特筆スヘキ一大事項デゴザリマシテ此光榮ハ實ニ諸

君ニ歸スルノデゴザリマスル而シテ又私モ聊カ之ヲ頌ツコトヲ得マスルノハ大幸ト存ズルノデ
ゴザリマスル今ヨリ姑ラク身ヲ政府部内ニ置キマスルガ憲政ノ美ヲ濟シ代議政體ノ效ヲ舉グル
ニ努メント欲スルノ精神ニ至ツテハ終始一貫渝ラサルコトハ神明ニ誓フトコロデアリマスル
ガ是又諸君ノ諒セラレンコトヲ希フノデゴザリマスル今ヤ將ニ後任ノ議長ヲ選舉セラレントス
ルニ當リ私在职中諸君ノ御同情ヲ得テ厚誼ヲ忝ウシタルトコロニ對シ聊カ感謝ノ意ヲ表スルタ
メニ一言ヲ呈シタノデゴザリマスル

最年長者岩本晴之君 私ハ先例ニ從ヒマシテ年長者タルノ故ヲ以テ議員一同ヲ代表シテ謹デ前
議長松田正久君ニ御挨拶ヲ申述べマス君ハ今般内閣ノ更迭ニ際シ入りテ司法大臣ノ顯職ニ御親
任ヲ得サセラレマシタル段ハ御光榮ノコト、シテ吾々一同ノ深く祝スルトコロデアリマス
從ツテ右御入閣ノ結果トシテ本院議長ヲ辭セラレマシテ御裁可ヲ得サセラレマシタルニ付イテ
唯今御鄭重ナル御挨拶ニ與リマシタルハ吾々ノ感激ニ堪ヘザルトコロデアリマス抑、君ガ御在
職中ハ戰時ノ議會ニシテ上下一致國力傾倒之ニ當ラレシ最モ大切ナル時デアリマシタ此時ニ當
リ幸ヒ君ハ本院ニ議長トナリ非常ナル熱誠ト老練ナル手腕トヲ以テ能ク敏活ニ公平ニ美事職責
ヲ盡サレ毫モ遺憾ナカラシメラレタハ吾々一同ノ厚ク敬謝シ且國民ノ永ク紀念ニ存シ忘ルベカ
ラザルコト、存ジマス希クハ國家ノタメ益、御奮勵アラントコトヲ

松田正久君 唯今岩本君ヨリ年長者トシテ御鄭重ナル御挨拶ヲ辱ウ致シ感激ノ至リニ堪ヘマセ
又謹デ御禮ヲ申上ゲマス

第二十八回議會 (明治四十四年十二月二十二日)

長谷場純孝君 豫テ敬愛ヲ拂ヒツツアルトコロノ満場ノ諸君、本員ハ去ル八月内閣ノ交迭ニ依
リ文部大臣ノ大命ヲ拜シマシテ内閣ノ末班ニ列スルコトヲ得タノデゴザイマス固ヨリ不才魯鈍
誠ニ恐懼ニ堪ヘマセヌ唯一身ヲ國家ニ捧ゲ忠誠以テ報公ヲ圖ランコトヲ期スルノミデゴザイマ
ス随ツテ職務ノ都合ニ據リ衆議院議長ノ辭表ヲ捧呈致シマシタトコロガ御裁可ヲ得マシタノデ
ゴザイマス願ミマスレバ去ル四十一年ノ冬諸君ノ御同情ニ依リ衆議院議長ニ推薦セラレ爾來三
箇年ノ間大過無クシテ議長ノ職責ヲ盡シマシタノハ全ク諸君ノ深厚ナル御同情ト御援助ニ依リ
シコト、信ジマス是ニ對シテハ私ハ衷心ノ至誠ヲ捧ゲ謹デ感謝ノ意ヲ表シマスト同時ニ將來ニ
於キマシテモ尙一層ノ同情ヲ垂レラレンコトヲ冀ヒマス此場合ニ於キマシテ一言諸君ニ對シテ
感謝ノ意ヲ表シ併セテ御挨拶ヲ致シマス

大井卜新君 私ハ前例ニ從ヒマシテ年長タル故ヲ以テ議員一同ヲ代表シテ謹デ前議長長谷場君
ニ御挨拶ヲ申述ベヤウト思ヒマス今般内閣ノ交迭ニ際シマシテ文部大臣ノ顯職ニ御親任セラレ
タル段ハ御光榮ノコト、シテ吾々一同ノ深ク祝スルトコロデゴザイマス從ツテ御入閣ノ結果ト

シテ本議長ヲ辭セラレ御裁可ヲ得サセラレタルニ付テ唯今御鄭重ナル御挨拶ニ與リマシタノハ
吾々ノ感激ニ堪ヘザルトコロデアリマス抑君ハ在職中熱誠ト老練トヲ以テ職責ヲ盡サレマシ
タノハ吾々一同ノ深ク感謝スルトコロデゴザイマス冀クハ國家ノタメニ益、御奮勵アラシコト
ヲ希望致シマス

長谷場純孝君 唯今本院ヲ代表サレテ年長者ヨリ誠ニ痛入リマシタ御鄭重ナル御答辭ヲ拜承致
シマシタ更ニ謹デ感謝ノ意ヲ表シマス

一九 前議長、副議長ノ挨拶並年長議員ノ謝辭

第二十五回議會 (明治四十一年十二月二十四日)

前議長(杉田定一君) 諸君私ハ曩ニ短才微力ヲ以テ議長ノ重任ヲ辱ウシ本年春任期满ツルヤ尙
議院法第十五條ノ命ズルトコロニ依リ議長ノ職務ヲ繼續シ其間戰後經營財政整理等ノ時局ニ當
リ幸ニ大過ナクシテ職ヲ奉ズルヲ得タルハ是偏ニ前後代議士諸君ノ御援助ノ然ラシムルトコロ
ニシテ深ク感謝スル次第デアリマス願ルニ國家最近ノ大業ハ舉國一致ノ實ニ成リ舉國一致ハ
憲政ノ賜ニシテ將來愈々國民ノ意思堅實ニシテ立法院ノ益、健全憲政ノ益、發達センコトヲ祈リ
マス茲ニ謹デ在職中ノ御挨拶ヲ致シマス

最年長者岩本晴之君 私ハ本院全員中ノ年長者デアリマスカラ前例ニ依リマシテ前議長杉田定一君副議長箕浦勝人君兩君ニ御挨拶ヲ申上ゲマス兩君ハ戰後ノ經濟又戰後ノ國事多端ノ折柄ニ緩急其宜シキヲ取り議會ヲ圓滿ニ四箇年無事ニ終リ其間國家ノタメニ盡サレマシタコトハ一點ノ間然スルトコロナク上下大満足ニ一期間ヲ終リマシテ誠ニ吾々一同ニ於キマシテハ非常ニ大慶ニ存ジマス御前任中完ウ御勤メニナリマシタ御禮竝ニ御名譽ノ段ヲ茲ニ併セテ謝シテ置キマス

第二十九回(臨時)議會 (大正元年八月二十二日)

前副議長(肥塚龍君) 私ハ不肖淺學ヲ以テ既往四年間、無事ニ此重要ナル職務ヲ完クサセテ貫ヒマシタノハ、偏ニ諸君ノ御高庇ニ依ルト存ジマス、今日此職ヲ去ルニ臨ミマシテ、既往約四年間ノ諸君ノ御厚意ヲ深ク謝スルトコロデアリマス、尙此上相變リマセズ、御厚誼ノ程ヲ願ヒマス、一言御挨拶ヲ致シマス

出席年長者藏内治郎作君……又前副議長肥塚龍君ハ御在職中ハ能ク其職責ヲ完ウセラレ、國家ノタメ御盡力アリシニ對シ、茲ニ謝辭ヲ呈シマス、議員一同ニ代リマシテ、右御挨拶ヲ致シマス
第三十一回議會 (大正二年二月七日)

前議長(大岡育造君) 私ハ昨日揣ラズモ文部大臣ノ大命ヲ拜シマシテ閣班ニ列スルコト、ナリ

マシタ誠ニ微力重任ニ堪ヘズ恐懼ノ至リニ堪ヘマセヌ同時ニ昨日職務ノ都合ニ依リマシテ本院議長ノ職務ヲ辭退致シマシタ直チニ御許可ヲ蒙リマシテゴザイマス願ミマスレバ明治四十四年ノ十二月諸君ノ厚キ御同情ニ依リマシテ本院議長ニ御推薦ヲ蒙リマシタ尋デ大正元年八月改選後ノ議會ニ於キマシテ再ビ當選ノ榮ヲ荷ヒマシタ次第ゴザイマス恂ニ微力短才且ツ不徳ニシテ議長ノ職責ヲ盡スニ就キマシテハ一ニ諸君ノ深甚ナル御同情ニ依リ御援助ニ依ルコトゴザイマス殊ニ本期議會ニ於キマシテハ屢、議場ノ紛擾ヲ見マシテ甚ダ遺憾ニ存ジマス次第デアリマス併シ是モ亦諸君ノ御同情御援助ニ依リマシテ免ニ角議事ノ進行ヲ爲スヲ得マシタ總テ今日マデノ結果其多クハ諸君ノ賜トシテ滿腔ノ赤誠ヲ捧ゲテ感謝ヲ表シマスル次第デアリマス尙今後モ十分ノ御同情ヲ以テ御援助アランコトヲ切ニ希望致シマス茲ニ謹ンデ御挨拶ヲ申上ゲマス

出席年長者長谷川敬一郎君 私ハ年長者ト致シマシテ前議長大岡育造閣下ニ一言ノ御挨拶ヲ是ヨリ申上ゲマス此度文部大臣ニ就任セラレ御入閣ノ爲メ議長ノ職ヲ辭セラレマシタニ付テ唯今鄭重ナル御挨拶ニ接シマシテ恐縮ノ至リニ存ジマス閣下ガ御在職中就中本期議會ハ種々重大ナル問題ガ出來致シマシテ屢、御心配ヲ懸ケマシタガ其都度處置宜シキヲ得テ各派共ニ満足致シテ居リマスルノハ全ク閣下ガ公明能ク其ノ職責ヲ盡サレタルニ依ルモノデアルト信ジマスル

吾々感謝ノ至リニ堪ヘマセヌ尙今後幾多大問題ノ横ニテ居ルニモ拘ラズ此度議長ノ職ヲ辭セラレマシタノハ實ニ吾々遺憾ニ堪ヘマセヌ併シナガラ惟フニ文部大臣ノ榮職ニ就カレマシタ以上ハ一層其技倆ヲ發揮セラレマシテ國家ノ爲ニ本院ガ失ヒマシタトコロヲ補ウテ餘リアルコト、信シマスル依テ就職ヲ祝シマスルタメニ茲ニ一言ノ御挨拶ヲ申上ゲマス

二〇 政府提出議案及修正案提出文ノ形式

(甲) 某議案(法律案、豫算案及決算)

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

年月日

内閣總理大臣 某
主務大臣 某
(各大臣 連署)

(乙) 明治年勅令第何號(豫算超過又ハ豫算外支出ノ件)

右憲法第八條第二項(又ハ憲法第六十四條第二項、憲法第七十條第二項)ニ依リ承諾ヲ求ム

ル爲

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

年月日

各大臣 連署
某案

右議院法第三十條ニ據リ

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

年月日

内閣總理大臣 某
主務大臣 某

(備考)

第九回議會以來ハ「某案右ノ内又ハ右議院法第三十條ニ依リ別紙ノ通修正ス」某案中別紙ノ通議院法第三十條ニ依リ(又ハ別紙ノ通)ヲ此ニ入ル修正ストノ添文ヲ爲セリ而シテ議長ノ宛名ヲ記載シタルハ第十四及第十二回議會ノミトス

二二 議員提出議案及修正案提出文ノ形式

某案(法律案、上奏案、建議案及決議案)

右成規ニ據リ提出候也

年月日

提出者 某
贊成者 某

二三 政府提出議案緊急議決ノ要求、修正、撤回及正誤ノ様式

(一) 議院法ノ規定ニ依レル要求

某案

右法律案ハ緊急ノ事件ニ付議院法第二十七條但書及第二十八條但書(又ハ單ニ第二十七條但書若ハ第二十八條但書)ニ依リ議定相成度此段及要求候也

年月日

(備考)

第四回議會ニ於テ兩條但書ニ依リ要求セルトキ其ノ「但書ニ依リ」ノ下ニ「議會ノ順序ヲ省略

シ且委員ノ審査ヲ經ス」ト記載シタリ

又第二十三回議會ニ於テ第二十八條但書ニ依リ要求セルトキ「右」ノ下「法律案ハ緊急ノ事件ニ付」ヲ省ケリ

(二) 單ニ緊急事件トシテノ要求

某案ハ緊急事件トシテ議決相成度此段及要求候也

年月日

(三) 修正

某案

右議院法第三十條ニ依リ別紙ノ通修正ス

年月日

(四) 撤回

某案

右議院法第三十條ニ依リ撤回ス

年月日

(五) 正誤

附錄 二二 議員提出議案及修正案提出文ノ形式
二二 政府提出議案緊急議決ノ要求、修正、撤回及正誤ノ様式

某案印刷物中

何ハ何ノ課

右ノ通誤謬有之候間爲念及御通知候也

年 月 日

二三 議案ノ送付、回付、通知等ノ様式

(一) 送付

(イ) 政府提出議案

某案

右政府提出案(豫算案ハ政府ノ表示ヲ省ク)本院ニ於テ可決(修正議決)セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

(ロ) 事後承諾案

豫備金支出ノ件(又ハ勅令第何號)

右本院ニ於テ承諾スヘキモノト議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

(ハ) 兩院協議會成案

本院ハ某案ノ成案ヲ可決セリ因テ議院法第五十六條ニ依リ及送付候也

(ニ) 本院提出案

某案

右本院提出案及送付候也

(二) 回付

貴族院送付政府提出議案及貴族院提出議案

某案

右貴院ノ送付ニ係ル政府提出案(貴院提出案)本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十五條ニ依リ及回付候也

(三) 兩院協議會請求

某案

右案ニ付本院ハ貴院ノ修正ニ同意セサルコトニ決議セリ因テ議院法第五十五條ニ依リ兩院協

議會ヲ開クコトヲ請求候也

(四) 通知

(イ) 政府提出議案

一、前議ノ場合

某案

右政府提出案本院ニ於テ否決セリ因テ及通知候也

二、後議ノ場合

某案

右貴院ノ送付ニ係ル政府提出案本院ハ貴院ノ議決ニ同意シ(本院ニ於テ否決シ)奏上セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及通知候也

(ロ) 事後承諾案

一、前議ノ場合

豫備金支出ノ件(又ハ勅令第何號)

右本院ニ於テ承諾スヘカラサルモノト議決セリ因テ及通知候也

二、後議ノ場合

豫備金支出ノ件(又ハ勅令第何號)

右本院ハ承諾スヘキモノト議決シ(本院ニ於テ承諾スヘカラサルモノト議決シ)奏上セリ因テ及通知候也

(ハ) 貴族院回付政府又ハ本院提出議案

某案

右貴院ノ回付ニ係ル政府(本院)提出案本院ハ貴院ノ修正ニ同意シ奏上セリ因テ議院法第五十五條ニ依リ及通知候也

(ニ) 兩院協議會成案

本院ハ某案兩院協議會ノ成案ヲ否決セリ因テ及通知候也

(ホ) 貴族院提出議案

右貴院提出案本院ニ於テ可決シ奏上セリ(本院ニ於テ否決セリ依テ議院法第五十四條ニ依リ)

附錄 二三 議案ノ送付、回付、通知等ノ様式

因テ及通知候也

(ハ) 議案ノ撤回

某案

右政府提出案政府ニ於テ撤回セリ因テ及通知候也

二四 議案奏上ノ様式

(一) 豫算案法律案

(甲) 可決奏上ノ場合

衆議院ハ兩院ノ議ヲ經タル某案ノ裁可ヲ奉請ス

(乙) 否決奏上ノ場合

衆議院ハ某案ニ付テ更ニ廟議ヲ盡サレムコトヲ奉請ス

(二) 事後承諾案

(甲) 承諾スヘキモノト決シタル場合

衆議院ハ何年勅令第何號ニ付兩院ノ承諾ヲ經タルコトヲ奏上ス

(乙) 承諾スヘカラサルモノト決シタル場合

(イ) 豫備金支出ノ件

衆議院ハ何年度豫備金支出ノ件ハ承諾スヘカラサルモノト議決シ謹テ之ヲ奏上ス

(ロ) 緊急勅令

衆議院ハ何年勅令第何號ノ效力ヲ將來ニ失ハシメラレムコトヲ奉請ス

(丙) 一部承諾スヘカラサルモノト決シタル場合

衆議院ハ何年度豫備金支出ノ内何省所管何費ハ承諾スヘカラサルモノト議決シ謹テ奏上ス

二五 資格審査ノ報告書

第一 審査ヲ爲シタル場合

(一) 西山志澄君資格審査ノ件(第四回議會)

被告議員西山志澄ハ高知市外三箇所ニ於ケル地所四筆ノ外地租金拾參圓五錢六厘ヲ納ムヘキ高知市所在ノ地所ヲ植木家離退ノ際身附所有トシテ持歸リタリト云フト雖其自己ノ名義ニ書換ヘ登記ヲ經タルハ明治二十六年二月九日ニ在ルヲ以テ右地所ノ地租ハ其當日迄ハ被告ノ納

稅資格ニ算入スヘキモノニ非ス又被告ハ明治二十五年八月三十日地租金九圓五拾壹錢五厘ヲ納ムヘキ高知市所在ノ地所ヲ購買シタリト云フト雖被告ハ前ニ即チ同月二十七日長岡郡高須介良兩村所在ノ地所二筆ヲ他人ヘ賣却セルヲ以テ同日ヨリ同月二十九日ニ至ル間ハ納稅資格ニ必要ナル期限ヲ中斷シタルモノノ如シ然リト雖右地所二筆ノ賣買ハ高知地方裁判所ノ判決ニ依リ全然解除セラレ且ツ其登記ハ取消サレタルヲ以テ全ク原狀ニ復シ期限ヲ中斷スルニ至ラサリシ故ニ被告西山志澄ハ滿一年以上土地租拾五圓以上ヲ納ムヘキ土地ヲ所有シ之ヲ納メ仍引續キ所有シ及ヒ納ムル者ニシテ議員タル資格ニ缺クル所ナキモノトス

(二) 高野孟矩君資格審査ノ件(第十八回議會)

第一 臺灣法院判官ハ衆議院議員選舉法第十五條ノ制限内ニ入ラス

第二 高野君ハ當初抗議ヲ爲シ本院並貴族院ニ於テ之ヲ相當ト爲シタルニ拘ラス同君ハ其ノ後ニ至リ自ラ辭表ヲ呈出シ辭任ノ意思ヲ表示シタルノミナラス事實ニ於テモ司法官ト兩立セサル辯護士ノ職ニ從事シタルヲ以テ今日最早臺灣法院判官ノ職ニ在ラサルモノト認ム

(三) 佐竹作太郎君、根津嘉一郎君資格審査ノ件(第二十一回議會)

本件ニ於テハ衆議院議員選舉法第十三條第二項ノ政府ノ爲請負ヲ爲ス法人トアルハ民法第六百三十二條ニ規定セル請負ト同意義ナルヤ將タ民法規定以外ノ意義ヲ有スルモノナリヤヲ審

究スルヲ緊要ナリトス

一 凡ソ公法中特ニ公法ノ語トシテ特有ノ意義ヲ示サスシテ私法中ノ語ヲ引用シタルトキハ其ノ意義ハ私法中ニ用井タルモノト同一ナリト認ムルヲ當然ナリトス

一 請負ナル法語ハ法律上一定ノ意義ヲ有シ即チ民法第六百三十二條中ニ掲ケタル定義ノ通ニシテ他ニ公法中別段ノ定義ヲ有セシメタル例ナシ

一 衆議院議員選舉法ヲ通覽スルニ民法刑法商法及破産法ノ法語ヲ用井タル場合少カラス殊ニ第二章選舉人被選舉人ノ資格ニ關スル規定ニ於テ然リトス然ルニ此ノ數多ノ法語ハ孰レモ其ノ關係私法ノ定義ナルニ特リ請負ナル法語ノミ民法商法ノ定義ト異ナル意義ヲ有スルモノト解釋スルハ失當ナリ

一 商法第二百六十四條ニ商行爲ヲ列舉シタル第二ニ電氣又ハ瓦斯ノ供給ニ關スル行爲トアリ其ノ第五ニ作業又ハ勞務ノ請負トアリテ電氣ノ供給ハ請負ナル法律行爲ト明カニ區別セラル右ノ諸點ヲ綜合スルニ衆議院議員選舉法第十三條第二項ノ請負ナル法語ハ民法及商法ニ規定スル所ト同一意義ヲ有スルモノト斷定セサルヲ得ス

本件東京電燈株式會社ノ營業ハ電流ヲ供給スルモノニシテ民法ノ所謂或仕事ノ完成ヲ約シ其ノ仕事ノ結果ニ對シ報酬ヲ受クルモノニ非ス況ヤ該株式會社ハ其ノ電流ヲ公衆一般ニ供給ス

ルヲ以テ目的トスルモノニシテ偶々政府ノ需要ニ應スルニ過キサレハ衆議院議員選舉法第十
三條第二項ノ政府ノ爲請負ヲ爲ス者ニ非サルオヤ

依テ東京電燈株式會社ノ重役タル被告議員佐竹作太郎同根津嘉一郎ハ政府ノ爲請負ヲ爲ス會
社ノ重役ニ非サルヲ以テ衆議院議員ノ資格ニ於テ缺クル所ナキモノト斷定スル所以ナリ

(四) 田坂初太郎君資格審査ノ件(第二十五回議會)

議員田坂初太郎君ハ明治四十一年十二月十九日廣島地方裁判所尾道支部ニ於テ私書變造行使
詐欺取財被告事件ニ付重禁錮一年ノ刑ノ宣告ヲ受ケ其ノ裁判確定セサルモノナレトモ衆議院
議員選舉法第十一條第四號ニ該當シ被選舉權ヲ有セサルモノトス

右ノ事實及理由ニ依リ議院法第七十七條ニ則リ退職者トスルヲ相當ス

(五) 高野孟矩君資格審査ノ件(同上)

議員高野孟矩君ハ明治四十一年十二月二十六日東京地方裁判所第一刑事部ニ於テ詐欺取財被
告事件ニ付重禁錮一年六月ノ刑ノ宣告ヲ受ケ其ノ裁判確定セサルモノナレトモ衆議院議員選
舉法第十一條第四號ニ該當シ被選舉權ヲ有セサルモノトス

右ノ事實及理由ニ依リ議院法第七十七條ニ則リ退職者トスルヲ相當トス

(六) 上出長次郎君資格審査ノ件(同上)

上出長次郎君ハ明治四十一年七月三十日衆議院議員選舉法第八十七條第一號ニ該當スルモノ
トシテ金澤地方裁判所ニ於テ輕禁錮四月ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルモ同氏ハ之ニ服セス名古屋控
訴院ニ控訴シ其ノ裁判ハ未タ確定セサルモノナリ

衆議院議員選舉法第十一條第四號ニ所謂禁錮ノ刑ナルモノハ同法第一百一條其ノ他ノ條文ニ鑑
ミ選舉法以外ノ法令ニ定メタル禁錮ノ刑ヲ指定スルモノト解スルヲ相當トス故ニ上出長次郎
君ハ退職者トスヘキモノニ非ス

(七) 中村舜次郎君資格審査ノ件(第二十六回議會)

中村舜次郎君ハ明治四十二年十一月二十二日衆議院議員選舉法第八十七條第一號ニ該當スル
モノトシテ横濱地方裁判所ニ於テ輕禁錮一月ノ刑ノ宣告ヲ受ケタルモ同氏ハ之ニ服セス東京
控訴院ニ控訴シ其ノ裁判ハ未タ確定セサルモノナリ

衆議院議員選舉法第十一條第四號ニ所謂禁錮ノ刑ナルモノハ衆議院議員選舉法以外ノ法令ニ
定メタル禁錮ノ刑ヲ指定スルモノト解スルヲ相當トス故ニ中村舜次郎君ハ退職者トスヘキモ
ノニ非ス

第二 審査ヲ爲ササリシ場合

(一) 二田是儀君資格審査ノ件(第一回議會)

第一 議員ノ資格ハ議員ノ「クオリフィケーション」即チ議員ノ具フヘキ必要ノ條件ヲ稱スルモノニシテ議員選舉ノ手續ヲ包含スルモノニアラサルコトハ政府ニ於テ憲法成文ト同時ニ公ニセラレタル英譯憲法中本條ノ資格ナル文字ニ「クオリフィケーション」ナル英語ヲ用ヒタルヲ以テ知ルヘシ

第二 選舉ノ手續ハ司法ニ屬シテ裁判セシメ議院ハ單ニ議員ノ資格即チ議員ノ具フヘキ必要ノ條件ヲ審査スルニ止マルコトハ彼ノ選舉ノ手續ニ關シテハ選舉法第二十六條第二十七條第五十二條第七十八條等ノ設ケアリテ或ハ始審裁判所或ハ控訴院ニ投票ノ手續又ハ效力ヲ判決セシメ判然立法司法ノ區別ヲ立テタルヨリ推測シ得ヘシ

第三 投票ノ有效無效ヲ審査セントスレハ勢ヒ其ノ事實ヲ求ムルカ爲メニ人民ヲ召喚シ又ハ議員ヲ派出シテ先ツ其ノ事實ノ眞偽ヲ審査セサルヘカラス然ルニ議院法第七十二條ニ「各議院ハ審査ノ爲ニ人民ヲ召喚シ及議員ヲ派出スルコトヲ得ス」トアリテ議院ハ其ノ手續ヲ盡ス能ハス是レ衆議院ハ其ノ議員タル資格ノ有無ヲ法律ニ據リ審査スルノ職權アルモ事實ニ據リ投票ノ有效無效ヲ審査判定スルノ權限ナキ確證ナリ

第四 貴族院令第九條ニ「貴族院ハ其ノ議員ノ資格及選舉ニ關ル爭訟ヲ判決ス」トアリテ議員ノ資格ト選舉トハ判然タル區別アリ而シテ議院法第七十八條ニハ單ニ衆議院ニ於テ議員ノ

資格ニ付云々トアリ然ラハ衆議院ハ選舉ノ事ヲ判定スヘキ權限ナキコト明カナリ

第五 衆議院ニ其ノ議員ノ選舉手續ニ關スル判定權アリトセハ貴族院議員資格及選舉爭訟判決規則ノ如キ規定ナカルヘカラス然ルニ其ノ規定ナキハ其ノ權限ナキ一證ナリ

第六 選舉法第七十八條ニ當選訴訟ノ期限ヲ制限シテ當選人ノ姓名告示ノ日ヨリ三十日以内トセリ若シ選舉ノ有效無效ノコトヲ資格審査トシテ衆議院カ判定スルノ權限アリトスレハ何時ニテモ議員ヨリ異議ノ申立アルニ於テハ當選ノ有效無效ヲ判定シ得ヘキモノトナリ三十日ノ制限ハ實際冗文トナルヘシ立法者ノ立法ノ精神豈ニ如斯冗文ヲ設クルモノト解釋スルヲ得ンヤ若シ此ノ七十八條ヲ有效ナラシムル様解釋スレハ衆議院ニ於テ資格審査ヲ名トシ投票ノ有效無效ヲ判定スヘキ權限ナキモノトセサルヘカラス

第七 憲法議院法選舉法等ノ大體ヨリ解釋スレハ選舉ノ手續ヲ履行スルハ行政部内ニ屬シ選舉手續ノ有效無效ヲ判定スルハ司法部内ニ屬シ正當ノ手續ヲ履ミ議員トナリタル後其ノ人ノ議員タル資格即チ身分ヲ具備スルヤ否及其ノ資格ヲ失ハサルヤ否ヲ審査スルノ權ハ議會其レ自身ニ屬シ三種各區分ヲ爲ササルヘカラス而シテ選舉ノ手續即チ投票ノ有效無效ヲ判決スルハ其ノ性質司法ノ權内ニ屬スヘキモノナリ

第八 選舉ノ手續ニ付議院ト裁判所ト抵觸シタル場合ニ如何ナル手續ヲ履ムヘキヤノ規定ナ

シ今若シ同一ナル選舉ノ手續ニ付裁判所モ衆議院モ判定ノ權限アリトセハ雙方ノ意見抵觸スル場合ニ如何トモスル能ハス蓋シ如斯不都合ナル規定ヲ立法官ニ於テ設ケタルモノト解釋スヘカラス果シテ然ラハ選舉ノ手續及投票ノ效力等ニ付裁判所カ判定ノ權限アリトスレハ衆議院ハ其ノ判定ノ權限ナキヲ推測シ得ヘシ

第九 投票ノ有效無效ハ單ニ被選人タル議員ノ權利ノミニ關係スルモノト看做スヘカラス之ヲ投票シタル選舉人ノ選舉權ノ消長ニ影響スルコト大ナリ若シ衆議院ニ投票ノ有效無效ヲ判定スヘキ權限アリトスレハ衆議院ハ議院ノ外ニ於テ選舉人ノ權利ニ就キ裁判權ヲ有シ其ノ權利ヲ消長シ得ヘキモノトナルヘシ衆議院カ院外人ノ權利ヲ裁判スルカ如キハ決シテ爲シ能ハサルナリ

(二) 赤松新右衛門君資格審査ノ件(同上)

一本案ハ明治二十三年七月一日茨城縣第四區衆議院議員選舉會ニ於テ選舉長ハ森隆介君ノ得點六百二十一點ヲ以テ最高點ヲ得タルモノト宣告シ同年七月六日同縣知事ハ其當選確定ノ告示ヲ發シ尙ホ同月十一日當選證ヲ森隆介君ニ付與シタリシカ是レヨリ先キ選舉長カ明治二十三年七月三日赤松新右衛門君ノ得點ニ係ル投票廿七點ヲ無效ト決定シ及ヒ投票一點ヲ他人ノ得點ニ計入シ合計廿八點ヲ減シタルニ付新井球三郎外一名ハ其處分ニ付異議ヲナシ同月九日選舉長ヲ對手トシテ投票效力決定ノ件ヲ水戸始審裁判所下妻下廳ヘ起訴シ水戸始

審裁判所下妻下廳ハ同月廿二日右廿八票ヲ以テ何レモ赤松新右衛門君ノ得點ト判定シタルヲ以テ赤松新右衛門君ノ得點ノ合計六百三十七點トナリ森隆介君ノ得點ニ勝サル十六點トナルノ結果ヲ生シタリ

一選舉長河田景雄君ハ明治廿三年七月廿四日前項ノ結果及ヒ赤松新右衛門君ノ當選人タルコトヲ茨城縣知事安田定則君ニ届ケ出テ明治廿三年八月一日茨城縣知事安田定則君ハ一方ニ於テ森隆介君ノ當選ヲ取消シ一方ニ於テハ赤松新右衛門君ノ當選ヲ告示シ同人ヘ當選狀ヲ付與シタリ

一森隆介君ハ前項ニ掲ケタル茨城縣知事ノ取消シ處分ヲ不法トシ明治二十三年八月日未詳東京控訴院ヘ不法告示取消ノ訴訟ヲ提起セリ然ルニ東京控訴院ハ茨城縣知事カ森隆介君當選告示ヲ取消シタルハ不法ニアラスト判決セリ

一本案ニ於テ論争スル處ハ異議申立書及答辯書ニ審カナル如ク左ノ數項ニ外ナラス

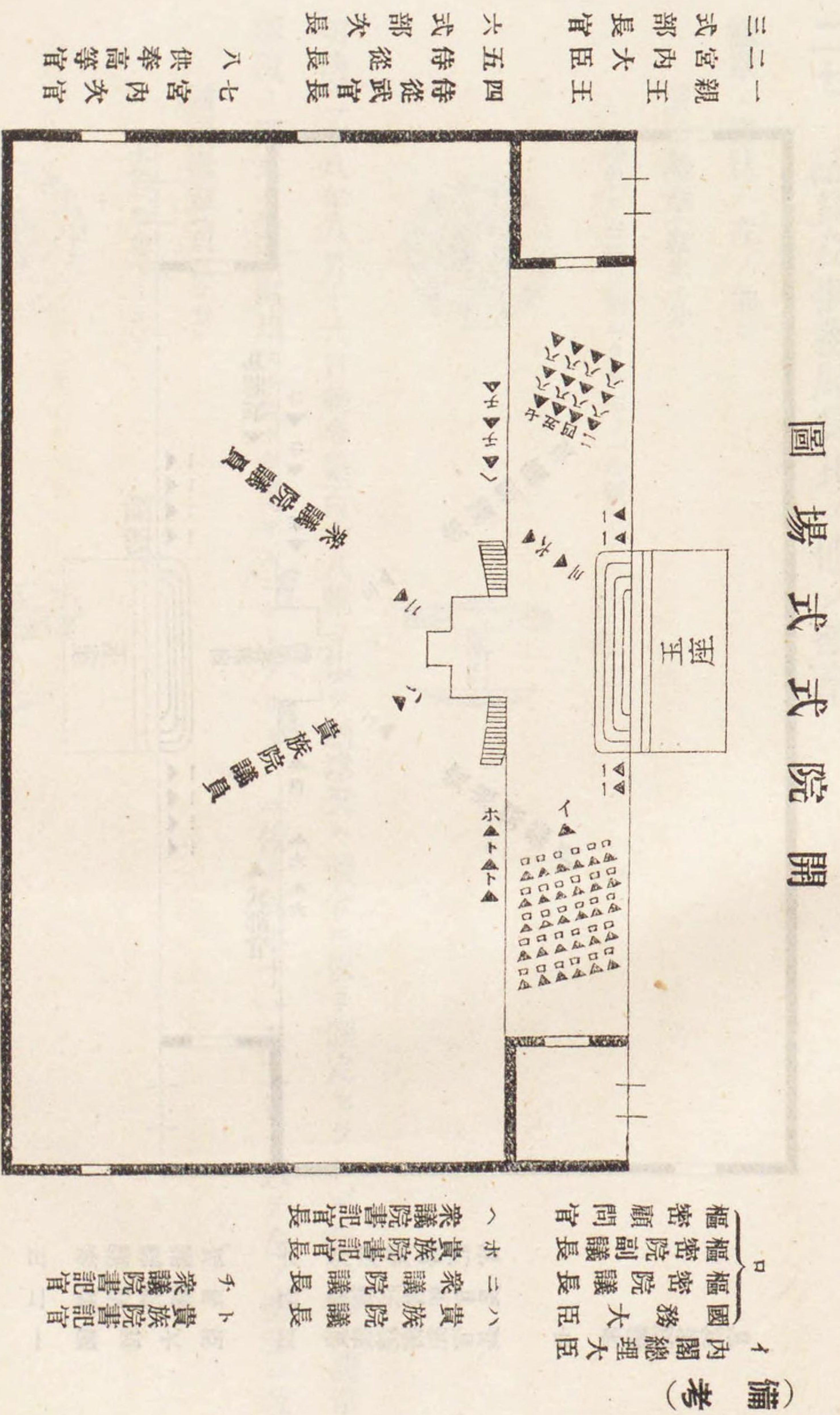
第一 行政官カ一旦當選確定ノ告示ヲナシ當選狀ヲ付與シタル後チ他ニ高點者アリトシテ其處分ヲ取消スノ權限アリヤ否ヤ

第二 東京控訴院ニ於テ内閣ノ裁可ヲ經スシテ茨城縣知事ノ當選取消處分ヲ不當ニアラスト裁判セシハ正當ナリヤ否ヤ

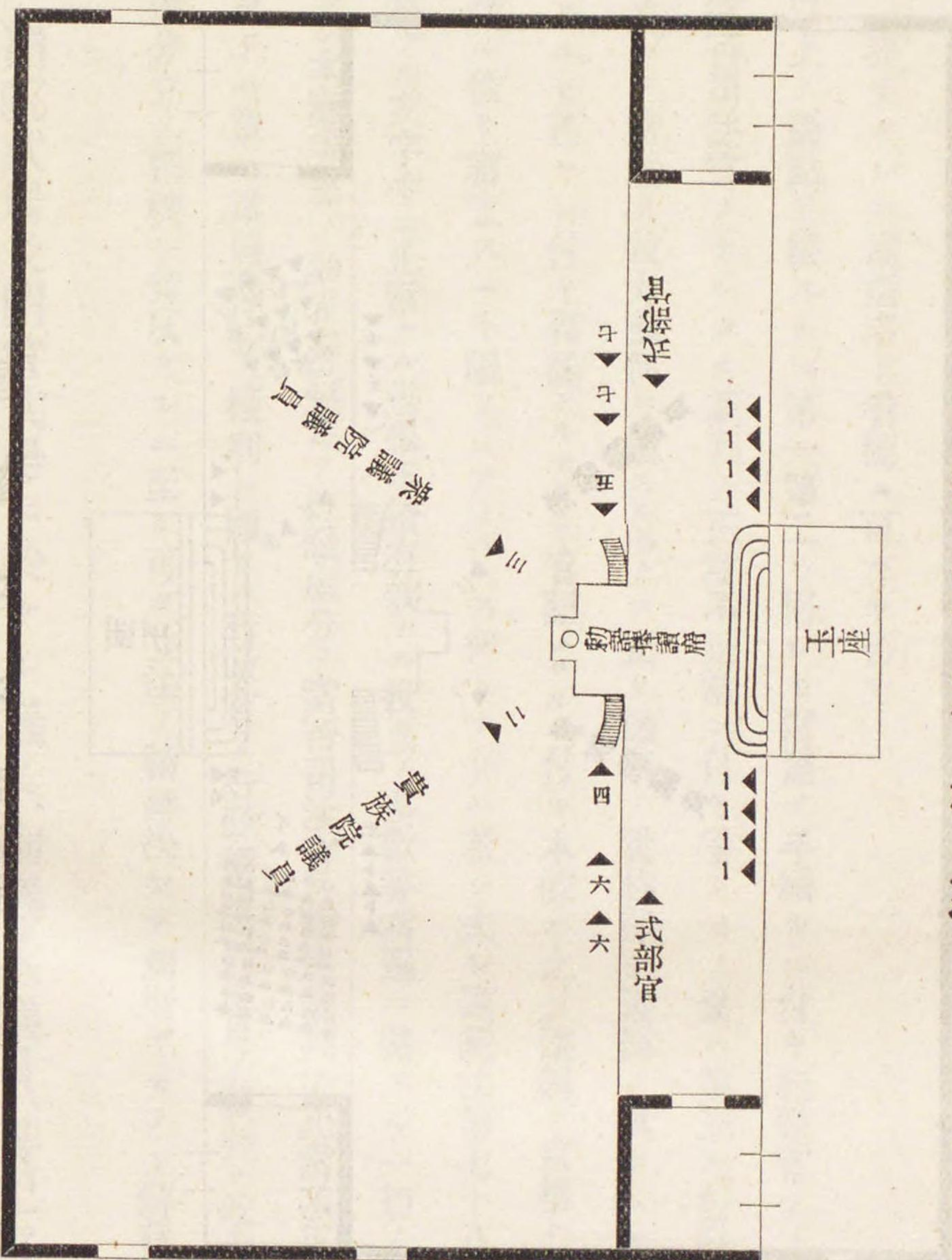
第三 茨城縣知事ノ當選取消處分及東京控訴院ノ裁判ニ依リ其取消處分ヲ正當ナリト看認
メラレタルニ係ラス森隆介君ニ於テ當選狀ヲ有スル以上ハ當選訴訟ヲ以テ取消サ、ルニ
非ラサレハ當選者ト看認ム可キヤ否ヤ

以上ノ論點ヲ按スルニ第一第二ハ何レモ當選ノ手續キニ付キ行政官ノナシタル行政處分ノ
當否司法官ノナシタル裁判ノ正當不正當ニ付キ爭フモノ又ハ第三ハ行政司法ノ處分ヨリ及
ホシテ當選ノ效力如何ヲ論スルモノニ止リ議員ノ資格即チ議員ノ具フヘキ必要ノ條件ヲ具備
スルヤ否ヤニ付キ異議アルモノト看認メサルニ付キ本院ハ之ヲ議員ノ資格トシテ議院法第七十八
條ニ依リ審査スヘキ限リニアラストス何トナレハ若シ夫レ議院法第七十八條ニ所謂議員ノ資
格ナル文字中ニ正當ナル選舉手續有效ナル投票ノ多數等當選ニ關スル一切ノ事柄ヲ包含スルモノ
トシ本案爭點ノ如キ行政官ノ行政處分ノ當否司法官ノ確定裁判ノ正當不正當迄ヲ審査スルニ
至テハ單ニ議員而已ノ權利ニ關セス行政官ノ行政權限司法官ノ裁判ノ效力ヲ左右スルニ至リ二
權分立ノ精神ニ背反スルニ至ル可ク立法ノ精神決シテ如斯キモノト解釋スルヲ得サレハナリ

二六 開院式場及閉會式場ニ於ケル議長、副議長、議員、書記官長及書記官ノ 席次



閉會式會場圖

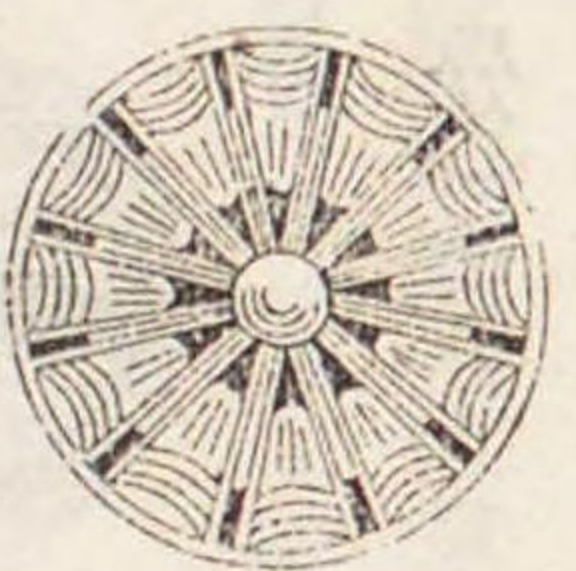


- 一 國務大臣
- 二 貴族院議長
- 三 衆議院議長
- 四 貴族院書記官長
- 五 衆議院書記官長
- 六 貴族院書記官
- 七 衆議院書記官

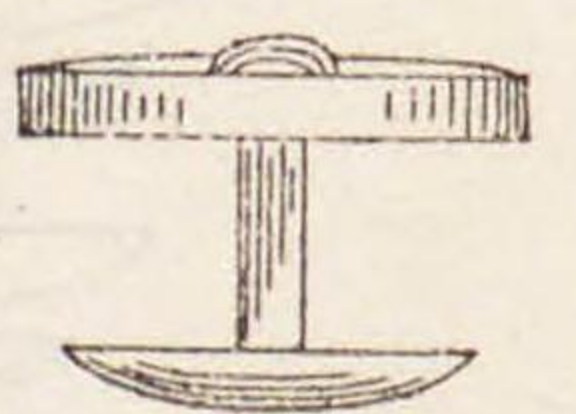
二七 議員及事務局員其ノ他ノ徽章

徽章ノ形狀ハ左ノ如シ

議員徽章(廢止ノ分)



綠色ニ白線ヲ施シタルモノ(心銀)

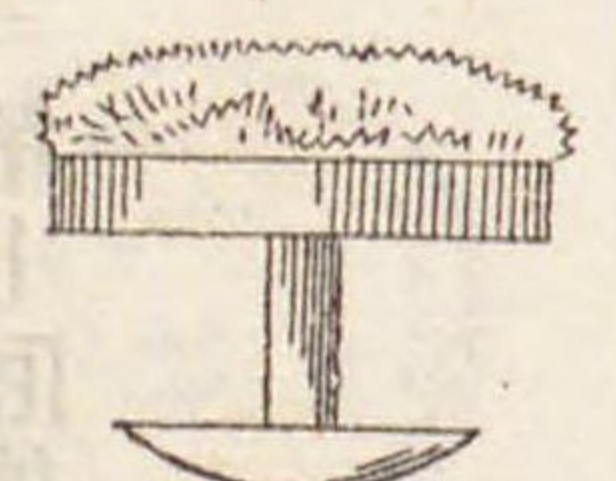
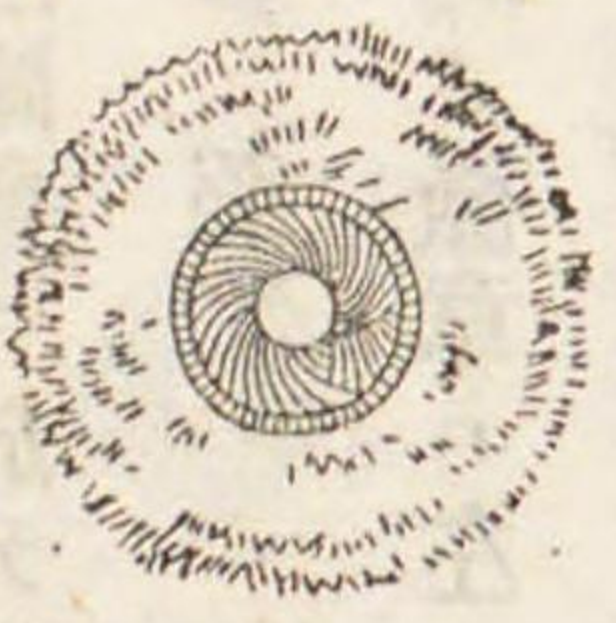


明治二十八年八月十六日勅令第百十八號ヲ以テ勳章又ハ勅令ニ依リ制定セラレタル各種ノ記章ニ類似ノ標章ハ公然佩用スルコトヲ得サルコトナリタルニ依リ同年十一月二日ヲ以テ左ノ徽章ニ改ム

議員徽章(現在ノ分)

水色(心金モール)

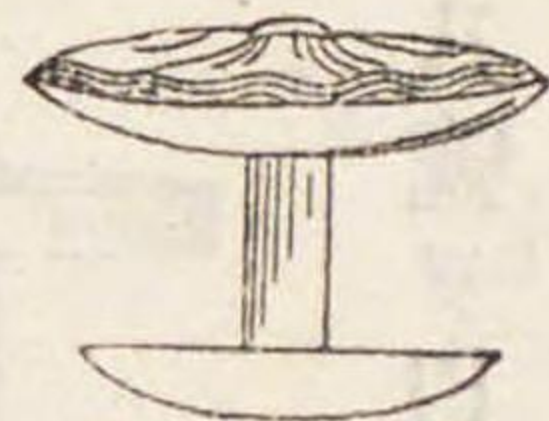
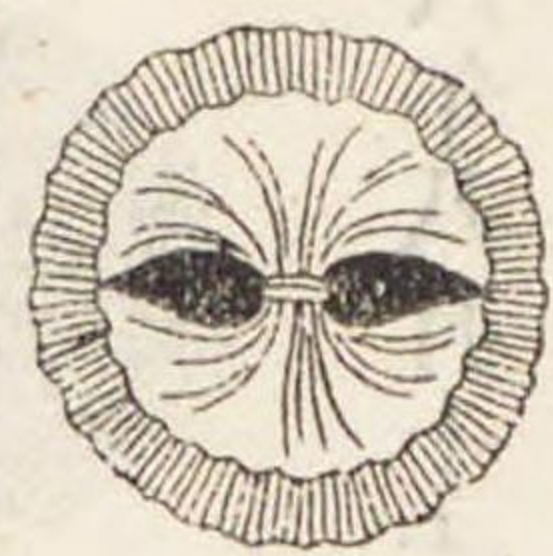
側面



第十七回議會ニ於テ議員徽章ノ裏面ニ第七回總選舉選出議員ナル文字ヲ刻セリ
(參照)
事務局員ノ徽章ハ左ノ如シ
(廢止ノ分)

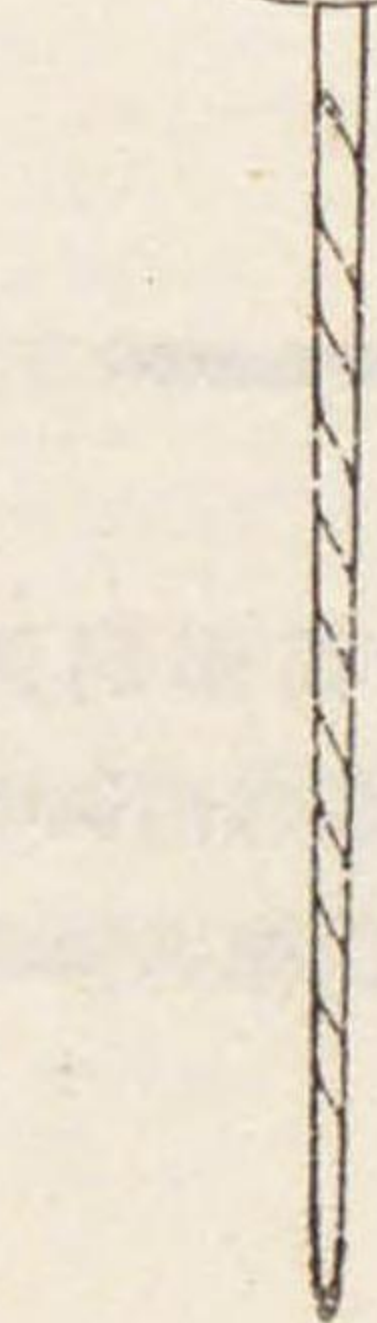
高等官徽章

白色ニ綠色ノ線ヲ施シタルモノ(中央赤絲ヲ以テ約ス)



判任官以下徽章

銀色(ニッケル)



(現在ノ分)

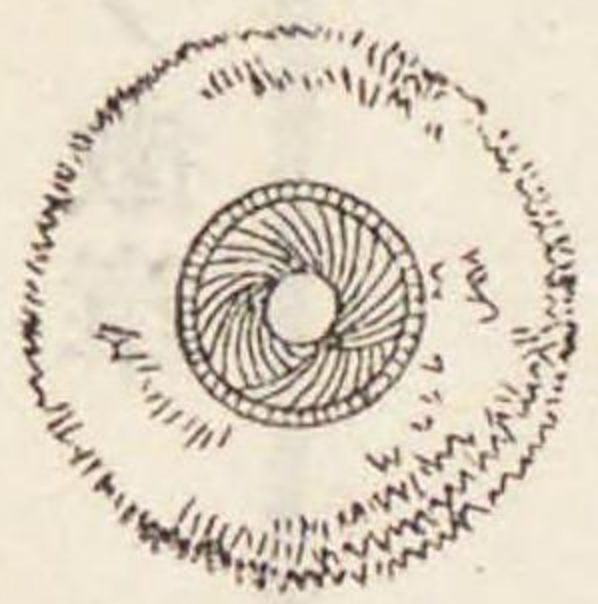
高等官徽章

綠色(心金モール)

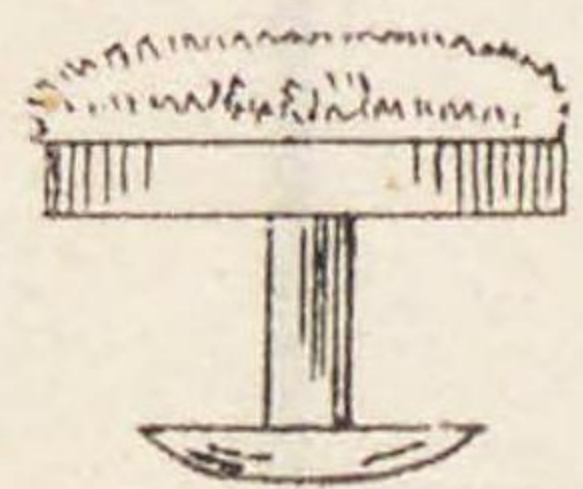


判任官徽章

濃綠色(心銀モール)



側面

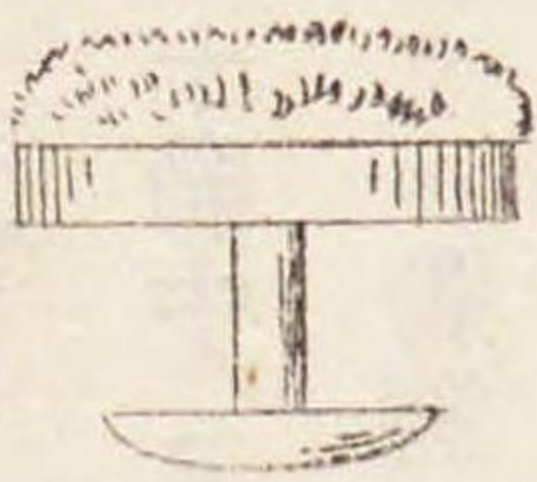


雇員徽章

桃色(心銀色)



側面

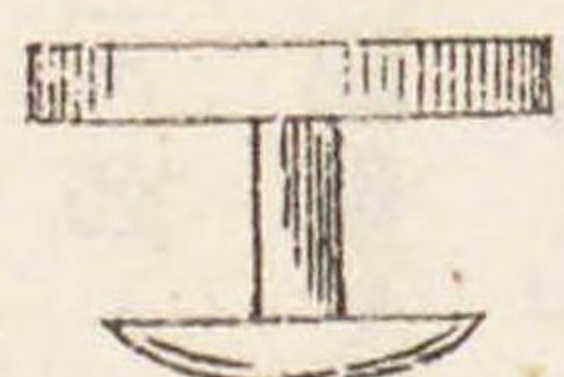


臨時雇員徽章(第十七回議會新設)

銀色(ニッケル)



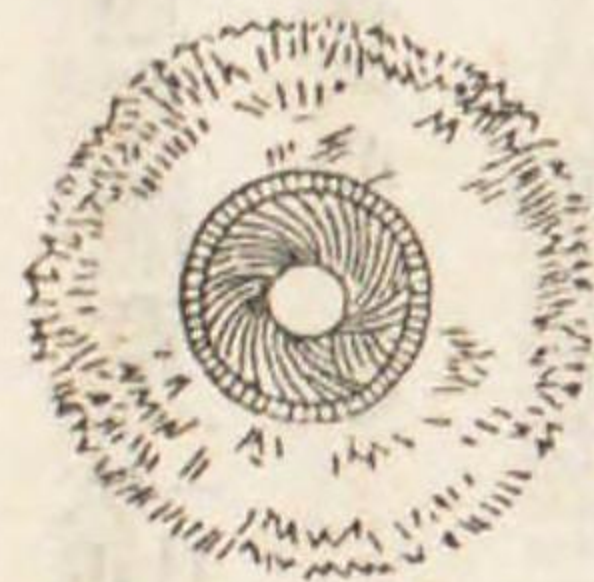
側面



政府委員、政府委員附各省判任官、新聞記者、通信社員、各團體書記ノ徽章ハ左ノ如シ

政府委員徽章(第十九回議會新設)

赤色(心金モール)

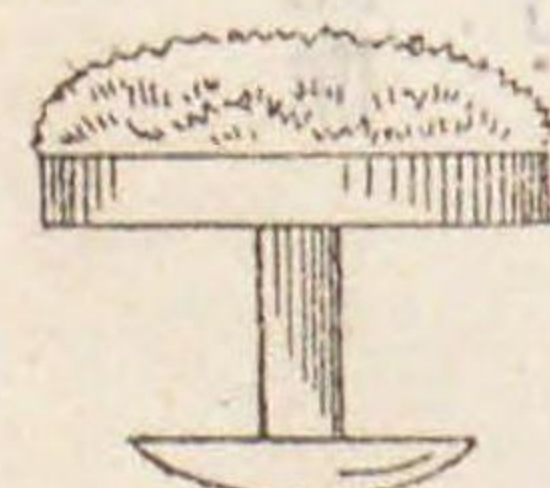


入場徽章(同上)

赤色(心ナシ)



側面

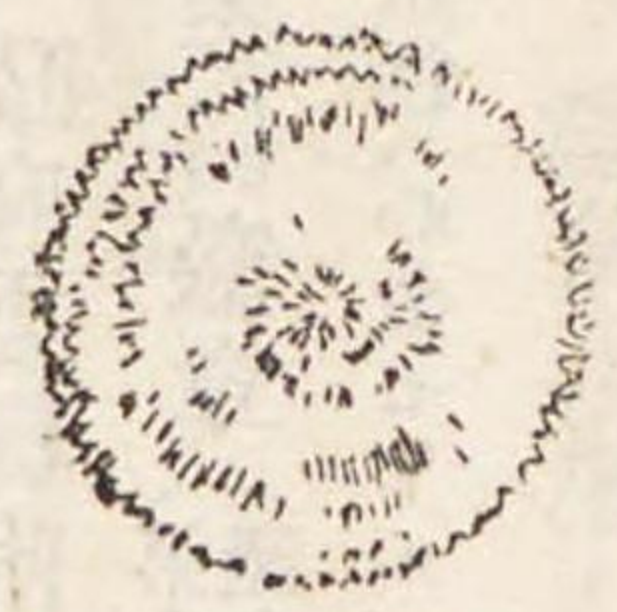


字ヲ刻ス

附錄 二七 議員及事務局員其ノ他ノ徽章

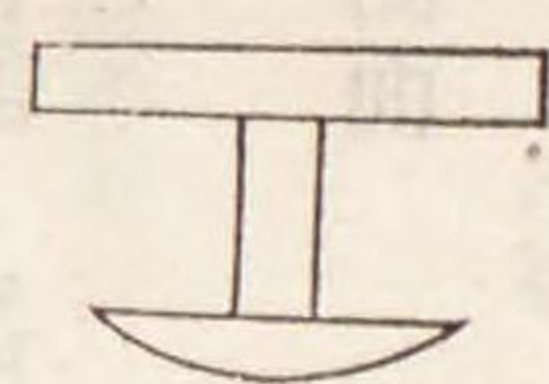
甲種通章徽章(大正三年一月改定)

綠色(心ナシ)



新聞記者通信社員徽章(第二十五回議會改定)

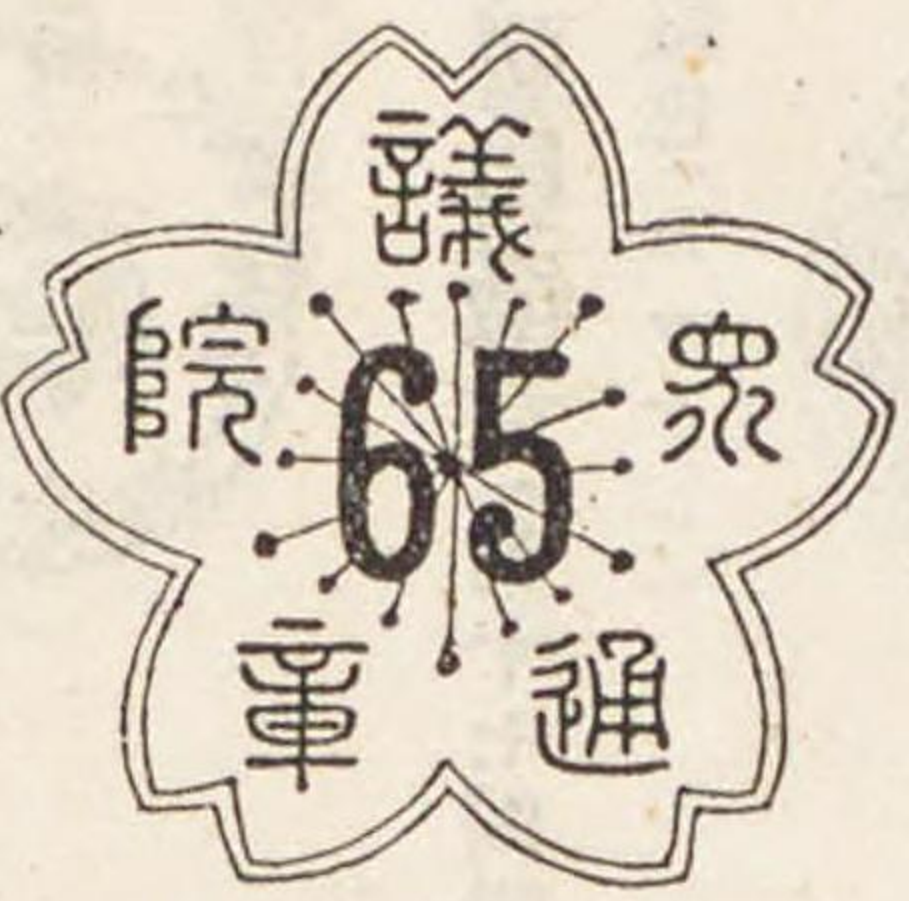
花瓣白桃色ノ二種文字金色(七寶燒) 側面



番號ヲ刻ス

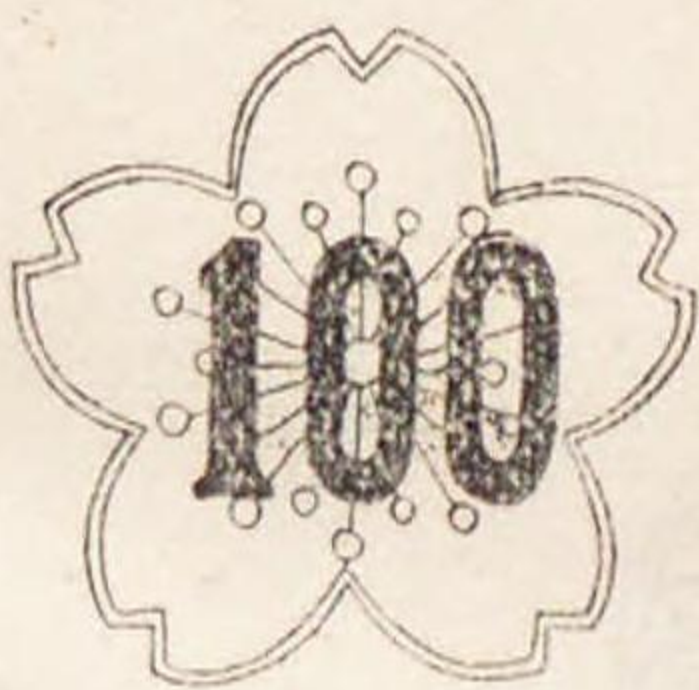
乙種通章徽章(大正三年一月改定)

花瓣金色番號銀色(眞鍮)



乙種通章徽章(大正四年一月新設)

花瓣白桃色ノ二種文字金色



二八 衆議院規則中改正

第一回議會 (明治二十三年十二月二日)

第三十條第二項中「行フ」ヲ「行ヒ」ニ改メ其ノ下ニ「多數ヲ得タル者ヲ以テ當選人トス」ヲ加フ

同上 (明治二十三年十二月十九日)

第三三條中「自己ノ氏名」ノ下ニ「若クハ番號」ヲ加ヘ第三十六條中「議員ノ氏名」ノ下ニ「若クハ番號」ヲ加ヘ同第二項中及第三十條中「氏名」ヲ削ル

第二回議會 (明治二十四年十一月二十七日)

第四十二條第一項第一號及第二號中「六十三人」ヲ「四十五人」ニ「二十七人」ヲ「十八人」ニ改メ第一百十六條中「スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ」ヲ「シ二十人以上ノ贊成者アルトキハ」ニ改メ第一百十六條第一項中「異議ヲ申立ル者」ヲ「異議ヲ申立二十人以上ノ贊成」ニ「氏名」ノ下ニ「若クハ番號」ヲ加ヘ同第二項中「二十」ヲ「三十」ニ改ム

同上 (明治二十四年十二月五日)

第七章「議事録」ノ下ニ「決議録」ヲ加ヘ第三百二十五條ノ次ニ左ノ一條ヲ加ヘ以下順次繰下ク

第三百二十六條 決議録ハ議場ノ決議ヲ記載ス

第三百二十六條第三百二十七條中「議事録」ノ下ニ「決議録」ヲ加フ

第八回議會 (明治二十八年二月五日)

第四十二條第一項第一號ノ次ニ左ノ一號ヲ加フ

二 決算委員

二十七人

第六十一條中「豫算委員」ノ下ニ「決算委員」ヲ加フ

第十七回議會（明治三十五年十二月十日）

第四十二條第一項第一號乃至第四號中「四十五人」ヲ「六十三人」ニ「二十七人」ヲ「四十五人」ニ

「十八人」ヲ「二十七人」ニ「三十六人」ヲ「四十五人」ニ改ム

第二十一回議會（明治三十七年十二月一日）

第十五條及第十六條ヲ左ノ如ク改ム

第十五條 議員ノ議席ハ每會期ノ始ニ於テ議長之ヲ定ム但シ必要ト認ムルトキハ之ヲ變更スル

コトヲ得

議席ニハ各號數ヲ付ス

第十六條 議長ハ議場ニ於テ議員ノ議席ヲ報告シタル後書記官ヲシテ抽籤セシメ議員ノ部屬ヲ

定ム

二九 法律ノ制定ニ關スル請願取扱規則

法律ノ制定ニ關スル請願取扱規則（明治三十九年三月二十一日決議）

第一條 請願委員會ニ於テ法律ノ制定ニ關スル請願ニシテ採擇スヘキモノト決シタルトキハ法律

案ヲ具シテ報告スルコトヲ得

第二條 前條ノ法律案ハ請願委員長ヲ以テ提出者トス

（備考）

原案竹越與三郎君外三名提出

一 請願委員會ニ於テ法律ノ制定又ハ改廢ヲ要スヘキ請願ニシテ採擇スヘキモノト決シタルトキハ其ノ案ヲ具シテ報告スヘシ

二 此ノ法律案ハ請願委員長又ハ請願委員會ノ主査之カ提出者トナルヘシ

三 此ノ法律案ハ定規ノ贊成者ヲ要セス第一讀會ニ付スヘキモノトス

三〇 投票ニ關スル規則

投票ニ關スル規則（明治四十二年十二月二十五日議決）

選舉又ハ表決ノ爲投票ヲ行フ場合ニハ議長ハ便宜議員ヲシテ各議席ニ於テ投票ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ議長ハ書記官ヲ議席ニ派遣シ其ノ投票ヲ受領セシム

三二 質問ニ關スル規則

質問ニ關スル規程(明治四十三年二月五日各派交渉會決定)

- 第一條 質問主意書ノ趣旨ヲ辯明セムトスル者ハ火曜日ノ會議ニ於テスヘシ但シ緊急ノ議事アルトキハ議長ハ質問ヲ議事日程ノ後ニ掲載シ又ハ次ノ火曜日ニ延期スルコトヲ得
- 第二條 質問提出者質問日ニ於テ其ノ趣旨ヲ辯明スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ議長ニ申出テ次ノ火曜日ニ延期スルコトヲ得
- 第三條 質問緊急ヲ要スルトキハ提出者ハ議長ノ許可ヲ經テ何時ニテモ其ノ趣旨ヲ辯明スルコトヲ得

三三 兩院協議會規程

兩院協議會規程(明治二十四年三月二日議決)

- 第一條 甲議院ニ於テ兩院協議會ヲ開クコトヲ求ムルトキハ其ノ件名及理由ヲ記シ文書ヲ以テ之ヲ乙議院ニ通知スヘシ
- 第二條 協議委員ノ數ハ協議會ヲ求ムル議院之ヲ定ム
- 第三條 協議會初會ノ日時ハ兩院議長ノ協議ニ依テ之ヲ定メ爾後會議ノ日時ハ協議會之ヲ定ム
- 第四條 協議會ハ協議室ニ於テ之ヲ開ク

- 第五條 協議會ハ兩院ノ委員各三分ノ二以上出席スルニアラサレハ議事ヲ開クコトヲ得ス
- 第六條 甲議院ノ出席委員乙議院ノ出席委員ヨリ多キトキハ表決ノ際抽籤ヲ以テ其ノ超過シタル數ノ委員ヲ減除ス但議長ハ其ノ數ニ算入セス
- 第七條 協議會ノ議長ハ會議ヲ整理シ秩序ヲ保持ス
- 第八條 協議會ノ議長自ラ討議ニ與ラントスルトキハ其ノ院ノ副議長ヲシテ代テ議長席ニ著カシムヘシ
- 第九條 協議委員ハ協議會ニ於テ同一ノ事件ニ付幾回タリトモ發言スルコトヲ得
- 第十條 協議會ニ於ケル動議ハ一名以上ノ贊成ニ依リ議題トナスヘシ
- 第十一條 協議會ノ議事ハ出席委員ノ過半數ヲ以テ決ス
- 第十二條 兩院ノ協議委員ハ各副議長一名ヲ選ヒ議長故障アルトキハ之ヲ代理セシム
議長副議長共ニ故障アルトキハ其ノ院ノ委員中ヨリ假議長ヲ選定シ議長ノ職務ヲ行ハシム
- 第十三條 協議會ノ議事録及議事速記録ハ各二部ヲ作り協議會ノ議長之ニ檢印スヘシ
- 第十四條 協議會ノ議事録及其ノ他ノ文書ハ各院ノ書記官ヲシテ之ヲ掌ラシム
- 第十五條 協議會ノ議事録又ハ議事速記録ノ記事ニ對シ異議アルトキハ協議會之ヲ決ス
- 第十六條 協議會ニ於テ懲罰事犯アルトキハ協議會ノ議長ハ之ヲ其ノ委員所屬議院ノ議長ニ報告シ處分ヲ求ムヘシ

三三三 列國議會同盟日本議員團規約附列國議會同盟規則

列國議會同盟日本議員團規約

第一條 日本帝國國會議員有志ハ列國議會同盟ニ參加ノ目的ヲ以テ日本議員團ヲ組織ス

第二條 列國議會同盟本部ニ對スル通信其他ノ事務ヲ取扱フ爲メ衆議院事務局内ニ其事務所ヲ設

ク

第三條 團體ニハ團長副團長各一名評議員十五名幹事二名ヲ置ク

團長ハ衆議院議長副團長ハ衆議院副議長ヲ以テ之ニ充テ評議員ハ團長之ヲ指名シ幹事ハ評議員ノ互選ニ依ル

第四條 團長ハ本團一切ノ事務ヲ指揮シ且ツ團體ヲ代表ス

幹事ハ團長ノ指揮ニ依リ團體ノ事務ヲ掌理ス

評議員ハ重要ノ事項ヲ評決ス

第五條 團長以下職員ノ任期ハ議員ノ任期ニ依ル但シ任期滿限ニ達スルモ後任者ノ選定セラル、迄ハ其職務ヲ繼續スヘシ

第六條 列國議會同盟ニ派遣スヘキ團員ハ團長之ヲ選定ス

團長ハ派遣ノ選ニ當リタル團員中ヨリ列國議會同盟評議員會ノ委員二名ヲ選定ス

第七條 團員總會ハ少クトモ毎年一回之ヲ開ク

第八條 列國議會同盟ニ提出スル議案ハ團員總會又ハ評議員會ノ決議ヲ以テスヘシ

列國議會同盟規則

第一章 目的及組織

第一條 列國議會同盟ノ目的ハ法制ノ規定若クハ國際條約ニヨリ關係列國ニ對シ各國間ノ紛議ハ國際公法上ノ自餘諸問題ノ處理ニ關スルカ如ク總テ仲裁裁判ニ附セラルヘキ原則ヲ承認セシメ

ンカ爲メニ共同動作ノ下ニ各國議員團ニ組織セラレタル各國議會議員ヲ集合スルニ在リ

第二條 列國議會同盟ノ所在地ハ他ノ決議アルマテ「ブルッセル」市ヲ以テ其所在地トナス

第三條 各國議會ニ於テ議員團ヲ組織シ及ヒ列國議會同盟事務局ト通信スヘキ事務局ヲ設置スヘシ(第四章參照)此各國議員團ハ其組織及管理ノ規則ヲ制定シ列國議會同盟事務局ニ對シ毎年三月終リマテニ其行動ノ報告書及其議員ノ名簿ヲ送付スル事ヲ要ス

第四條 左記ノ者ハ各國議院團ノ團員トナルコトヲ得

(イ) 各國議會ノ議員

(ロ) 前列國議會同盟評議員會委員

附錄

三三

列國議會同盟日本議員團規約附列國議會同盟規則

(ハ) 前國會議員ノ著シキ功績アルモノニシテ議員團ノ申出ニヨリ評議員會ノ許可ヲ經タルモ

第五條 列國議會同盟ハ各議員ニ對シ成ルヘク列國議會會議ノ決議ヲ舉ケテ之ヲ各自所屬國議會ニ告知シ其全權能ヲ以テ各國間平和ノ維持ニ協力センコトヲ要求ス

第二章 列國議會會議

第六條 反對ノ決議ノ存セサル限り列國議會同盟ハ毎年其指定市府ニ其會議ヲ開ク

開會地トシテ指定セラレタル邦國ノ議員團カ此開會地ノ選定ニ異議ヲ申立テタルトキハ列國議會同盟評議員會ハ必要ナル處置ヲ執ルヘシ

第七條 召集ハ列國議會同盟評議員會之レヲ行フ

第八條 會議ハ評議員會ノ議長又ハ其不在ノ時ハ開會地議員團指定ノ臨時議長之レヲ開會ス
本會議ニ於テ確定ノ議長副議長及投票検査役ヲ任命ス

第九條 討議ハ列國議會同盟評議員會カ日程ニ掲ケタル問題ニ關シテ之レヲ行フ

其他ノ動議及提議ハ列國議會會議カ之レヲ採用シ以テ列國議會同盟評議員會ノ意見及提出者ノ説明ヲ聽取シタルノ後三分ノ二ノ多數決ニヨリテ其討議ヲ許可シタル場合ニ非ラサレハ之レヲ本會議ノ討議ニ附スルコトヲ得ス

第十條 議決ハ舉手ヲ以テ之ヲ行フ

開會地ノ議員團ハ他ノ最多數ヲ有セル議員團ノ投票ヨリモ超過シテ投票ヲナスコトヲ得ス

此場合ニ於テハ開會地議員團ハ投票權ヲ行使スル者ヲ定ムヘシ

選舉ニ關スル投票ハ議員二十名以上ノ請求アルトキハ祕密投票ヲ以テ之レヲ行フ

第十一條 會議ノ議事録ハ一切ノ書類ト共ニ之レヲ列國議會同盟事務局ニ保存ス

第三章 列國議會同盟評議員會

第十二條 列國議會同盟評議員ハ規正ニ組織セラレタル一議員團毎ニ二名ノ割合ニテ各議員團ヨリ少ナクとも會議開會一ヶ月前ニ推薦セラレタル委員ヲ以テ之レヲ構成シ其任務ハ次回ノ會議マテ繼續ス

此推薦ハ直チニ列國議會同盟事務局ニ通知セララルヘク列國議會同盟事務局ハ直チニ本會議ニ通知スヘシ

委員缺員ノ場合ハ該所屬議員團其補缺者ヲ推薦ス

嘗テ會議ノ議長タリシモノハ評議員會ノ名譽委員トナル但議決權ヲ有セス

第十三條 新ニ推薦セラレタル評議員會ノ委員ハ其議長ヲ任命シ且自ラ評議員會ヲ構成スル爲メニ各會議ノ始メニ於テ集合ス

第十四條 列國議會同盟評議員會ノ權限ハ左ノ如シ

- 一、自ラ其規則ヲ定ム
- 二、各國ヨリ申出タル前國會議員ヲ議員トスルコトノ承諾
- 三、列國議會會議ヲ召集ス
- 四、會議ニ附スヘキ議案ヲ定ム
- 五、必要ニ應シテ審査委員會ヲ組織ス
- 六、規則改正ノ提議ニ對シ意見ヲ附ス
- 七、本會議ノ議長及副議長ヲ發議指定スルコト
- 八、執行委員會委員ノ推舉ヲナスコト
- 九、次回開會地ノ選定ニ關シテ豫メ其意見ヲ附スルコト
- 十、出納係及幹事長ヲ任命スルコト
- 十一、贈與及遺贈ノ受諾ヲ許可スルコト
- 十二、毎年ノ歲出入ヲ定ムルコト
- 十三、毎年二名ノ會計検査役ヲ任命シ其報告ニヨリ會計ヲ承認ス
- 十四、列國議會同盟ノ目的ヲ達スルニ必要ナルスヘテノ處置ヲ執ルコト

第四章 列國議會同盟事務局

第十五條 列國議會同盟事務局ハ列國議會同盟ノ處理及執行ノ機關トス而シテ規則ニヨリテ評議員會ヨリ委任セラレタル職務ヲ執行ス

第十六條 列國議會同盟事務局ハ異ナレハ議員團ニ屬スル五名ノ委員ヨリ成ル執行委員會ニヨリテ指揮セラレ

列國議會同盟評議員會ノ議長ハ當然執行委員會ノ委員及議長トナル他ノ委員ハ列國議會同盟評議員會委員中ヨリ本會議ニ於テ之レヲ指名ス委員ハ各會議毎ニ一人宛退職ス此場合ハ他ノ所屬議員團ノ議員ヲ以テ補缺者トナシ二年以内ニ於テハ再選セラレ、ヲ得ス缺員ノ場合ニハ列國議會同盟評議員會ニ於テ補缺者ヲ指名ス
新委員ハ前委員ノ任期ヲ繼ク執行委員會ハ其規則ヲ定ム又急ヲ要スル場合ハ列國議會同盟評議員會ヲ召集スル權ヲ有ス

第十七條 列國議會同盟事務局ノ職務左ノ如シ

- 一、各國議會議員團ノ名簿ヲ管掌シ其組織ヲカムルコト
- 二、各國議員團ノ中央機關トナルコト
- 三、評議員會及本會議ニ提出スヘキ問題ヲ準備シ必要ナル時機ニ於テ必要ナル記録ヲ頒付スル

コト

四、本會議及評議員會ノ決議ノ執行ニ任スルコト

五、文書ヲ管理シ且國際仲裁裁判ニ關スル書類竝ニ列國議會同盟ノ目的ニ關係スル其他ノ書類

ヲ蒐集スルコト

列國議會同盟事務局ノ指揮權ハ執行委員會ノ任命シタル幹事長ニ屬ス

第十八條 規則改正ノ發議ハ書面ヲ以テ少ナクトモ本會議開會ノ三ヶ月以前ニ之レヲ事務局ニ送

致スルコトヲ要ス

事務局ハ速カニ之レヲ各國議員團ニ通知ス

三四 各會期ニ於ケル召集令ト召集期日及期間比較表

會期	召集令發令	召集期日	期間
第一回	二十三年十月十日	二十五年十一月十五日	四十六日
第二回	二十四年十月九日	二十六年十一月十四日	四十三日
第三回	二十五年三月十九日	二十七年五月二日	四十四日
第四回	二十五年十月十三日	二十八年十一月十五日	四十三日
第五回	二十六年十月十三日	二十九年十一月十四日	四十三日
第六回	二十七年三月三十一日	三十年五月十二日	四十二日
第七回	二十七年九月二十二日	三十一年十月十五日	二十三日
第八回	二十八年十一月十二日	三十二年十一月十二日	四十一日

會期	召集令發布	召集期日	期間	會期	召集令發布	召集期日	期間
第九回	二十八年十一月十五日	三十年十二月五日	四十日	第十七回	三十五年十月十五日	三十七年十二月六日	四十二日
第十回	二十九年十一月七日	三十一年十二月二日	四十五日	第十八回	三十六年三月十六日	三十八年五月八日	四十三日
第十一回	三十年十一月十日	三十二年十一月十一日	四十一日	第十九回	三十六年十月十五日	三十八年十二月五日	四十四日
第十二回	三十一年四月二日	三十三年五月十四日	四十二日	第二十回	三十七年三月二日	三十九年三月十八日	十六日
第十三回	三十二年九月八日	三十四年十一月七日	四十日	第二十一回	三十七年十月十九日	三十九年十一月十八日	四十日
第十四回	三十三年十月四日	三十五年十一月四日	四十七日	第二十二回	三十八年十一月十三日	四十一年十二月五日	四十二日
第十五回	三十三年十一月八日	三十六年十二月二日	四十四日	第二十三回	三十九年十一月十五日	四十一年十二月五日	四十日
第十六回	三十四年十月二十六日	三十六年十一月十二日	四十二日	第二十四回	四十一年十一月十二日	四十三年十二月五日	四十四日
第十七回	三十五年十一月十五日	三十七年十二月五日	四十二日	第二十五回	四十二年十一月七日	四十四年十二月五日	四十四日
第十八回	三十六年十一月七日	三十八年十二月二日	四十三日	第二十六回	四十二年十一月九日	四十四年十二月五日	四十三日
第十九回	三十七年十一月十日	三十九年十二月七日	四十四日	第二十七回	四十三年十一月七日	四十五年十二月二日	四十三日
第二十回	三十八年十一月十日	四十一年十二月十日	四十三日	第二十八回	四十三年十一月十日	四十六年十二月三日	四十三日
第二十一回	三十九年十一月十日	四十二年十二月十日	四十三日	第二十九回	四十四年十一月十日	四十七年十二月三日	四十三日
第三十二回	四十二年十一月七日	四十四年十二月七日	四十四日	第三十回	四十四年十一月九日	四十七年十二月三日	四十五日
第三十三回	四十二年十一月二十二日	四十四年十二月二十二日	四十五日	第三十一回	四十四年十一月十三日	四十七年十二月三日	四十一日
第三十四回	四十二年十一月二十二日	四十四年十二月二十二日	四十三日	第三十二回	四十四年十一月十七日	四十七年十二月三日	四十七日
第三十五回	四十二年十一月二十二日	四十四年十二月二十二日	四十三日	第三十三回	四十四年十一月十七日	四十七年十二月三日	四十七日
第三十六回	四十二年十一月二十二日	四十四年十二月二十二日	四十三日	第三十四回	四十四年十一月十七日	四十七年十二月三日	四十七日
第三十七回	四十二年十一月二十二日	四十四年十二月二十二日	四十三日	第三十五回	四十四年十一月十七日	四十七年十二月三日	四十七日
第三十八回	四十二年十一月二十二日	四十四年十二月二十二日	四十三日	第三十六回	四十二年十一月二十二日	四十四年十二月二十二日	四十三日
第三十九回	四十二年十一月二十二日	四十四年十二月二十二日	四十三日	第三十七回	四十二年十一月二十二日	四十四年十二月二十二日	四十三日
第四十回	四十二年十一月二十二日	四十四年十二月二十二日	四十三日	第三十八回	四十二年十一月二十二日	四十四年十二月二十二日	四十三日

附錄 三四 各會期ニ於ケル召集令ト召集期日及期間比較表

召集期日	六月二十日	九月三日	三月五日	五月十七日
期 間	四十二日	十一日	四十日	四十八日

(備考)

集會ノ期日ハ期間中ニ算入セズ

三五 議院成立ト開院式ノ期間比較表

會 期	議院成立	開院式	期 間	會 期	議院成立	開院式	期 間
第一回	二十三年十二月十七日	同月十九日	二日	第九回	二十八年十二月八日	同月十八日	十日
第二回	二十四年十二月二十日	同月二十六日	五日	第十回	二十九年十二月十三日	同月二十五日	十二日
第三回	二十五年五月四日	同月六日	二日	第十一回	三十年十二月十四日	同月二十四日	十日
第四回	二十五年十二月十五日	同月十九日	四日	第十二回	三十一年五月十七日	同月九日	十日
第五回	二十六年十二月十七日	同月十八日	一日	第十三回	三十一年十一月十日	十二月三日	二十三日
第六回	二十七年五月十四日	同月十五日	一日	第十四回	三十二年十二月十二日	同月二十日	八日
第七回	二十七年十月十六日	同月十八日	二日	第十五回	三十三年十二月十五日	同月二十五日	十日
第八回	二十七年十二月十七日	同月二十四日	七日	第十六回	三十四年十二月七日	同月十日	三日

會 期	議院成立	開院式	期 間	會 期	議院成立	開院式	期 間
第十七回	三十五年十二月八日	同月九日	一日	第二十五回	四十一年十二月十四日	同月二十五日	十一日
第十八回	三十六年五月十一日	同月十二日	一日	第二十六回	四十二年十二月二十日	同月二十四日	四日
第十九回	三十六年十二月七日	同月十日	三日	第二十七回	四十三年十二月二十日	同月二十三日	三日
第二十回	三十七年三月十九日	同月二十日	一日	第二十八回	四十四年十二月十五日	同月二十七日	十二日
第二十一回	三十七年十一月十日	同月三十日	二十日	第二十九回	大正元年八月二十二日	同月二十三日	一日
第二十二回	三十八年十二月十五日	同月十八日	三日	第三十回	元年十二月十四日	同月二十七日	十三日
第二十三回	三十九年十二月十五日	同月十八日	三日	第三十一回	二年十二月十四日	同月二十六日	十二日
第二十四回	四十年十二月七日	同月十八日	十一日	第三十二回	三年五月四日	同月五日	一日

三六 議長及副議長候補者選舉及奏上ト勅任ノ期間比較表

附錄 三五 議院成立ト開院式ノ期間比較表

會期	選舉	奏上	勅任	會期	選舉	奏上	勅任	會期	選舉	奏上	勅任
第一回	二十三年十二月二十五日	同日	翌日	第二十八回	四月二十四日 (議長補選)	同日	翌日	第二十九回	大正元年八月二十日	同日	同日
第三回	二十五年五月二日	同日	翌日	第三十一回	大正三年三月十七日 (議長補選)	同日	翌日				
第五回	二十六年十二月十四日 (副議長補選)	同日	翌日								
第六回	二十七年五月十二日	同日	同日								
第七回	二十七年十月十五日	同日	同日								
第十回	二十九年十二月二十二日 (議長補選)	同日	同日								

三七 本會議開會日數比較表

會期	貴族院	衆議院	會期	貴族院	衆議院	會期	貴族院	衆議院	會期	貴族院	衆議院
第一回	四十八日	六十三日	第九回	四十六日	六十三日	第十七回	四十九日	六十三日	第二十五回	二十一日	二十九日
第二回	二十二日	二十四日	第十回	二十七日	二十四日	第十八回	三十三日	二十四日	第二十六回	十九日	二十九日
第三回	二十七日	二十八日	第十一回	二日	二十八日	第十九回	二日	二十八日	第二十七回	二十一日	二十九日
第四回	四十二日	四十七日	第十二回	十七日	四十七日	第二十回	十六日	四十七日	第二十八回	十五日	二十九日
第五回	十一日	二十日	第十三回	四十五日	二十日	第二十一回	四十六日	二十日	第二十九回	二日	二十九日
第六回	十七日	十七日	第十四回	三十三日	十七日	第二十二回	三十四日	十七日	第三十回	十二日	二十九日
第七回	三日	四日	第十五回	十九日	四日	第二十三回	二十日	四日	第三十一回	十八日	二十九日
第八回	四十二日	五十三日	第十六回	二十六日	五十三日	第二十四回	二十九日	五十三日	第三十二回	二日	二十九日

衆議院	二十六日	二十七日	二十六日	二十六日	二	日	十六日	二十七日	二	日
會期	第三十三回	第三十四回	第三十五回	平均						
貴族院	三日	三日	六日							
衆議院	三日	五日	十日							

(備考)

解散セラレタル議會憲法第四十五條ニ依レル議會及臨時議會即チ第二回、第三回、第五回、第六回、第七回、第十一回、第十二回、第十七回、第十八回、第十九回、第二十回、第二十九回及第三十二回乃至第三十五回議會ハ平均日數中ニ算入セス

三八 開院式日ト豫算案提出日ノ期間比較表

會期	開院式	提出日	期間	備考
第一回	明治二十三年十一月二十九日	明治二十三年十二月三日	四日	(十二月三十日ハ日曜日)
第二回	二十四年十一月二十六日	二十四年十一月二十八日	二日	
第三回(特別)	二十五年五月六日	二十五年五月七日	一日	

第四回	二十五年十一月二十九日	二十五年十二月二十九日	當日	
第五回	二十六年十一月二十八日	二十六年十一月二十九日	一日	
第六回(特別)	二十七年五月十五日	二十七年五月十五日	當日	
第七回(臨時)	二十七年十月十八日	二十七年十月十八日	同日	
第八回	二十七年十二月二十四日	二十八年一月八日	十五日	年末年始休會後提出
第九回	二十八年十二月二十八日	二十九年一月九日	十二日	同上
第十回	二十九年十二月二十五日	三十年一月十九日再提出	二十四日	撤回セラレタル豫算ハ年末年始休會(一月七日迄)後ニ提出
第十一回	三十年十二月二十四日	三十年十二月二十五日	一日	
第十二回(特別)	三十一年五月十九日	三十一年五月十九日	當日	
第十三回(特別)	三十一年十二月三日	三十一年十二月五日	二日	
第十四回	三十二年十一月二十二日	三十二年十一月二十四日	二日	
第十五回	三十三年十二月二十五日	三十四年一月二十二日	二十八日	年末年始休會後提出
第十六回	三十四年十二月十日	三十四年十二月三十日	當日	撤回セラレタル豫算ハ當日提出
第十七回	三十五年十二月九日	三十五年十二月十日	一日	

回数	期	休會日數	期	間	發議者
第十八回(別特)	三十六年五月十二日		三十六年五月十四日	二日	解散ノ爲豫算案ノ提出ナシ
第十九回	三十六年十二月十日				
第二十回(時臨)	三十七年三月二十日		三十七年三月二十二日	二日	
第二十一回	三十七年十一月三十日		三十七年十一月三十日	當日	
第二十二回	三十八年十二月二十八日		三十九年一月二十五日	二十八日	年未年始休會後提出 (三十九年五月豫算案ノ審査) 期日ヲ二十一日ト改正
第二十三回	三十九年十二月二十八日		四十年一月二十二日	二十五日	同上
第二十四回	四十年十二月二十八日		四十一年一月二十二日	二十五日	同上
第二十五回	四十一年十二月二十五日		四十二年一月二十一日	二十七日	同上
第二十六回	四十二年十二月二十四日		四十三年一月二十一日	二十八日	同上
第二十七回	四十三年十二月二十三日		四十四年一月二十一日	二十九日	同上
第二十八回	四十四年十二月二十七日		四十五年一月二十三日	二十七日	同上
第二十九回(時臨)	元年八月二十三日	大正	元年八月二十三日	當日	撤回セラレタル豫算ノ提出ハ 内閣更迭ノ爲豫算編成遲延シ タルニ依ル
第三十回	元年十二月二十七日		二年二月二十七日	四十日 六十二日	年未年始休會後提出
第三十一回	二年十二月二十六日		三年一月二十一日	二十六日	

三九 年未年始休會表

第三十二回(時臨)	三年五月五日	三年五月五日	當日	
第三十三回(時臨)	三年六月二十二日	三年六月二十二日	同日	
第三十四回(時臨)	三年九月四日	三年九月四日	同日	
第三十五回	三年十二月七日	三年十二月八日	一日	

會期	休會日數	期	間	發議者
第一回議會	十三日間	自明治二十三年十二月二十六日 至同二十四年一月七日	議	長
第四回議會	十五日間	自明治二十五年十二月二十五日 至同二十六年一月八日	議	長
第八回議會	十三日間	自明治二十七年十二月二十六日 至同二十八年一月七日	議	長
第九回議會	九日間	自明治二十八年十二月三十日 至同二十九年一月七日	議	長
第十回議會	十二日間	自明治二十九年十二月二十七日 至同三十年一月七日	議	長
第十三回議會	二十二日間	自明治三十一年十二月二十五日 至同三十二年一月十五日	星 亨君	
第十四回議會	二十六日間	自明治三十二年十二月二十日 至同三十三年一月十四日	星 亨君	

衆議院	第二十七回		第二十八回		第三十回		第三十一回	
	日數	期間	日數	期間	日數	期間	日數	期間
自四月二十三日至四月二十五日 至四月二十四日 至四月二十六日 至四月二十七日	二十七		自四月十四日至四月十九日 至四月二十日 至四月二十一日 至四月二十二日	二十三		自大正元年正月二十九日至二月二十九日 至正月二十九日 至正月二十九日	二十三	
自四月二十三日 至四月二十四日 至四月二十五日	同		同	同	同	同	同	

(備考)

解散セラレタル議會憲法第四十五條ニ依レル議會及臨時議會即チ第二回、第三回、第五回、第六回、第七回、第十一回、第十二回、第十七回、第十八回、第十九回、第二十回、第二十九回及第三十二回乃至第三十五回議會八年末年始ニ際セサルヲ以テ本表中ニ算入セス

四一 會期終了ト閉會式ノ期間比較表

會期	閉會式	會期終了
第一回	三月二十四日	三月二十四日
第二回	三月二十四日 (三十四年十二月二十五日解散)	三月二十四日 (三十四年十二月二十五日解散)
第三回	六月十四日	六月十四日
第四回	三月一日	三月一日
第五回	三月二十六日 (三十四年十二月三十日解散)	三月二十六日 (三十四年十二月三十日解散)
第六回	三月二十六日 (二十七年六月三日解散)	三月二十六日 (二十七年六月三日解散)
第七回	十月二十四日	十月二十四日
第八回	三月二十三日	三月二十三日
第九回	三月二十九日	三月二十九日
第十回	三月二十四日 (三十年十二月十五日解散)	三月二十四日 (三十年十二月十五日解散)
第十一回	三月二十九日 (三十一年六月十日解散)	三月二十九日 (三十一年六月十日解散)
第十二回	三月二十九日	三月二十九日
第十三回	三月九日	三月九日
第十四回	三月二十三日	三月二十三日
第十五回	三月二十四日	三月二十四日
第十六回	三月九日	三月九日

會期	閉會式	會期終了
第十七回	三月二十九日	三月二十九日 (三十五年十二月二十八日解散)
第十八回	六月五日	六月五日
第十九回	三月十四日 (三十六年十二月十一日解散)	三月十四日 (三十六年十二月十一日解散)
第二十回	三月三十日	三月三十日
第二十一回	三月二十八日	三月二十八日
第二十二回	三月二十八日	三月二十八日
第二十三回	三月二十八日	三月二十八日
第二十四回	三月二十七日	三月二十七日
第二十五回	三月二十四日	三月二十四日
第二十六回	三月三十日	三月三十日
第二十七回	三月二十二日	三月二十二日
第二十八回	三月二十五日	三月二十五日
第二十九回	三月二十五日	三月二十五日
第三十回	三月二十六日	三月二十六日
第三十一回	三月二十五日	三月二十五日
第三十二回	三月七日	三月七日
第三十三回	三月九日	三月九日
第三十四回	三月九日	三月九日
第三十五回	三月十二日 (五年十二月二十五日解散)	三月十二日 (五年十二月二十五日解散)

(備考)

第八回議會ニ於テハ會期終了ノ翌日日曜日ニ相當シタル爲順延トナリ更ニ事故ノ爲三日間延引トナレリ

又第七回臨時議會ニ於テハ議案ヲ議了セル爲會期中ナルニ拘ラス閉會式ヲ行ハセラル

第二十七回議會ノ會期終了日ハ春季皇靈祭ニ付其ノ前日ヲ以テ議事ヲ終結シタリ

第三十一回議會ハ三月二十三日ヨリ會期終了當日迄停會ヲ命セラレ其儘閉會ト爲レリ

四二 會期終了日ニ於ケル兩院散會時間比較表

第一回議會	會(二十四年三月七日)	衆貴	議族	院院	午後五時五十五分
第三回議會	會(二十五年六月十四日)	衆貴	議族	院院	午後十時四十八分
第四回議會	會(二十六年二月二十八日)	衆貴	議族	院院	午後五時五十七分
第七回(臨時)議會	會(二十七年十月二十一日)	衆貴	議族	院院	午後一時四十一分
第八回議會	會(二十八年三月二十三日)	衆貴	議族	院院	午後三時五十一分
第九回議會	會(二十九年三月二十八日)	衆貴	議族	院院	午後五時二十五分
第十回議會	會(三十年三月二十四日)	衆貴	議族	院院	午後二時四十五分
第十三回議會	會(三十二年三月九日)	衆貴	議族	院院	午後九時五十九分

第十四回議會	會(三十三年二月二十三日)	衆貴	議族	院院	午後七時五十二分
第十五回議會	會(三十四年三月二十四日)	衆貴	議族	院院	午後六時十四分
第十六回議會	會(三十五年三月九日)	衆貴	議族	院院	午後零時五十八分
第十八回議會	會(三十六年六月四日)	衆貴	議族	院院	午後二時十一分
第二十回(臨時)議會	會(三十七年三月二十九日)	衆貴	議族	院院	午後四時四十七分
第二十一回議會	會(三十八年二月二十七日)	衆貴	議族	院院	午後二時二十五分
第二十二回議會	會(三十九年三月二十七日)	衆貴	議族	院院	午後三時十七分
第二十三回議會	會(四十年三月二十七日)	衆貴	議族	院院	午後三時十七分
第二十四回議會	會(四十一年三月二十六日)	衆貴	議族	院院	午後八時二十六分
第二十五回議會	會(四十二年四月一日)	衆貴	議族	院院	午後七時四十二分
第二十六回議會	會(四十三年三月二十三日)	衆貴	議族	院院	午後四時三十五分
第二十七回議會	會(四十四年三月二十一日)	衆貴	議族	院院	午後零時四十七分
第二十八回議會	會(四十五年三月二十五日)	衆貴	議族	院院	午後六時三十一分
第二十九回(臨時)議會	會(大正元年八月二十四日)	衆貴	議族	院院	午後七時五十三分
第三十回議會	會(二年三月二十六日)	衆貴	議族	院院	午後一時十九分

- 第三十一回議會(三月二十三日)
- 第三十二回(臨時)議會(五月六日)
- 第三十三回(臨時)議會(六月二十八日)
- 第三十四回(臨時)議會(九月九日)

衆貴	衆貴	衆貴	衆貴
議族	議族	議族	議族
院院	院院	院院	院院
午後四時四十八分	午後四時五十三分	午後一時五十四分	午後二時四十七分
午前九時三十七分	午前九時三十七分	午前九時三十七分	午前九時三十七分

第二回、第五回、第六回、第十一回、第十二回、第十七回、第十九回及第三十五回議會ハ解散ニ係ル

四三 特別委員(協議委員ヲ包含ス)ノ選舉方法一覽表

計	議長指名	各部選舉	各部通算選舉	議場選舉	會期及選舉方法											
					特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員
二	二	一五	一	三	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員
二〇	二	九	八	一	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員
二三	九		一四		特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員
一三七	二三	九	一五		特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員
三三	三一		二	三	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員
三三	二五	四	三		特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員
一七	一				特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員
七五	七五				特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員
二六五	二六三	二			特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員
二六四	二六四				特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員
三	三				特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員

計	議長指名	各部選舉	各部通算選舉	議場選舉	會期及選舉方法											
					特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員		
三五	三五				特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員
一四二	一四二				特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員
一〇二	一〇二				特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員
一〇〇	一〇〇				特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員
三八	三八				特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員
二二六	二二六				特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員
二				一	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員
四	四				特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員
三四	三四				特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員
一四	一四				特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員
一四	一四				特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員	特別委員	協議員

附錄 四三 特別委員(協議委員ヲ包含ス)ノ選舉方法一覽表

計	當日公報 依レルモノ	即日 時	即日 日	次 會	指 名 時 期	會 期	計	當日公報 依レルモノ	即日 時	即日 日	次 會	指 名 時 期	會 期	計												
															第十回	第十一回	第十二回	第十三回	第十四回	第十五回	第十六回	第十七回	第十八回	第十九回	第二十回	第二十一回
一〇七	九八	四	五			第二十回	一五二						第十三回	二												
九三	八八	四	一			第二十回	一四二						第十四回	二												
一一三	一〇七	一	五			第二十回	八三	七	一六	五九	一		第十五回	九												
八九	六〇	二	二七			第二十回	一二六	一六	一二	九八			第十六回	二四												
一		一				第二十回	四			三	一		第十七回	二八												
六六	六五	一				第三十回	三四	一四	四	一六			第十八回	二六												
一〇六	一〇五	一				第三十回							第十九回	七												
一		一				第三十回	一四	一一	二	一			第二十回	七七												
一		一				第三十回	一〇五	七	三	九五			第二十回	七〇												
五		一	四			第三十回	一〇二	六五	四	三三			第二十回	六七												
三七	三六	一				第三十回	八六	三〇	二	五四			第二十回													
三七一	七九〇	九五	六二一	四〇九		總計	一〇一	八一	二	一八			第二十回	三五												

四四 議長指名一覽表

計	當日公報 依レルモノ	即日 時	即日 日	次 會	指 名 時 期	會 期	計	議長指名	各部選舉	各部通算選舉	議場選舉	選舉 方法	會期及 委員		
													特別 委員	協議 委員	特別 委員
一〇六						第一回		一〇六						第三十一回	特別 委員
一						第二回						一		第三十二回	特別 委員
一						第三回		一						第三十三回	特別 委員
一						第四回		一						第三十四回	特別 委員
五						第五回		五						第三十五回	特別 委員
三七						第六回		三七						第三十六回	特別 委員
一、九一五						第七回		一、九一五	四〇	四五	七			總計	
二						第八回		二							
四						第九回		四							
二						第十回		二							
一						第十一回		一							
一						第十二回		一							
五						第十三回		五							
二						第十四回		二							
九						第十五回		九							
二四						第十六回		二四							
二八						第十七回		二八							
二六						第十八回		二六							
七						第十九回		七							
七七						第二十回		七七							
七〇						第二十一回		七〇							
六七						第二十二回		六七							
						第二十三回									
						第二十四回									
						第二十五回									
						第二十六回									
						第二十七回									
						第二十八回									
						第二十九回									
						第三十回									
						第三十一回									
						第三十二回									
						第三十三回									
						第三十四回									
						第三十五回									
						總計									

四五 特別委員ノ員數一覽表

會期	員數	九名	十八名	二十七名	三十六名	四十五名	六十三名	計
第一回	二							二
第二回	二五	四	一					二〇
第三回	二二	一						二三
第四回	三七							三七
第五回	三四							三四
第六回	三〇	二						三二
第七回(時臨)	七							七
第八回	七二	三						七五
第九回	五〇	一三	二					六五
第十回	五六	七	一					六四
第十一回								

第十二回	二七	五	三					三五
第十三回	一三一	八	三					一四二
第十四回	一三三	六	一					一四〇
第十五回	七七	三	一					八一
第十六回	一一一	四	一					一二六
第十七回	二	一	一					四
第十八回	二六	七	一					三四
第十九回								
第二十回(時臨)	八	三	二			一		一四
第二十一回	九〇	一七	二		一			一一〇
第二十二回	七三	二〇	五		三			一〇二
第二十三回	六四	一九	一			一		八五
第二十四回	七一	二〇	七			二		一〇〇
第二十五回	五九	三五	一		一			一〇六

第二十六回	六九	一三	五	五	九二
第二十七回	八八	一五	七	五	一一〇
第二十八回	七九	九	一	一	九〇
第二十九回 (時臨)		一			一
第三十回	五五	九	二		六六
第三十一回	八九	一六	一		一〇六
第三十二回 (時臨)		一			一
第三十三回 (時臨)	一				一
第三十四回 (時臨)		五			五
第三十五回	三一	六			三七
總計	一、六三八	二五三	五九	二	四
				一	一、九六六

附錄畢

大正四年五月十五日印刷
 大正四年五月十七日發行

衆議院事務局
 印刷者 印刷局

河

大五四辛正良十五日
大五四辛正良十五日

樂臨到車商風

子

14.3
3/10

